攻めの農林水産業

Create Agribusiness!

Agribusiness Creation Fair 2014

アグリビジネス創出フェア

11.12(Wed.)-14(Fri.) 10:00-17:00 東京ビッグサイト 西4ホール http://agribiz-fair.jp/

農林水産省

目次

主催者挨拶 …… P. 1

展示会案内図 …… P. 2

出展者一覧〈小間番号順〉 …… P. 2

コーディネーターによるマッチングについて …… P. 4

イベントスケジュール …… P. 6

講演者等紹介 …… P. 9

出展者紹介 …… P. 24

出展者一覧〈50音順〉 …… P. 52

開催概要

名　　称：アグリビジネス創出フェア2014（Agribusiness Creation Fair 2014）

開催日時：2014年11月12日(水)～14日(金)の3日間　10:00～17:00
（開会セレモニー　12日　9:45～10:00）

会　　場：東京ビッグサイト　西4ホール

主　　催：**農林水産省**

後　　援：内閣府／文部科学省／経済産業省／特許庁／(独)農業・食品産業技術総合研究機構／(独)農業生物資源研究所／(独)農業環境技術研究所／(独)国際農林水産業研究センター／(独)森林総合研究所／(独)水産総合研究センター／(独)家畜改良センター／(独)水産大学校／ (独)科学技術振興機構／(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構／(独)中小企業基盤整備機構／(独)種苗管理センター／(公社)農林水産・食品産業技術振興協会／(一社)日本経済団体連合会／(一財)食品産業センター／日本弁理士会／全国農学系学部長会議／日本農学会／特定非営利活動法人 産学連携学会／全国農業新聞／日本農業新聞／日本食糧新聞社／日刊工業新聞社／フジサンケイビジネスアイ／日経バイオテク／(株)日本政策金融公庫

入 場 料：無　料

開催主旨：アグリビジネス創出フェア2014は全国の産学の各機関の有する農林水産・食品分野などの最新技術や研究成果を展示やプレゼンテーションなどで分かりやすく紹介し、研究機関間や研究機関と事業者との連携を促す場として開催する「技術・交流展示会」です。

開催内容：①一般展示エリア

「生産」ゾーン	栽培、植物工場、水産、畜産、新品種育成、ゲノム、ICT、ウィルス対策等に関する技術シーズの展示
「 食 」ゾーン	食の機能性、流通、食品加工、品質保持、日本食の評価、国際展開等に関する技術シーズの展示
「環境」ゾーン	環境計測、環境創造、土壌診断、リサイクル、バイオマス利活用、低投入型生産、環境負荷軽減、自然エネルギー、省エネルギー、高機能性素材等に関する技術シーズの展示
「地域」ゾーン	地域資源の活用、6次産業化、農山漁村の課題解決、地域の科学技術振興等に関する技術シーズの展示
「 人 」ゾーン	研究開発支援や技術移転等による研究者の支援、産学連携支援、人材育成等に関する展示

②基調講演・セミナー・パネルディスカッション・研究成果発表会・表彰式

③研究技術プレゼンテーション

④各種マッチングサポート

主催者挨拶

「アグリビジネス創出フェア2014」にご来場いただき、誠にありがとうございます。
本フェアは、産学の各機関が農林水産・食品分野に関する最新の技術を持ち寄り交流することを通じ、新たなビジネスの芽を創造するための技術交流・展示会です。11回目となります今年は「攻めの農林水産業」をテーマとして掲げ、全国147機関に御出展いただき開催いたします。例年以上に活発な展示会となることを期待しております。

さて、私ども農林水産省では、安倍内閣として急ぎ着手すべき政策改革の内容を示す「農林水産業・地域の活力創造プラン」を着実に実行していくため、本年９月に私を本部長とする「攻めの農林水産業実行本部」を立ち上げたところです。焦点をしっかりと定めながら、施策を推進する上で必要となる課題の把握や、その解決策に加え、農林漁業者の所得の向上や、地域のにぎわいの創出に向け、更なる方策を検討していきたいと考えております。

これからの農林水産行政は、新たな需要を切り拓いていくことが重要です。このため、技術開発の分野におきましても、農業者や産業界のニーズをより一層踏まえた研究プロジェクトを実施し、新たな需要の創出に対応した農林水産業・食品産業に係る技術開発を推進します。
もちろん、農業の競争力強化を図るため、生産現場の強化も重要です。このため、生産性の向上に向けたロボット技術など革新的技術の導入を進めます。

また、農山漁村ににぎわいを取り戻すためには、強い農林水産業を実現するとともに、農林水産業の周辺産業を農山漁村に取り込む必要があります。このアグリビジネス創出フェア2014は、研究者のみならず、生産者、事業者など、様々な分野の最前線で活躍されている方が参加される農林水産・食品産業分野における貴重な交流の機会です。若者に魅力ある農林水産業の実現に向け、是非、この機会を、革新的技術を核に、多様な機関の交流･連携を加速する契機として活用して頂くことを期待します。

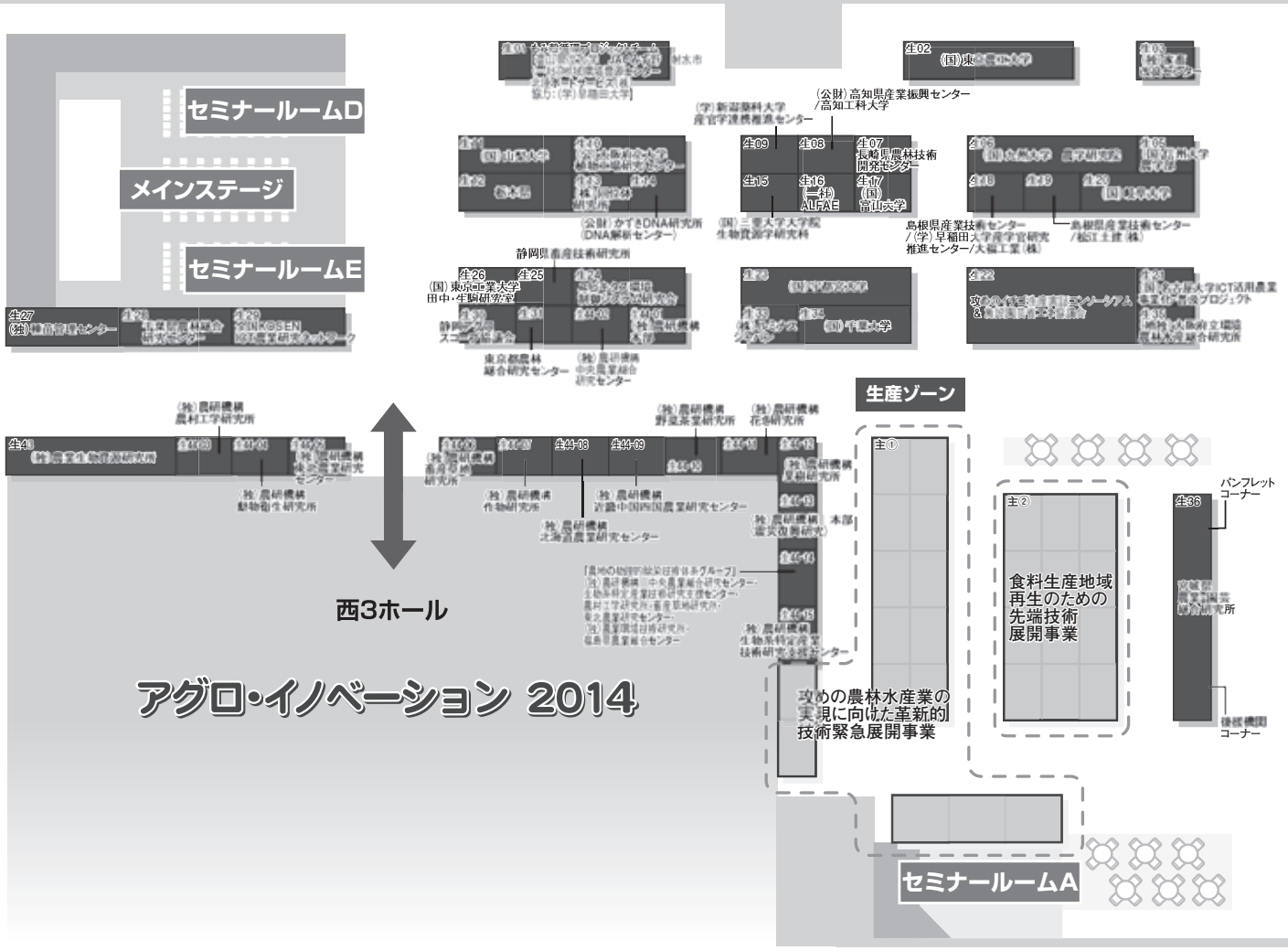
最後になりましたが、本日御来場の皆様、並びに御展示の皆様の交流の中から多くのイノベーションが誕生することを強く祈念し、挨拶とさせていただきます。

平成26年11月

農林水産大臣　西川 公也

展示会案内図・出展者一覧〈小間番号順〉

西4

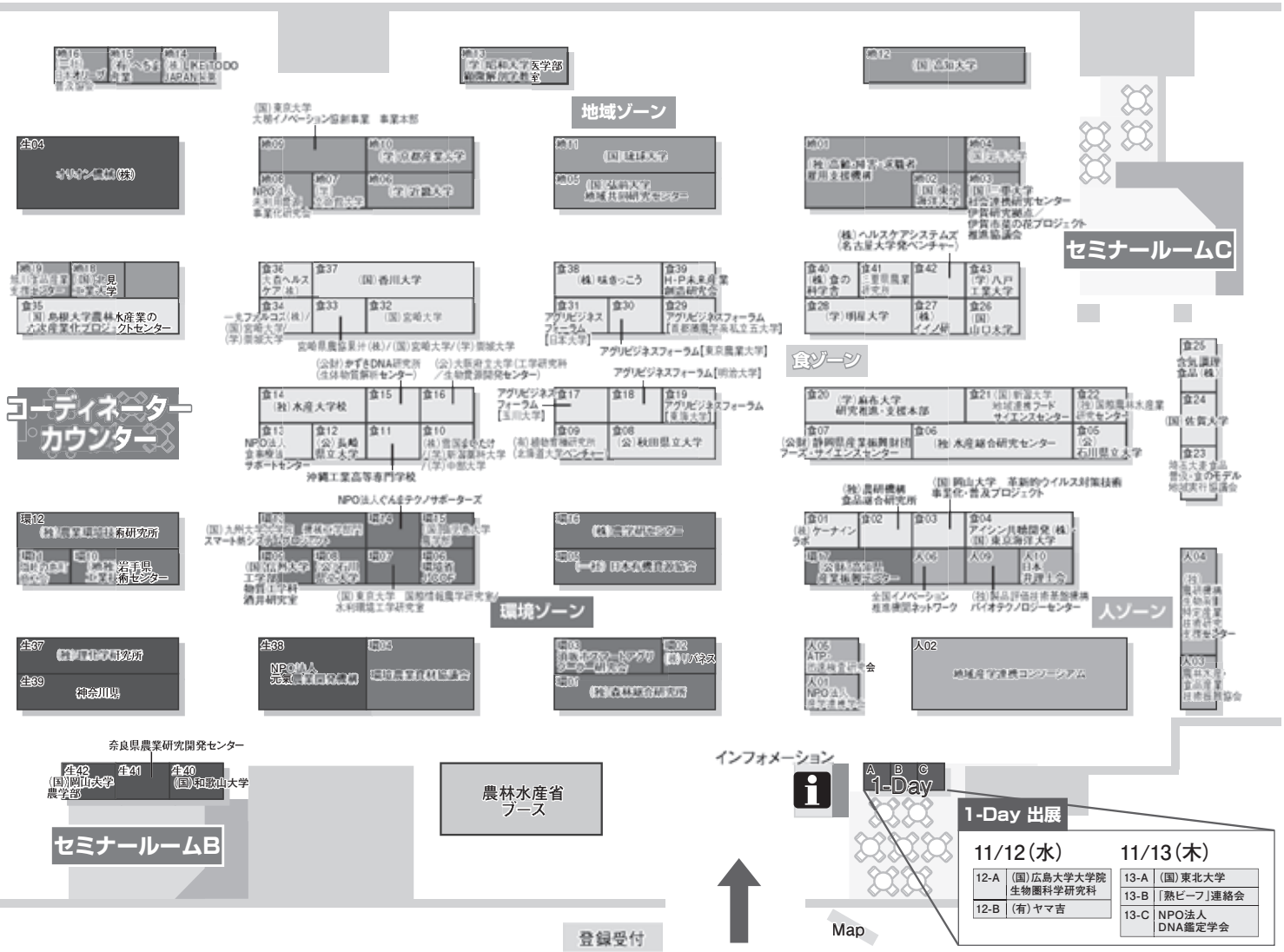


小間No.	出展者名	ページ
	生産ゾーン	
生01	もみ殻循環プロジェクトチーム【富山県立大学　JAいみず野　射水市　(一社)地域環境資源センター　北陸ポートサービス(株)　協力:(学)早稲田大学】	P.24
生02	(国)東京農工大学	P.24
生03	(独)家畜改良センター	P.24
生04	オリオン機械(株)	P.24
生05	(国)信州大学農学部	P.24
生06	(国)九州大学　農学研究院	P.25
生07	長崎県農林技術開発センター	P.25
生08	(公財)高知県産業振興センター/(公)高知工科大学	P.25
生09	(学)新潟薬科大学　産官学連携推進センター	P.25
生10	(公)大阪府立大学　植物工場研究センター	P.25
生11	(国)山梨大学	P.25
生12	栃木県	P.26
生13	(株)同位体研究所	P.26
生14	(公財)かずさDNA研究所(DNA解析センター)	P.26
生15	(国)三重大学大学院生物資源学研究科	P.26
生16	(一社)ALFAE	P.26
生17	(国)富山大学	P.26
生18	島根県産業技術センター/(学)早稲田大学産学官研究推進センター/大福工業(株)	P.27
生19	島根県産業技術センター/松江土建(株)	P.27
生20	(国)岐阜大学	P.27
生21	(国)名古屋大学 ICT 活用農業　事業化・普及プロジェクト	P.27
生22	攻めのイチゴ生産実証コンソーシアム&施設園芸省エネ協議会	P.27
生23	(国)宇都宮大学	P.27
生24	ユビキタス環境制御システム研究会	P.28
生25	静岡県畜産技術研究所	P.28

小間No.	出展者名	ページ
生26	(国)東京工業大学　田中・生駒研究室	P.28
生27	(独)種苗管理センター	P.28
生28	千葉県農林総合研究センター	P.28
生29	全国KOSEN ICT農業研究ネットワーク	P.28
生30	静岡アグロスコープ協議会	P.29
生31	東京都農林総合研究センター	P.29
生33	(株)ルミナスジャパン	P.29
生34	(国)千葉大学	P.29
生35	(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所	P.29
生36	宮城県農業・園芸総合研究所	P.29
生37	(独)理化学研究所	P.30
生38	NPO法人元氣農業開発機構	P.30
生39	神奈川県	P.30
生40	(国)和歌山大学	P.30
生41	奈良県農業研究開発センター	P.30
生42	(国)岡山大学農学部	P.30
生43	(独)農業生物資源研究所	P.31
生44-01	(独)農研機構　本部	P.31
生44-02	(独)農研機構　中央農業総合研究センター	P.31
生44-03	(独)農研機構　農村工学研究所	P.31
生44-04	(独)農研機構　動物衛生研究所	P.31
生44-05	(独)農研機構　東北農業研究センター	P.31
生44-06	(独)農研機構　畜産草地研究所	P.32
生44-07	(独)農研機構　作物研究所	P.32
生44-08	(独)農研機構　北海道農業研究センター	P.32
生44-09	(独)農研機構　近畿中国四国農業研究センター	P.32
生44-10	(独)農研機構　野菜茶業研究所	P.32
生44-11	(独)農研機構　花き研究所	P.32
生44-12	(独)農研機構　果樹研究所	P.33

小間No.	出展者名	ページ
生44-13	(独)農研機構　本部　(震災復興研究)『農地の物理的除染技術体系グループ』	P.33
生44-14	(独)農研機構　中央農業総合研究センター・生物系特定産業技術研究支援センター・農村工学研究所・畜産草地研究所・東北農業研究センター・(独)農業環境技術研究所・福島県農業総合センター	P.33
生44-15	(独)農研機構　生物系特定産業技術研究支援センター	P.33
	食ゾーン	
食01	(株)ケーナインラボ	P.33
食02	(独)農研機構　食品総合研究所	P.34
食03	(国)岡山大学　革新的ウイルス対策技術事業化・普及プロジェクト	P.34
食04	アイシン共聴開発(株)・(国)東京海洋大学	P.34
食05	(公)石川県立大学	P.34
食06	(独)水産総合研究センター	P.34
食07	(公財)静岡県産業振興財団　フーズ・サイエンスセンター	P.34
食08	(公)秋田県立大学	P.35
食09	(有)植物育種研究所(北海道大学ベンチャー)	P.35
食10	(株)雪国まいたけ/(学)新潟薬科大学/(学)中部大学	P.35
食11	沖縄工業高等専門学校	P.35
食12	(公)長崎県立大学	P.35
食13	NPO法人食事療法サポートセンター	P.35
食14	(独)水産大学校	P.36
食15	(公財)かずさDNA研究所(生体物質解析センター)	P.36
食16	(公)大阪府立大学(工学研究科/生物資源開発センター)	P.36
食17	アグリビジネスフォーラム【玉川大学】	P.36
食18	アグリビジネスフォーラム【明治大学】	P.36
食19	アグリビジネスフォーラム【東海大学】	P.36
食20	(学)麻布大学　研究推進・支援本部	P.37

ホール



小間No.	出展者名	ページ
食21	(国)新潟大学　地域連携フードサイエンスセンター	P.37
食22	(独)国際農林水産業研究センター	P.37
食23	埼玉大麦食品普及・食のモデル地域実行協議会	P.37
食24	(国)佐賀大学	P.37
食25	含気調理食品(株)	P.37
食26	(国)山口大学	P.38
食27	(株)イイノ研	P.38
食28	(学)明星大学	P.38
食29	アグリビジネスフォーラム【首都圏農学系私立五大学】	P.38
食30	アグリビジネスフォーラム【東京農業大学】	P.38
食31	アグリビジネスフォーラム【日本大学】	P.38
食32	(国)宮崎大学	P.39
食33	宮崎県農協果汁(株)/(国)宮崎大学/(学)崇城大学	P.39
食34	一丸ファルコス(株)/(国)宮崎大学/(学)崇城大学	P.39
食35	(国)島根大学農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター	P.39
食36	大森ヘルスケア(株)	P.39
食37	(国)香川大学	P.39
食38	(株)味きっこう	P.40
食39	H·P未来産業創造研究会	P.40
食40	(株)食の科学舎	P.40
食41	三重県農業研究所	P.40
食42	(株)ヘルスケアシステムズ(名古屋大学発ベンチャー)	P.40
食43	(学)八戸工業大学	P.40

	環境ゾーン	
環01	(独)森林総合研究所	P.41
環02	(株)リバネス	P.41
環03	須坂市スマートアグリソーラー研究会	P.41
環04	環境農業資材協議会	P.41

小間No.	出展者名	ページ
環05	(一社)日本有機資源協会	P.41
環06	環境省　J-COF	P.42
環07	(国)東京大学　国際情報農学研究室/水利環境工学研究室	P.42
環08	(公)石川県立大学	P.42
環09	(国)信州大学 工学部 物質工学科 酒井研究室	P.42
環10	(地独)岩手県工業技術センター	P.42
環11	隠岐の島町商工会	P.42
環12	(独)農業環境技術研究所	P.43
環13	(国)九州大学大学院　機械工学部門 スマート熱システムプロジェクト	P.43
環14	NPO法人ぐんまテクノサポーターズ	P.43
環15	(国)鹿児島大学　農学部	P.43
環16	(株)農学研センター	P.43
環17	(公財)高知県産業振興センター	P.43

	地域ゾーン	
地01	(独)高齢·障害·求職者雇用支援機構	P.44
地02	(国)東京海洋大学	P.44
地03	(国)三重大学 社会連携研究センター 伊賀研究拠点/伊賀市菜の花プロジェクト推進協議会	P.44
地04	(国)岩手大学	P.44
地05	(国)弘前大学　地域共同研究センター	P.44
地06	(学)近畿大学	P.45
地07	(学)立命館大学	P.45
地08	NPO法人未利用資源事業化研究会	P.45
地09	(国)東京大学　大槌イノベーション協創事業　事業本部	P.45
地10	(学)京都産業大学	P.45
地11	(国)琉球大学	P.45
地12	(国)高知大学	P.46

小間No.	出展者名	ページ
地13	(学)昭和大学医学部顕微解剖学教室	P.46
地14	(株)LIKE TODO JAPAN製薬	P.46
地15	(有)へちま産業	P.46
地16	(一社)日本オリーブ普及協会	P.46
地18	(国)北見工業大学	P.46
地19	旭川食品産業支援センター	P.47

	人ゾーン	
人01	NPO法人産学連携学会	P.47
人02	地域産学連携コンソーシアム	P.47
人03	農林水産·食品産業技術振興協会	P.47
人04	(独)農研機構　生物系特定産業技術研究支援センター	P.48
人05	ATP·迅速検査研究会	P.48
人06	全国イノベーション推進機関ネットワーク	P.48
人09	(独)製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター	P.48
人10	日本弁理士会	P.48

	1-day出展ゾーン	
12A	(国)広島大学大学院生物圏科学研究科	P.49
12B	(有)ヤマ吉	P.49
13A	(国)東北大学	P.49
13B	「熟ビーフ」連絡会	P.49
13C	NPO法人DNA鑑定学会	P.49

	主催者ゾーン	
主①	攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業	P.51
主②	食料生産地域再生のための先端技術展開事業	P.51

コーディネーターによるマッチングについて

お気軽にコーディネーターカウンターまでご相談ください。

会場内のコーディネーターカウンターでは、農林水産・食品産業分野の研究や産学官連携業務で活躍中の専門家が常駐し、皆様のご要望を踏まえた出展機関の紹介や、具体的な技術相談等を通じ、出展機関と来場者とのマッチングを支援いたします。
カウンターには、コーディネーターが3名程度常駐しております。
それぞれのコーディネーターが皆様のマッチングのきっかけ作りを全力でお手伝いいたしますので、積極的にご利用ください。

コーディネーターカウンターシフト

	11月12日（水）	11月13日（木）	11月14日（金）
10:00〜12:00	高橋修一郎 荻本　賢治 佐藤龍太郎 羽藤　公一	宮森　博康 松井　　純 武田　　穣 田谷　省三	高橋修一郎 佐藤龍太郎 山下　太郎 松井　正春
12:00〜14:00	松井　　純 八戸三千男 高野　博幸	中安　　章 森岡　勝彦 松井　正春	山内　皓平 森岡　勝彦 北村　實彬
14:00〜17:00	宮森　博康 中安　　章 小菅　喜昭 田谷　省三	山内　皓平 八戸三千男 山下　太郎 北村　實彬	田中　一郎 荻本　賢治 酒井　眞次 梶谷　浩一

※一部シフトが変更になる場合もございます。予めご了承下さい。　（敬称略）

コーディネーターのご紹介

出展者のシーズの売り込みや事業化、ご来場の皆様のニーズを踏まえた研究課題の発掘等、農林水産分野で活動実績のあるコーディネーターが重点的にサポートします。

NDS 総研㈱
宮森 博康
取締役

地　　域：北海道
活動分野：産学連携

帯広信用金庫　地域経済振興部
田中 一郎
獣医学博士

地　　域：北海道
活動分野：農畜産業全般、産学官金連携、地域活性化、新製品開発

㈱リバネス
高橋 修一郎
代表取締役 COO

地　　域：東京
活動分野：研究開発（バイオ系）、産学連携、科学教育、地域活性化

岡山大学 戦略的プログラム支援ユニット
武田　穣
上級リサーチアドミニストレーター

地　　域：中四国
活動分野：産学官連携、地域活性化

㈱三重ティーエルオー
三重大学 社会連携研究センター
松井　純

地　　域：中部
活動分野：地域資源活用、および環境、食品関連産学連携

大阪大学　大学院工学系研究科
生命先端工学専攻細胞工学領域
小菅 喜昭
特任研究員

地　　域：近畿
活動分野：農林水産、バイオ環境商品の商品開発支援

愛媛大学農学部
中安　章
教授

地　　域：中四国
活動分野：農産物マーケティング、ブランド戦略

愛媛大学社会連携推進機構
南予水産研究センター
山内 皓平
南予水産研究センター長・教授

地　　域：中四国
活動分野：産学連携、水産学一般、地域イノベーション

注目 コーディネーターマッチングサポートツアー

コーディネーターがガイド役となって、特定のテーマに関する展示ブースを来場者と一緒に見学しながら、マッチングに向けたヒントを提供するマッチングサポートツアーを実施します。
ツアー参加希望の方は、会場内コーディネーターカウンターまでお越しください。（参加は先着順とします。）
（ツアー実施日程については、会場内で配布する「マッチングサポートツアーのご案内」をご参照ください。）

	11月12日（水）	11月13日（木）	11月14日（金）
11:00〜12:00	イチゴの栽培、加工流通技術 【羽藤 公一】	異分野融合 一異分野の研究成果を農業にどう活かすか 【武田 穣】	家畜繁殖に関する最近の話題 【田中 一郎・山下 太郎】
		植物工場 【中安 章】	規機能性食品素材並びに製品の開発 【酒井 眞次】
13:00〜14:00	機能性素材（アンチエイジングなど健康用途、化粧品用途を含む） 【小菅 喜昭】	ここがポイント！ ヒト試験をどう行ったか？どう行うのか？ 【松井 純】	機能性お茶・飲料 【荻本 賢治】
	農作物の新しい品種の紹介と試食 【田谷 省三】	畜産関連機器 【田中 一郎・山下 太郎】	大麦食品紹介 【高野 博幸】
14:00〜15:00	農作物の革新的栽培技術紹介 【高野 博幸】	農水系未利用資源の利活用技術 【梶谷 浩一】	米を中心とした用途開発 【羽藤 公一】
		イネ、果樹、野菜新品種の紹介 【酒井 眞次】	強い農業を支える分析・センサー技術 【梶谷 浩一】
15:00〜16:00	ICT農業用センサー 【武田 穣】	機能性茶 【小菅 喜昭】	新しい病害虫防除資材 【松井 正春】
	新食材・新品種紹介 【八戸 三千男】	植物の生育環境制御へのICTの活用 【森岡 勝彦】	

大分大学工学部
森岡 勝彦
客員教授
産学官連携コーディネーター
地　域：九州
活動分野：地域資源活用、農業、林業、食品、環境、IT

三菱商事ライフサイエンス社
荻本 賢治
コンサルタント
地　域：全国
活動分野：機能性素材・機能性食品・健康食品実用化と海外を含む市場開発

農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）
佐藤 龍太郎
農林水産省産学官
連携事業コーディネーター
地　域：全国
活動分野：農薬（植物成長調整剤）

農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）
羽藤 公一
農林水産省産学官
連携事業コーディネーター
地　域：全国
活動分野：食品化学

NPO法人グリーンテクノバンク
八戸 三千男
農林水産省産学官
連携事業コーディネーター
地　域：北海道
活動分野：畑作、作物育種

NPO法人グリーンテクノバンク
山下 太郎
研究顧問
農林水産省産学官
連携事業コーディネーター
地　域：北海道
活動分野：牧草、飼料作物、畜産全般

東北地域農林水産・食品ハイテク研究会
酒井 眞次
農林水産省産学官
連携事業コーディネーター
地　域：東北
活動分野：作物育種、栽培、加工

農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）
高野 博幸
農林水産省産学官
連携事業コーディネーター
地　域：関東（北陸・沖縄）
活動分野：食品

NPO法人東海地域生物系先端技術研究会
松井 正春
農林水産省産学官
連携事業コーディネーター
地　域：東海
活動分野：環境、昆虫管理

NPO法人近畿アグリハイテク
北村 實彬
理事・事務局長
農林水産省産学官
連携事業コーディネーター
地　域：近畿
活動分野：先端科学、三次産業

NPO法人
中国四国農林水産・食品先進技術研究会
梶谷 浩一
農林水産省産学官
連携事業コーディネーター
地　域：中国四国
活動分野：産学連携、地域資源活用、環境、競争的資金

九州バイオリサーチネット
田谷 省三
農林水産省産学官
連携事業コーディネーター
地　域：九州
活動分野：作物学

イベントスケジュール

12日（水）

9:45▶10:00 開会セレモニー

メインステージ

10:10▶10:50 セミナー1
農林水産研究の今後の展開
農林水産技術会議事務局
技術政策課

11:00▶12:20 パネルディスカッション
攻めの農林水産業を支える知の集積について
～オランダのフードバレーを参考とした今後の取組～
農林水産省農林水産技術会議事務局　研究推進課
オランダ応用科学研究機構　西出 香氏
（独）農研機構食品総合研究所 所長　大谷 敏郎氏
（株）前川製作所 専務取締役　川村 邦明氏
（株）サラダボウル 代表取締役　田中 進氏

13:00▶14:00 基調講演1
産学官連携による農林水産業への挑戦
～強みと身近なチャンスを活かすには～
（株）ヒューマン・キャピタル・マネジメント
代表取締役社長　土井 尚人氏

14:20▶16:30 表彰
平成26年度（第15回）
民間部門農林水産研究開発功績者表彰

平成26年度（第10回）
若手農林水産研究者表彰

セミナールームA

10:20▶10:45 マイタケの生育方法、乾燥方法および抽出方法における薬理活性画分の変化について
（株）雪国まいたけ/
（学）新潟薬科大学/（学）中部大学
（株）雪国まいたけ　内藤研太氏 食

10:55▶11:20 機能性タマネギの開発と地域ブランド化
（有）植物育種研究所
（北海道大学ベンチャー）
岡本大作氏 食

11:30▶11:55 大麦力！おいしく食べて健康に
埼玉大麦食品普及・
食のモデル地域実行協議会
会長　円谷陽一氏 食

13:00▶13:25 エネルギーの地産地消を促進するマイクロ水力発電
（公）石川県立大学
瀧本裕士氏 環

13:35▶14:00 新潟大学の食研究の紹介と災害食の取り組み
（国）新潟大学
地域連携フードサイエンスセンター 食

14:10▶14:35 伊賀市菜の花プロジェクトの歩み
（国）三重大学
社会連携研究センター　伊賀研究拠点
／伊賀市菜の花プロジェクト推進協議会
三重大学社会連携研究センター
伊賀研究拠点　加藤進氏 地

14:45▶15:10 瞬間的高圧による低コスト高品質米粉製造システムの商業生産技術の普及について
沖縄工業高等専門学校
下嶋賢氏 食

15:20▶15:45 地域食資源の高付加価値化に向けた工学的研究
（国）北見工業大学
社会連携推進センター
有田敏彦氏 地

15:55▶16:20 農作物を医療の現場へ（アロマセラピーとガーデンセラピー）
（学）昭和大学医学部
顕微解剖学教室
教授　塩田清二氏 地

16:30▶16:55 日本農業の原点、自然農法に戻すには
環境農業資材協議会
農業生産法人日本豊受自然農㈱
代表　由井寅子氏 環

セミナールームB

10:20▶10:45 免疫機能改善のための新技術と機能性食品
（株）ケーナインラボ
山口智宏氏 食

10:55▶11:20 カビを水洗できるコーティング技術／ジーンバンクの紹介
（独）農業生物資源研究所 生

11:30▶11:55 低コスト・高生産性農業のためのセンシングと栽培技術
（株）同位体研究所　塙章氏 生

13:00▶15:00 セミナー3
革新的技術緊急展開事業の紹介
（独）農研機構「革新的技術実証事業」運営委員会
農業産業化ジャパンクオリティ・システム形成に向けた革新的生産技術体系の確立
デザイナーフーズ（株）
研究戦略室長　有井 雅幸氏
青切り用調製機を導入したタマネギの省力収穫・調製体系の確立
香川県農業試験場企画・営農部門（農業機械担当）
主席研究員　西村 融典氏
マルドリ方式・ICTなどを活用した省力的な高品質カンキツ安定生産技術体系とその実現のための傾斜地園地整備技術の実証
（独）農研機構近畿中国四国農業研究センター傾斜地園芸研究領域　上席研究員
根角 博久氏
ICTを用いたシカ、イノシシ、サルの防除、捕獲、処理一貫体系技術の実証
三重県農業研究所地域連携研究課主幹研究員　山端 直人氏
コンテナ苗を活用した低コスト再造林技術の実証研究
（独）森林総合研究所研究コーディネータ（林業生産技術担当）
田中 浩氏
脱Cdイカ内臓飼料の最適化による高品質ブリ養殖の実証
（国）愛媛大学南予水産研究センター客員准教授　井戸 篤史氏

15:10▶16:50
①牛の咀嚼計と加速度計から行動及び姿勢を判別
畜産飼料作研究領域
主任研究員　小松篤司氏
②高濃度有機性汚水を低コストで浄化できるハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システム
生産環境研究領域
主任研究員　加藤邦彦氏
③定植前のネギ苗へのリン酸施用はネギ増収とリン酸節約を可能にする
研究支援センター
業務第1科長　村山 徹氏
④土壌伝染病の発生抑制効果を付与する育苗法
生産環境研究領域
主任研究員　今崎伊織氏

（独）農研機構
東北農業研究センター 生

セミナールームC

10:20▶10:45 水田における土壌撹拌-排水処理による放射性セシウム除去技術の開発（水による土壌撹拌・除去技術）
農地の物理的除染技術体系グループ
牧野知之氏[1]・神谷 隆氏[2]・太田 健氏[3]・赤羽幾子氏[1]・齋藤隆氏[4]・江口哲也氏[3]・山口紀子氏[1]・藤原英司氏[1]・木方展治氏[1]・高野博幸氏[2]
所属名〉〉
1（独）農業環境技術研究所、2 太平洋セメント株式会社、
3 農業・食品産業技術総合研究機構　東北農業研究センター、
4 福島農業総合センター 生

10:55▶11:20 高信頼無線通信を用いた無線知的制御クラウドシステム
静岡アグロスコープ協議会
静岡大学大学院　峰野博史氏 生

11:30▶11:55 地球温暖化によりリンゴの品質に長期的な変化が起きている
（独）農研機構　果樹研究所
栽培・流通利用研究領域
杉浦俊彦氏 生

13:00▶13:25 完熟大果イチゴの超高品質流通技術の開発
（国）宇都宮大学
柏嵜勝氏 生

13:35▶14:00 間欠冷蔵処理によるイチゴの花芽分化促進技術
（国）岡山大学農学部
吉田裕一氏 生

14:10▶14:35 農作業の軽労化を支援するパワーアシストスーツ
（国）和歌山大学
産学連携・研究支援センター
八木栄一氏 生

14:45▶15:10 新規の微生物検出アルゴリズムに基づいた選択培地の開発と応用
（株）リバネス 環

15:20▶15:45 農家が考えた食電併産安心農業とエネルギー自給ファームの将来像
須坂市スマートアグリソーラー研究会　会長　岡木由行氏 環

15:55▶16:20 茶葉中機能性成分を短時間に抽出できる機能性給茶機リッチプラス
（独）農研機構　食品総合研究所
機能研究領域長
山本（前田）万里氏 食

16:30▶16:55 衣から医へ ～カイコ・シルクの新たな利用法～
（独）農業生物資源研究所 生

※一部招待状のイベントスケジュールから内容を変更しております。

13日(木)

メインステージ

10:20 ▼ 12:20 セミナー2

「強み」のある農畜産物づくりセミナー
～マーケットイン型の品種・技術開発で「強み」のある農畜産物を生み出す～
農林水産省大臣官房政策課技術調整室

新品種で拓く地域農業の未来
～食農連携を実践的に進めるポイント～
(独)農研機構中央農業総合研究センター
農業経営研究領域主任研究員　後藤一寿氏

「醤油醸造に適した大豆『こがねさやか』の栽培と商品開発に向けた取組」
ヒガシマル醤油(株)業務部長　中田佳幸氏
(株)高田商店営業総務統括部長　高部正温氏

加工業務用需要に対応した機械化一貫体系によるキャベツ生産の実現
彩喜(株)取締役社長　木村 幸雄氏
(独)農研機構北海道農業研究センター
大規模畑作研究領域主任研究員　若林勝史氏

セミナールームA

10:20 ▼ 10:45 抗アレルギー効果が実証されたチシャトウ
大森ヘルスケア(株)　食

10:55 ▼ 11:20 自然生態系保全を目的とした治山・緑化資材の開発
(独)森林総合研究所
小川泰浩氏
(株)伊豆緑産　石森良房氏　環

11:30 ▼ 11:55 日向夏搾汁残渣を用いた飲料の実用化開発
宮崎県農協果汁(株)/(国)宮崎大学/(学)崇城大学
宮崎大学医学部
講師　山口昌俊氏　食

13:00 ▼ 13:25 茶成分「テアフラビン」の実力
(公財)静岡県産業振興財団
フーズ・サイエンスセンター
焼津水産化学工業㈱開発部
山田潤氏　食

13:35 ▼ 14:00 バイオマス再資源化装置の開発
(公財)高知県産業振興センター
高知県工業技術センター
生産技術課　村井正徳氏　環

14:10 ▼ 14:35 ワクモ捕獲装置による採卵鶏農家の被害低減に向けた研究
(国)香川大学　農学部
応用生物科学科 生物資源生産学
松本由樹氏　食

14:45 ▼ 15:35 福島県での近畿大学の取り組みについて
(学)近畿大学
生物理工学部　生物工学科
講師　堀端章氏　地

15:45 ▼ 16:10 ニホンジカと列車との衝突事故防止を目指して
(国)岩手大学　農学部動物科学課程松原研究室
プロジェクト研究員　西千秋氏　地

16:20 ▼ 16:45 界面前進凍結濃縮法を用いてあらゆる果汁からワインをつくる！
(公)石川県立大学　食

セミナールームB

10:20 ▼ 12:00 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究成果発表会2014

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究成果発表の説明
農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室

北日本の米作りと新しい商品開発を支える水稲新品種を開発しました
(地独)北海道立総合研究機構
上川農業試験場水稲グループ・研究主幹
佐藤毅氏

ヒメトビウンカの海外からの飛来を予測する実運用情報提供システム
(独)農研機構九州沖縄農業研究センター
主任研究員　大塚 彰氏

縞萎縮病に強く、麦芽の溶けが適正なビール大麦の育成
栃木県農業試験場・麦類研究室長
加藤 常夫氏

盛夏に新鮮麦が貰味できるソバ春まき栽培
(独)農研機構九州沖縄農業研究センター
専門員　手塚 隆久氏

13:00 ▼ 17:00 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究成果発表会2014

カラーピーマンの光照射追熟技術を利用した増収栽培技術の開発
山形県庄内総合支庁農業技術普及課
産地研究室主任
古野伸典氏

涼しい夏を活かす！国産夏秋イチゴ安定多収技術の開発・実証
(独)農研機構東北農業研究センター
主任研究員　山崎浩道氏

化学農薬のみに頼らないオオバ病害虫の総合的病害虫防除技術
高知県農業技術センター　生産環境課長
広瀬拓也氏

キサントモナス属細菌病害に広く効果がある微生物剤の開発
(独)農研機構中央農業総合研究センター
主任研究員　井上康宏氏

養液栽培における高温性水媒伝染病害の安全性診断
愛知県農業総合試験場環境基盤研究部
生物工学研究室
室長　三宅律幸氏

カキ栽培の軽労・省力化技術の開発
奈良県農業研究開発センター
加工科　科長　西野精二氏

地球温暖化に対応したビワ新品種「はるたより」の開発と温暖化進行後の適地変化予測
長崎県農林技術開発センター果樹研究部
門ビワ・落葉果樹研究室主任研究員
稗圃直史氏

気象変動に強く大幅省力化が可能なニホンナシ自家和合性品種の結実管理技術開発
新潟県農業総合研究所園芸研究センター
専門研究員　松本辰也氏

地球温暖化に対応したブドウおよびウメ新品種の開発と温暖化に伴う適地変化予測
(独)農研機構果樹研究所
領域長　山田昌彦氏

性フェロモンを用いてヒメボクトウのリンゴ、ナシへの被害を減らす
(国)千葉大学大学院園芸学研究科
教授　中牟田潔氏

世界的に貴重な遺伝資源を活かしたチューリップ新品種の育成と新規需要の創出
富山県農林水産総合技術センター
園芸研究所花き課　副主幹研究員
辻俊明氏

セミナールームC

10:20 ▼ 10:45 硝子封止したLED補光光源の植物育成への応用
(株)ルミナスジャパン
富樫大樹氏　生

10:55 ▼ 11:20 家畜飼養施設の微生物汚染低減に向けた安全性の高い殺菌・消毒システムの提案
静岡県畜産技術研究所
佐藤克昭氏　生

11:30 ▼ 11:55 農業の現在と未来を考える中での農業情報サービスを起点とするICT・センシング戦略
(一社)ALFAE
代表理事　亀岡孝治氏　生

13:00 ▼ 13:25 害虫駆除から制虫へ
―害虫の行動を制御して被害を防ぐ―
(独)理化学研究所
バイオリソースセンター実験植物開発室
安部洋氏　生

13:35 ▼ 14:00 光合成速度、蒸散速度等の速度変数を基にした環境制御技術
(国)千葉大学　園芸学研究科
丸尾達氏　生

14:10 ▼ 14:35 プラズマ殺菌/消毒技術により農産物/食品の汚染や品質劣化を防ぐ
(国)佐賀大学
佐賀大学・大学院工学系研究科電気電子工学専攻 助教 三沢達也氏　食

14:45 ▼ 15:10 食材の美味しさと健康成分を増大させる光照射乾燥・貯蔵法
(学)八戸工業大学
客員教授　青木秀敏氏　食

15:20 ▼ 15:45 プラズマ殺菌技術を駆使した高付加価値農作物を栽培するプラズマ農法「プラズマアグリ®」
(国)東北大学　大学院工学研究科
教授　金子俊郎氏　生

15:55 ▼ 16:20 植物工場等に利用可能な世界初の太陽熱エネルギー利用システム
(国)九州大学大学院
機械工学部門
スマート熱システムプロジェクト
特任教授　柳謙一氏　環

16:30 ▼ 16:55 島根の"味の縁結び"「出雲おろち大根」の育成と地域普及
(国)島根大学農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター　食

セミナールームD

13:00 ▼ 14:55 復興支援

「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の概要
農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課

震災からの復興のための生産現場での取組と課題(宮城県における土地利用型農業)
(有)耕谷アグリサービス代表取締役
大友清康氏

宮城県における土地利用型営農技術の実証研究
(独)農研機構　東北農業研究センター生産基盤研究領域長　潟川智行氏

岩手県の中山間地域における施設園芸技術の実証研究
岩手県農業研究センター技術部南部園芸研究室長　川村浩美氏

福島県における花き栽培技術の実証研究
(独)農研機構　花き研究所花き研究領域上席研究員　福田直子氏

岩手県におけるサケ生産技術の実証研究
(独)水産総合研究センター東北区水産研究所
沿岸漁業資源研究センター長　堀井豊充氏

震災からの復興のための生産現場での取組と課題(カキ養殖業の現場での取組)
宮城県漁業協同組合塩釜市浦戸支所
浅海養殖専門技術指導員
後藤邦雄氏

宮城県におけるカキ養殖技術の実証研究
(独)水産総合研究センター東北区水産研究所
特任部長　神山孝史氏

15:05 ▼ 17:00 アグリビジネスフォーラムセミナー

【アグリビジネスフォーラム基調講演】
機能性食品を科学する
(東海大学)　医学部　教授　石井直明氏

・野生種トマトの保有する様々な機能性、遺伝資源としての有用性
(玉川大学)　農学部 生物資源学科　教授　田淵俊人氏

・農林水産業の高付加価値成長戦略を担う6次産業化ビジネス
(東京農業大学)　生物産業学部　教授　黒瀬秀久氏

・ICT養液土耕栽培支援システム「ZeRo.agri」
(明治大学)　農場　小沢聖氏

・エビ・カニを捕食する魚類から単離されたキチン質分解酵素とその遺伝子
(日本大学)　生物資源科学部　海洋生物資源利用学研究室　教授　松宮政弘氏

・モウセンゴケ属の種分化と日本産種にみられる抗アレルギー効果
(東海大学)　農学部　応用植物科学科　教授　星良和氏

セミナールームE

13:00 ▼ 14:00 講演　異分野融合

先導・革新的人工核酸結合タンパク質を用いたウイルス不活性化技術の確立と社会実装
(国)岡山大学大学院
自然科学研究科教授　世良貴史氏

農業分野の情報インフラの構築とウェブサービス
(国)名古屋大学大学院
情報科学研究科教授　北栄輔氏

14:10 ▼ 14:35 エルゴチオネインの機能性と家畜用飼料への応用
アイシン共聴開発(株)・
(国)東京海洋大学
(国)東京海洋大学大学院
大島敏明氏　食

14:45 ▼ 17:00 セミナー3

革新的技術緊急展開事業の紹介
(独)農研機構「革新的技術実証事業」運営委員会

イアコーン等自給濃厚飼料活用型低コスト豪畜生産体系の実証
(独)農研機構北海道農業研究センター酪農研究領域上席研究員
大下 友子氏

効率的な家畜管理・草地管理法導入による公共牧場および繁殖農家の生産性向上技術の実証
(独)農研機構畜産草地研究所草地管理研究領域研究領域長
山本 嘉人氏

肉用鶏生産者収益を向上させる革新的鶏舎LED光線管理技術の実証
(国)神戸大学大学院農学研究科資源生命科学専攻准教授　本田 和久氏

ゲノム解析及び地域資源を活用した「長州黒かしわ」の効率的、省力的な生産技術体系の確立
山口県農林総合技術センター家畜改良研究室特産開発グループ専門研究員
伊藤 直弥氏

サトウキビの安定・多収栽培技術の実証と高バイオマス量サトウキビの生産性評価
(独)農研機構九州沖縄農業研究センター作物開発・利用研究領域
研究領域長　老田 茂氏

道産米の国際競争力強化と持続的輪作体系の両立に向けた実証
(独)農研機構北海道農業研究センター水田作研究領域上席研究員　村上 則幸氏

農業生産法人が実証するスマート水田農業モデル
～IT農機・圃場センサー・営農可視化・技術継承システムを融合した革新的大規模稲作営農技術体系の開発実証～
(国)九州大学大学院農学研究院
教授　南石 晃明氏

※一部招待状のイベントスケジュールから内容を変更しております。

14日（金）

メインステージ

10:30 ▼ 11:30　基調講演2
データ駆動型イノベーションと農林水産業
（国）東京大学先端科学技術研究センター
教授　森川博之氏

11:40 ▼ 12:10　講演　異分野融合
農林水産物由来物質とナノカーボンの“ナノ・ナノ”コンビネーションと応用
（国）信州大学先鋭領域融合研究群カーボン科学研究所
特別特任教授　遠藤守信氏

セミナールームA

10:20 ▼ 10:45　大豆を毎日食べる人を倍増させる郵送検診『ソイチェック』
（株）ヘルスケアシステム
代表取締役　瀧本陽介氏　食

10:55 ▼ 11:20　草本系バイオマス資源作物エリアンサス
（独）農研機構畜産草地研究所
飼料作物研究領域
小林真氏　生

11:30 ▼ 11:55　スーパー万能釜による発芽玄米酵素ご飯について
（株）イイノ研　食

セミナールームB

10:20 ▼ 12:00　農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究成果発表会2014
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究成果発表の説明
農林水産省技術会議事務局研究推進課
産学連携室
下水灰の肥料用原料化技術の開発研究
（国）名古屋大学大学院工学研究科
助教　窪田 光宏
越冬栽培を基軸としたコンニャク低コスト生産マニュアルの策定
群馬県農業技術センター
こんにゃく特産研究センター独立研究員
飯塚弘明氏
中山間地域の茶業活性化に資する茶品種とその利用技術の開発
宮崎県総合農業試験場
茶業支場特別研究員兼育種科長
吉留浩氏
減災対策を目的とした「豪雨時のため池の貯水位予測システム」
（独）農研機構農村工学研究所
上席研究員　堀俊和氏

セミナールームC

10:20 ▼ 10:45　有機質肥料活用型養液栽培システム
（独）農研機構野菜茶業研究所
篠原信氏　生

10:55 ▼ 11:20　産学官連携による畜産バイオマスを有効利用する製品開発
NPO法人ぐんまテクノサポーターズ　星野智之氏　環

11:30 ▼ 11:55　太陽光エネルギーを蓄熱利用するイチゴ省エネシステムの性能評価
攻めのイチゴ生産実証コンソーシアム
& 施設園芸省エネ協議会
山口県農林総合技術センター
鶴山浄真氏　生

セミナールームD

13:00 ▼ 14:30　シンポジウム
農林水産物の機能性表示について
食品の新たな機能性表示制度の方向性について
消費者庁食品表示企画課　食品表示調査官　塩澤信良氏
農林水産物における機能性表示について
（独）農研機構　食品総合研究所
所長　大谷敏郎氏
機能性表示に向けた取組について
三ヶ日町農業協同組合
代表理事組合長　後藤善一氏
JAかごしま茶業（株）
代表取締役専務　酒瀬川洋児氏

14:40 ▼ 15:30　①細菌鋳型の迅速作製技術を応用した食品分析用センサの開発
（公）大阪府立大学　工学研究科
教授　長岡勉氏
②ユーカリ葉抽出物の果糖吸収抑制作用および抗肥満作用
（公）大阪府立大学
生物資源開発センター　教授　乾博氏
（公）大阪府立大学
（工学研究科／生物資源開発センター）　食

15:40 ▼ 16:05　高い変性温度と高い強度の新コラーゲン素材
（国）東京工業大学
田中・生駒研究室
杉山友明氏　生

セミナールームE

13:00 ▼ 13:25　講演　異分野融合
医学・栄養学との連携による日本食の評価
（国）京都大学大学院医学研究科
特定助教　池田香織氏

13:35 ▼ 14:00　農業参入・就農の多様なルートと担い手の支援システム
（独）農研機構
中央農業総合研究センター
迫田登稔氏　生

14:10 ▼ 16:15　セミナー3
革新的技術緊急展開事業の紹介
（独）農研機構「革新的技術実証事業」
運営委員会
海外輸出に対応できる日本茶生産体系の実証研究
（独）農研機構野菜茶業研究所茶業研究領域上席研究員
根角厚司氏
栽培施設リノベーションと6次産業化による攻めのイチゴ生産実証
山口県農林総合技術センター農業技術部園芸作物研究室専門研究員
鶴山浄真氏
地域間連携による低投入型・高収益施設野菜生産技術体系の実証
徳島県立農林水産総合技術支援センター農産園芸研究課統括研究員
板東一宏氏
寒地畑作地域における省力技術体系とICT活用を基軸としたスマート農業モデルの実証
（独）農研機構北海道農業研究センター大規模畑作研究領域上席研究員
渋谷幸憲氏
暖地における原料用かんしょと加工用露地野菜の大規模機械化生産体系の確立
（独）農研機構九州沖縄農業研究センター畑作研究領域上席研究員　杉本光穂氏
（民間実用化研究促進事業）
緑化用培養スナゴケの大規模栽培と利用技術
（株）明豊建設経営戦略室
鈴川 一行氏

セミナールームA

13:00 ▼ 13:25　加工歩留まりの高い縦長タマネギ「カロエワン」
（独）農研機構
北海道農業研究センター
室崇人氏　生

13:35 ▼ 14:00　農業発：産学官連携で大加速もみ殻灰の多方面への利用
もみ殻循環プロジェクトチーム
富山県立大学　准教授　立田真文氏
（一社）地域環境資源センター
バイオマスチームリーダー
岡庭良安氏　生

14:10 ▼ 14:35　日向夏ジュースが閉経後女性の骨代謝に及ぼす影響
一丸ファルコス（株）/
（国）宮崎大学/（学）崇城大学
崇城大学　西園祥子氏　食

14:45 ▼ 15:10　秋田県におけるラズベリーの産地形成と果実障害回避技術の確立
（公）秋田県立大学
フィールド教育研究センター
准教授　今西弘幸氏　食

15:20 ▼ 15:45　中小規模園芸ハウスを対象とした複合エコ環境制御技術の開発状況
（国）高知大学　農学部門
宮内樹代史氏　地

セミナールームB

13:00 ▼ 17:00　農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究成果発表会2014
自給飼料増産のための飼料作物品種の開発
（独）農研機構北海道農業研究センター
上席研究員　佐藤尚氏
高泌乳牛における泌乳持続性と繁殖機能改善を図る新たな周産期栄養管理技術の開発
（国）広島大学大学院生物圏科学研究科
助教　杉野利久氏
イソマルトメガロ糖の生産技術開発・生理作用評価・ナノ素材構築
（国）北海道大学農学部・教授
木村淳夫氏
きのこの有用変異形質を有する品種の育種と遺伝子情報を活用した変異検出系の開発
（国）鳥取大学農学部教授
松本晃幸氏
シイタケ原木栽培における放射性セシウムリスクの低減技術の開発
（独）森林総合研究所領域長
根田仁氏
林業被害軽減のためのニホンジカ個体数管理技術の開発
（独）森林総合研究所研究コーディネータ
小泉透氏
スギ・ヒノキ花粉症対策品種の効果的な普及に向けた取り組みの現状と対策
神奈川県自然環境保全センター
主任研究員　齋藤央嗣氏
安全な間伐作業を実現する遠隔操作型伐倒マニピュレータシステムの開発
（学）早稲田大学理工学術院
准教授　白井裕子氏
沿岸シラスの最適漁場探索支援ツールの開発
（独）水産総合研究センター
中央水産研究所グループ長
清水学氏
種苗生産の早期安定化と放流効果の正確な判定によるクルマエビ類の栽培技術の高度化
愛知県農林水産部水産課主査
原田誠氏
遊休クルマエビ養殖池を活用したアサリ増養殖技術の開発
山口県水産研究センター
内海研究部栽培増殖グループ班長
岸岡正伸氏

セミナールームC

13:00 ▼ 13:25　スルメイカ鮮度保持技術の現場への導入
（独）水産総合研究センター
北海道工業技術センター
吉岡武也氏　食

13:35 ▼ 14:00　高度なものづくりを支える人材育成と地域産業界等との連携の取組
（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構
四国職業能力開発大学校
生産電子情報システム技術科
准教授　千知岩浩一氏　地

14:10 ▼ 14:35　自然光を利用した低価格水耕栽培システム
（学）明星大学　理工学部
総合理工学科環境・生態学系
吉澤秀二氏　食

14:45 ▼ 15:10　農業ICT研究・開発のためのセンサーからの視点
（国）三重大学大学院生物資源学研究科
三重大学生物資源学研究科
教授　亀岡孝治氏　生

15:20 ▼ 15:45　我が国農林水産物の輸出を大幅に伸ばすために不可欠な細胞を生かしたCAS冷凍技術
NPO法人元氣農業開発機構
㈱アビー代表取締役
大和田哲男氏　生

※一部招待状のイベントスケジュールから内容を変更しております。

基調講演

基調講演 1

11月12日（水） 13:00▶14:00 ｜メインステージ

産学官連携による農林水産業への挑戦
～強みと身近なチャンスを活かすには～

株式会社ヒューマン・キャピタル・マネジメント　代表取締役社長

土井 尚人 氏

【略歴】 起業家、事業インキュベーター。信託銀行にて経営企画、融資等に従事した後、2002年にインキュベーション会社㈱ヒューマン・キャピタル・マネジメントを設立し、上場企業からベンチャーまで様々な新会社設立や新事業進出に携わる。農業系ベンチャーも複数支援する。
自ら大学発ベンチャー企業社長としても活動し、国内外大手製薬企業との80億円超の複数契約も実現する。
受賞歴として、創業・ベンチャー国民フォーラム起業家支援部門会長賞、JANBO Awards ビジネスインキュベーション大賞、産学官連携功労者表彰内閣府科学技術政策担当大臣賞など。

大学発ベンチャーや企業の新規事業などを生み出す現場では、身近なチャンスに気付く仕組みを作り、「顧客とは誰か」を明確にし、「強み」を活かしたものが成功しています。本講演では、その秘訣について解説していただきます。

基調講演 2

11月14日（金） 10:30▶11:30 ｜メインステージ

データ駆動型イノベーションと農林水産業

（国）東京大学先端科学技術研究センター　教授

森川 博之 氏

【略歴】 ユビキタスネットワーク、センサネットワーク、ビッグデータ／M2M（機器間通信）／モノのインターネット、無線通信システムなどの研究に従事。1987年、東京大学工学部電子工学科卒業。1992年、同博士課程修了。1997～1998年、コロンビア大学客員研究員。2006年、東京大学教授。2002～2007年、情報通信研究機構モバイルネットワークグループリーダ兼務。その他、新世代M2Mコンソーシアム会長、OECD/CDEP副議長等を兼務。受賞歴として、電子情報通信学会論文賞（3回）、情報処理学会論文賞、ドコモモバイルサイエンス賞、総務大臣表彰、志田林三郎賞、情報通信功績賞など。

産業・経済・社会構造の変革を推進する起爆剤が「データ」です。本講演では、データが農林水産業を含むあらゆる産業セグメントにおいて生産性を高め付加価値を創出することができることについて解説いただきます。

講演者等紹介

パネルディスカッション

11月12日（水） 11:00▶12:20 ｜メインステージ

攻めの農林水産業を支える知の集積について
～オランダのフードバレーを参考とした今後の取組～

農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課

西出 香 氏

大谷 敏郎 氏

川村 邦明 氏

田中 進 氏

オランダ応用科学研究機構 **西出 香 氏**
（独）農研機構食品総合研究所所長 **大谷 敏郎 氏**
（株）前川製作所 専務取締役 **川村 邦明 氏**
（株）サラダボウル 代表取締役 **田中 進 氏**

オランダのフードバレーでは、ワーヘニンゲン大学を中心に1,500を超える企業・研究機関がリアル・バーチャルに集積し、技術課題の解決に向けた議論が行われ、そこから生まれる技術･アイデアが、新たなイノベーションの基盤となり、技術の発展につながっていくという仕組みが構築されています。

我が国でもこのような仕組みを参考としながら､攻めの農林水産業を支える新たな産学連携の仕組みを検討することとしています。

この検討に向けたキックオフとして、様々な分野で活躍されているパネリストに、新たな産学連携の仕組みに期待すること等を議論していただきます。

講演 異分野融合

11月13日（木） 13:00▶13:25 ｜セミナールームE

革新的人工核酸結合タンパク質を用いたウイルス対策技術の確立と社会実装

（国）岡山大学大学院自然科学研究科 教授 **世良 貴史 氏**

農林水産省の「革新的技術創造促進事業（異分野融合共同研究）」のウイルス分野の拠点研究機関に選ばれた本学の取り組みを紹介します。例えば、私たちの所有技術を紹介し、これらがどのようにウイルス感染防御に有効であるかを説明します。また、拠点研究機関としての今後の方向性についても紹介します。

11月13日（木） 13:35▶14:00 ｜セミナールームE

農業分野の情報インフラの構築とウェブサービス開発

（国）名古屋大学大学院情報科学研究科 教授 **北 栄輔 氏**

我が国では丁寧な生産・流通により品質の良い農林水産物が消費者に届けられていますが、篤農家の高齢化や、海外からの輸入産物の流入等、国内農業を取り巻く状況は決して優しくはありません。「ICT 活用農業事業化・普及プロジェクト」では、個々の農家の圃場の生育環境，農作物の生育状況などの情報をセンサー等から取り入れ、これらを元に栽培管理作業や経営情報などで必要とされるサービスを農家に提供するシステムの開発することを目的とします。本発表では拠点が目指すICT 活用農業普及に向けての活動ならびに研究開発内容について紹介します。

11月14日（金） 11:40▶12:10 ｜メインステージ

農林水産物由来物質とナノカーボンの“ナノ・ナノ”コンビネーションと応用

（国）信州大学 先鋭領域融合研究群カーボン科学研究所 特別特任教授 **遠藤 守信 氏**

農林水産物由来の残渣等を利用して各種ナノ素材を調製し、それを先進的なナノカーボンと融合して“ナノ・ナノ”コンビネーション（nano・nano combination）による新規機能材料の創成が期待できる。特にナノ構造を制御して高度な機能発現を実現し、複合材料やエネルギーデバイスなど広範な産業応用に繋げ、これによって新たな素材産業の創出ならびに農林水産業の強化に繋げることを紹介します。

11月14日（金） 13:00▶13:25 ｜ セミナールームE

医学・栄養学との連携による日本食の評価

（国）京都大学大学院医学研究科　特定助教　**池田 香織 氏**

「和食：日本人の伝統的な食文化」が世界文化遺産に登録され、国内外での日本食に対する期待や関心が高まっています。しかし、日本食とはどのような食事を指すのか、その食事をとることでどのような効果が期待されるのかについて、根拠となるものが非常に限られている状況です。本研究では日本食を科学的・多面的に検証することで、その根拠を明らかにしていくことを紹介します。

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究成果発表会 2014

11月13日（木） 10:20▶17:00 ｜ セミナールームB

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究成果発表の説明

農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室

北日本の米作りと新しい商品開発を支える水稲新品種を開発しました

（地独）北海道立総合研究機構上川農業試験場　水稲グループ・研究主幹　**佐藤 毅 氏**

寒地の北海道稲作では冷害や近年のいもち病の多発が、寒冷地である東北稲作では冷害や異常高温による被害が大きな問題となっており、日本の米の主産地として収量や食味・品質の安定が緊急の課題です。本事業の成果として開発したもち品種「きたふくもち」、酒造好適米の「きたしずく」、業務用多収の「空育180号」、和食に向く「東北194号」および低アミロース米「ほっかりん」などについて紹介します。

ヒメトビウンカの海外からの飛来を予測する実運用情報提供システム

（独）農研機構九州沖縄農業研究センター　主任研究員　**大塚 彰 氏**

近年、西日本では従来の殺虫剤が効きにくいヒメトビウンカが６月初め頃に中国東部から飛来し、イネ縞葉枯病が多発する問題が起きています。そこで、ウンカの飛び立ちのタイミングと風、気温のデータを用いてウンカの移動を計算するモデルを作成し、それを基に飛来予測システムを開発しました。飛来が予測されると電子メールが病害虫防除所に通知され、飛来後の適切な薬剤選択、防除の必要な地域の推定等の対策に役立てられます。

縞萎縮病に強く、麦芽の溶けが適正なビール大麦の育成

栃木県農業試験場・麦類研究室長　**加藤 常夫 氏**

縞萎縮病抵抗性の安定生産性と実需者が求める高品質を兼ね備えたビール大麦の育成を目的とし、「アスカゴールデン」、「はるみやび」を育成しました。これらの新品種の製麦特性を評価し、「アスカゴールデン」の高品質特性を明らかにしました。また、新品種の栽培特性を基に栽培マニュアルを作成し、普及に活用しました。これらにより、平成25年播きで両品種合計で216haまで普及が進みました。

盛夏に新蕎麦が賞味できるソバ春まき栽培

（独）農研機構九州沖縄農業研究センター　専門員　**手塚 隆久 氏**

九州では温暖な気候を活用してそばを春に播種して初夏に収穫する新しい作型春まき栽培が可能です。春まき栽培は夏の需要期に新蕎麦を供給することができます。そこで、適切な栽培時期や肥培管理について検討しました。品種「春のいぶき」「宮崎早生かおり」を適品種として選定し、湿害を軽減する畝立て表層散播機を開発しました。品質を重視した収穫適期と乾燥方法を明らかにしました。

カラーピーマンの光照射追熟技術を利用した増収栽培技術の開発

山形県庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室　主任　**古野 伸典 氏**

国産品の安定供給が望まれているカラーピーマン（パプリカ）ですが、日射量や気温が低下する晩秋期や冬期に着色が遅れることや、収穫できない果実が大量に発生することが課題となっています。そこで、十分糖度は上昇しているものの着色が遅れている果実に対して、収穫後に光を照射して追熟を促進させる「光照射追熟技術」を開発し、その技術を利用した「増収栽培技術」を開発しましたので紹介します。

講演者等紹介

涼しい夏を活かす！ 国産夏秋イチゴ安定多収技術の開発・実証

（独）農研機構東北農業研究センター　主任研究員　**山崎 浩道 氏**

イチゴ夏秋栽培は、夏期高温のために生産量が極めて少なく、本栽培の安定多収技術の確立が強く求められています。そこで、夏期冷涼な北東北地域を対象に、安定多収技術の確立およびその現地実証を目的にして本事業を実施しました。その結果、良食味品種「なつあかり」等の実用的な日長処理方法を開発し、その有効性を現地で実証しました。本成果は夏秋イチゴの安定供給および地域農業活性化に寄与するものと期待されます。

化学農薬のみに頼らないオオバ病害虫の総合的病害虫防除技術

高知県農業技術センター　生産環境課長　**広瀬 拓也 氏**

使用できる農薬の少ないオオバで、農薬のみに頼らない総合的な病害虫防除技術を開発しました。利用するのは①結露センサー（商品名：まもるん、鈴木電子株式会社製）を用いた環境制御による病害の物理的防除、②天敵などを利用した害虫の生物的防除、③天敵などへの影響を考慮した農薬による防除、の3つです。これらを組み合わせることで、オオバで問題となる主要病害虫の発生を抑えることができます。

キサントモナス属細菌病害に広く効果がある微生物剤の開発

（独）農研機構中央農業総合研究センター　主任研究員　**井上 康宏 氏**

キサントモナス属細菌による病害は、主要な作物に深刻な経済的被害をもたらしています。そこで、これら病害に防除効果がある微生物農薬の開発を目的に、発病抑制効果を持つ、非病原性細菌を選抜しました。この菌を用いた試作製剤は、複数のキサントモナス属細菌病害に対して防除効果があり、その作用機構も明らかとなっています。現在、非病原性細菌の保存安定性を向上させる研究を継続しています。

養液栽培における高温性水媒伝染病害の安全性診断

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部生物工学研究室　室長　**三宅 律幸 氏**

養液栽培の野菜・花きに水媒伝染病害を引き起こす高温性ピシウム菌は生育が早く、伝染能力も高いため発病してからの対策では手遅れです。そこで、LAMP法を使った高温性ピシウム菌の簡易検出法を開発し、防除対策のための安全性診断マニュアルを作成しました。安全性診断を実施することによりトマト･ホウレンソウ･ミツバ･ネギ・バラ・ポインセチア・切りバラの適確な病害対策ができ、安全・安心な養液栽培が可能になります。

カキ栽培の軽労・省力化技術の開発

奈良県農業研究開発センター加工科　科長　**西野 精二 氏**

カキは全国で約13,500ha栽培され、150,000tが生産されています。しかし、その栽培面積は徐々に減少し、生産者も高齢化が進み後継者不足の状況となっています。これに対処するため、カキの主要生産県である奈良県（全国シェア20%）、和歌山県（同26%）および農研機構果樹研究所が、新規就農者や高齢者が取り組みやすいカキ栽培の軽労･省力化生産技術の開発に取り組みました。

地球温暖化に対応したビワ新品種「はるたより」の開発と温暖化進行後の適地変化予測

長崎県農林技術開発センター果樹研究部門ビワ・落葉果樹研究室　主任研究員　**稗圃 直史氏**

地球温暖化によりビワでは収穫期の高温による果皮障害の多発、収穫後の食味低下、病害の多発などが問題となっています。一方、冬期の最低気温の上昇により、栽培適地の拡大が見込まれます。そこで、高温果皮障害の発生がほとんどなく、日持ち性に優れ、がんしゅ病の発生がないなど温暖化に対応した特性を有する、大果で食味の優れるビワ新品種「はるたより」を開発しました。さらに、現在および将来の適地マップを作成しました。

気象変動に強く大幅省力化が可能なニホンナシ自家和合性品種の結実管理技術開発

新潟県農業総合研究所園芸研究センター　専門研究員　**松本 辰也 氏**

ニホンナシの栽培では人工受粉が必須であり、生産の不安定要素にもなっています。その対策として、自家和合性新品種を育成し、これら新品種の普及を加速する栽培技術の開発に取り組みました。研究では、新品種の結実安定性を解明し、花芽の「除芽」による省力管理技術等を開発しました。開発技術を組み合わせた試算で慣行栽培に比べて60%の省力効果を確認しました。現在、鳥取県と新潟県を中心に新品種の導入が進んでいます。

地球温暖化に対応したブドウおよびウメ新品種の開発と温暖化に伴う適地変化予測

（独）農研機構果樹研究所　領域長　**山田 昌彦 氏**

べと病・うどんこ病に抵抗性があり、酒質が‘シャルドネ’なみに高い白ワイン用ブドウ‘モンドブリエ’、高温でも着色しやすい大粒紫黒色で生食施設栽培用のブドウ福岡15号、黒星病抵抗性が強く、自家和合性で安定して結実し、品質が良好なウメ和歌山１号の３品種を開発しました。‘モンドブリエ’は酸含量、ブドウ福岡15号は着色性、ウメ和歌山１号は黒星病発生に基づく生産適地と地球温暖化進行後の変化を予測しました。

性フェロモンを用いてヒメボクトウのリンゴ、ナシへの被害を減らす

千葉大学大学院園芸学研究科教授　**中牟田 潔 氏**

ガの仲間であるヒメボクトウの幼虫によるナシやリンゴへの被害が、東北地方を中心に急速に増加しており、枝幹の枯損、収量の低下、栽培農家の生産意欲低下をもたらしています。そこで、本種の性フェロモンを利用した交信かく乱による被害低減技術の開発を試みました。交信かく乱により、成虫の交尾をほぼ100%阻害できること、成虫の出現時期に毎年継続的に使用することによりヒメボクトウの被害を減らせることを示しました。

世界的に貴重な遺伝資源を活かしたチューリップ新品種の育成と新規需要の創出

富山県農林水産総合技術センター園芸研究所　花き課副主幹研究員　**辻 俊明 氏**

新品種については、八重のユリ咲きの「なごり雪」など４品種を発表しました。栽培技術については、温度など栽培条件を制御することにより、高品質な切り花や鉢花の生産を可能としました。利用法については、多くの品種の芳香性や花持ち性の解析を行い、チューリップの香りを9種類に分類し香りの特徴を明らかにするとともに、花びらの細胞死が花持ちを決定する要因の一つであることを解明しました。

11 月 14 日（金）　10:20 ▶ 17:00　｜　セミナールームB

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究成果発表の説明

農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室

下水灰の肥料用原料化技術の開発研究

名古屋大学大学院工学研究科　助教　**窪田 光宏 氏**

リン鉱石の価格高騰に対して、我々はリン鉱石に匹敵するリンを含む下水汚泥焼却灰の肥料用原料への応用を目指し、塩化揮発法による微量重金属の分離・除去と硫酸抽出・電気透析分離法によるリン酸液回収に関する技術開発を実施しました。この結果、塩化揮発法による肥効を維持しながらの下水灰からの重金属の揮発除去を実証するとともに、硫酸抽出・電気透析分離法による回収リン酸液からの良質な燐安製造を実現しました。

越冬栽培を基軸としたコンニャク低コスト生産マニュアルの策定

群馬県農業技術センターこんにゃく特産研究センター・独立研究員　**飯塚 弘明 氏**

コンニャク栽培の大幅なコスト低減が可能な「コンニャク越冬栽培法」を確立し、「コンニャク低コスト生産マニュアル」を策定しました。越冬栽培を組み込んだ「越冬導入経営モデル」では、「慣行経営モデル」に対しコストが13%減少し、農業所得が23%向上します。また、その導入には栽培ほ場に制約があるものの追加投資が不要で、規模拡大も容易です。本技術の普及により、産地の安定的な維持・発展が期待できます。

中山間地域の茶業活性化に資する茶品種とその利用技術の開発

宮崎県総合農業試験場茶業支場　特別研究員兼育種科長　**吉留 浩 氏**

茶は、多くの中山間地で栽培されていますが、担い手不足や機械化の遅れだけでなく、温暖化等による不安定な気候から晩霜や病虫害も多発するようになり、安定した生産が年々厳しくなってきています。また、中山間地の傾斜地茶園においては、今までの乗用管理機では、大型で高額なうえ転倒の危険も高く導入が困難でした。このため、中山間地域の特徴を活かす品種育成とその利用技術および軽トラックで運べる管理機を開発しました。

講演者等紹介

減災対策を目的とした「豪雨時のため池の貯水位予測システム」

（独）農研機構農村工学研究所　上席研究員　**堀 俊和 氏**

豪雨時にため池から貯水が溢れて決壊する被害が多発しています。このため、簡単な現地調査結果や予測雨量を入力することにより、貯水位の上昇量を簡易に予測する解析システムを開発しました。本システムは、リアルタイムに6時間後までの貯水位を算定して決壊の危険度を予測することができます。さらに、予測雨量に応じた貯水位の低下量を算定することにより、事前放流などの減災対策を支援することができます。

自給飼料増産のための飼料作物品種の開発

（独）農研機構北海道農業研究センター　上席研究員　**佐藤 尚 氏**

自給粗飼料を増産するには優良な品種を用いることが重要です。そのため北海道向けの多収で耐倒伏性と混播適性に優れる中生のチモシー品種、府県向けでは越夏性に優れるペレニアルライグラス品種、再生性に優れる多収なスーダン型ソルガム品種を育成しました。そのほかアルファルファ、イタリアンライグラス、フェストロリウムの品種も育成しました。現在、種子の増殖を実施しており、数年後からの普及が期待できます。

高泌乳牛における泌乳持続性と繁殖機能改善を図る新たな周産期栄養管理技術の開発

広島大学大学院生物圏科学研究科　助教　**杉野 利久 氏**

高泌乳牛の乾乳期における栄養水準を適切に制御することで泌乳平準化を図る飼養管理技術の開発を試みました。乾乳前期の栄養制限は、繁殖機能を向上させるとともに、泌乳持続性を高めました。また配合飼料の代替として添加した中鎖脂肪酸Caは分娩後の乳量を増加させるとともに、牛乳中のヘキサナール（酸化臭の要因）を抑制することを明らかにしました。これら成果は、乳牛の健全性、乳量、乳品質の向上に繋がると期待されます。

イソマルトメガロ糖の生産技術開発・生理作用評価・ナノ素材構築

北海道大学農学部・教授　**木村 淳夫 氏**

メガロ糖は『構成単糖の重合度が１０から多糖』の糖質です。イソマルトメガロ糖はα-1,6グルコシド結合から成ります。本課題の目的は「メガロ糖の安定供給」と「利用形態の開発」です。メガロ糖を新規な酵素により生産し、安定な供給に成功しました。メガロ糖は腸管でのフラボノイド吸収を促進しました。また、優れた物性を発揮し新しいHPLC担体を作製できました。メガロ糖の有用機能を利用した新規な応用が期待されます。

きのこの有用変異形質を有する品種の育種と遺伝子情報を活用した変異検出系の開発

鳥取大学農学部　教授　**松本 晃幸 氏**

シイタケなど6種類のきのこ種を材料として、約1万の突然変異体を調査しました。胞子を作れない（無胞子性）、柄が短い、傘が開かない、アルビノなどの有用変異体を獲得し、品種開発を進めました。最新のきのこ遺伝子情報と解析技術により、菌糸体レベルでの効率的な選抜育種システムを確立しました。さらに、様々なきのこ種への原因遺伝子情報の応用が可能となり、きのこにおける突然変異育種の新たな展開が期待できます。

シイタケ原木栽培における放射性セシウムリスクの低減技術の開発

（独）森林総合研究所　領域長　**根田 仁 氏**

シイタケ原木栽培における放射能汚染のリスクを低減する技術を開発しました。セシウムを吸着する効果のあるプルシアンブルー、特にナノサイズ粒子を用いることで、移行低減効果をあげることができます。セシウムと拮抗作用のある塩化カリウムをプルシアンブルーと混合して噴霧する技術を開発しました。シイタケ原木の露地栽培における環境から原木への再汚染の状況を明らかにして、栽培の適地判別技術を開発しました。

林業被害軽減のためのニホンジカ個体数管理技術の開発

（独）森林総合研究所　研究コーディネータ　**小泉 透 氏**

シカは全国的に深刻な森林被害を引き起こしており、シカの行動特性を利用し少人数で確実にシカを捕獲する個体数管理技術の開発に取り組みました。この結果、少量の給餌や等身大のシカの型おとり、等によりシカを誘引誘導することができ、捕獲用のワナでは、森林内の立木を支柱として利用することにより大幅な軽量化と低コスト化を達成しました。これらの組み合わせがシカ個体数管理の新たな展開に貢献することが期待されます。

スギ・ヒノキ花粉症対策品種の効果的な普及に向けた取り組みの現状と対策

神奈川県自然環境保全センター　主任研究員　**齋藤 央嗣 氏**

花粉の少ないスギ・ヒノキは普及方法が課題でした。スギは採種園の外来花粉の影響があり、対策として簡易な覆い、花粉散布、温室内採種園、人工交配等の手法を確立しました。少花粉スギ材質は一般スギと差がありませんでした。ヒノキでは少花粉品種種子の早期供給技術、外部花粉軽減ハウス、さし木安定供給技術を開発しました。さらにDNA型データベース、林木のトレーサビリティーシステムを開発し、花粉症対策種苗の安定供給が可能になりました。

安全な間伐作業を実現する遠隔操作型伐倒マニピュレータシステムの開発

早稲田大学理工学術院　准教授　**白井 裕子 氏**

我が国の現場に根ざし、従来にはない発想で、林内作業を行うマニピュレータシステムを開発しています。本事業で3タイプを開発しました。まずポータブルマニピュレータ、これは立木を伐り倒す機械で、広く普及しているチェーンソを搭載し、小型･軽量で、持ち運べます。そして伐倒マニピュレータ、これはエンドミルを搭載し、三ツ紐伐りで立木を伐り倒します。3つ目は路網から外れた林地を走行するモビリティです。

沿岸シラスの最適漁場探索支援ツールの開発

（独）水産総合研究センター中央水産研究所　グループ長　**清水 学 氏**

「ちりめんじゃこ」の原料であるシラス（主にカタクチイワシ仔魚）は、漁業生産額も大きく沿岸漁業の重要な漁獲対象魚種です。しかし、シラスは遊泳力が小さいため、シラスの漁模様は海の様子に大きく左右されます。そこで、漁模様の判断に必要な、日々の海の情報と周辺海域のシラス漁獲情報（漁海況情報）を一元的に見られるシステムを開発・構築し運用を開始しました。これにより効率的・計画的で環境に優しい操業をめざします。

種苗生産の早期安定化と放流効果の正確な判定によるクルマエビ類の栽培技術の高度化

愛知県農林水産部水産課　主査　**原田 誠 氏**

クルマエビとヨシエビはともに単価の高い沿岸漁業の重要種であり、これらの資源を維持・増大させるために全国各地で種苗放流が盛んに行われています。しかし、漁獲量はクルマエビで最盛期の八分の一近くまで減少し、栽培技術の高度化が求められています。このため、従来よりも早期の種苗生産技術を開発し、早期の種苗放流を行うことで放流直後の魚類による食害を減耗させる技術開発に取り組みました。

遊休クルマエビ養殖池を活用したアサリ増養殖技術の開発

山口県水産研究センター内海研究部栽培増殖グループ　班長　**岸岡 正伸 氏**

遊休化したクルマエビ養殖池に人工種苗（2mm）を蒔き付けて、施肥により餌となる植物プランクトンを発生させてアサリを大規模育成する技術開発に取り組み、食害生物対策や雑藻対策、養殖用肥料開発により、安定的な育成が可能になりました。また、最終年度に試験池（0.5ha）において25mmのアサリを年間3kg／m^2（15トン）生産し、十分生産力のあることを確認しました。現時点では地まき用20mm種苗の大量生産への応用が期待されています。

シンポジウム

11月14日（金）　13:00▶14:30　｜　セミナールームD

農林水産物の機能性表示について

食品の新たな機能性表示制度の方向性について

塩澤 信良 氏

消費者庁食品表示企画課　食品表示調査官　**塩澤 信良 氏**

来年４月までに実施される新たな制度の概要について説明します。

農林水産物における機能性表示について

大谷 敏郎 氏

食品総合研究所　所長　**大谷 敏郎 氏**

機能性のある農林水産物の現状、表示に向けて必要な取組等について説明します。

講演者等紹介

機能性表示に向けた取組について

三ヶ日町農業協同組合　代表理事組合長　**後藤 善一 氏**

JA かごしま茶業株式会社　代表取締役専務　**酒瀬川 洋児 氏**

来年度の表示に向けた、団体としての具体的な取組について説明します。

後藤 善一 氏

酒瀬川 洋児 氏

復興支援

11 月 13 日（木）　13:00 ▶ 14:55　｜　セミナールームD

東日本大震災からの復興を支援する研究開発の取組と課題
～復興庁及び農林水産省の先端技術展開事業を事例として～

復興庁及び農林水産省では、東日本大震災の被災地を復興し、「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において、地元農業者や漁業者等の協力を得ながら、被災地で実証研究を行っています。本セミナーでは、被災地における生産現場での取組と課題を踏まえ、現地で取り組んでいる研究内容と研究進捗状況を紹介いたします。

「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の概要
農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課

震災からの復興のための生産現場での取組と課題（宮城県における土地利用型農業）
（有）耕谷アグリサービス　代表取締役　**大友 清康 氏**

大友 清康 氏

宮城県における土地利用型営農技術の実証研究
（独）農研機構東北農業研究センター　生産基盤研究領域長　**湯川 智行 氏**

湯川 智行 氏

岩手県の中山間地域における施設園芸技術の実証研究
岩手県農業研究センター　技術部南部園芸研究室長　**川村 浩美 氏**

川村 浩美 氏

福島県における花き栽培技術の実証研究
（独）農研機構花き研究所　花き研究領域上席研究員　**福田 直子 氏**

福田 直子 氏

岩手県におけるサケ生産技術の実証研究
（独）水産総合研究センター東北区水産研究所　沿岸漁業資源研究センター長　**堀井 豊充 氏**

堀井 豊充 氏

震災からの復興のための生産現場での取組と課題（カキ養殖の現場での取組）
宮城県漁業協同組合塩釜市浦戸支所　浅海養殖専門技術指導員　**後藤 邦雄 氏**

後藤 邦雄 氏

宮城県におけるカキ養殖技術の実証研究
（独）水産総合研究センター東北区水産研究所　特任部長　**神山 孝史 氏**

神山 孝史 氏

特別企画

11 月 14 日（金） 10:00 ▶ 16:00 ｜ 食料生産地域再生のための先端技術展開事業ブース内（会場中央）

食べて応援しよう！復興支援「農産物」「水産物」販売

食料生産地域再生のための先端技術展開事業では、東日本大震災の被災地で行われている様々な実証研究の対象となっている農産物や水産物、その加工品等を御紹介するとともに、被災地の復興を加速するための農産物・水産物の試食・販売を行います。

表彰

表彰 1 **11 月 12 日（水） 14:20 ▶ 15:30 ｜ メインステージ**

平成26年度（第15回）民間部門農林水産研究開発功績者表彰

農林水産業その他関連産業に関する研究開発に関して優れた功績をあげた民間企業や農林漁業者に対して、農林水産大臣賞、農林水産技術会議会長賞、JATAFF会長賞を授与するとともに、農林水産大臣賞受賞者による受賞講演を実施します。

【農林水産大臣賞】

飼料用トウモロコシ収穫用細断型ロールベーラの開発

髙田 雅透・松倉 崇博（株式会社 IHI スター）
岡嶋 弘・正田 幹彦（株式会社タカキタ）

本機により、収穫細断したトウモロコシを高密度なロールベールに成形することにより高品質なサイレージの調製が可能になるとともに、コーンハーベスタ等の既存機械と組み合わせることにより、従来５～６人を要した収穫調製作業が２名で完了し、大幅に省力化されました。

髙田 雅透

松倉 崇博

岡嶋 弘

正田 幹彦

講演者等紹介

固形化粉ミルクの製造技術の開発

柴田 満穂

大坪 和光

豊田 活

佐竹 由式

柴田 満穂・大坪 和光・豊田 活・佐竹 由式
（株式会社明治研究本部技術開発研究所）

顆粒の粉ミルクを圧縮し、得られた成形体の表面を加湿して乾燥することにより、原材料、組成はそのままで、添加剤などを一切使用することなく、輸送中の保形性と実用的な溶解性を兼ね備えた固形化粉ミルクの大量製造技術を開発し、衛生的で利便性に優れた製品を商品化しました。

オリーブ粕の飼料化技術の開発と地域ブランド化の推進

石井 正樹

石井 正樹（農業自営）

そのままでは牛の食べないオリーブ搾り粕について、高温乾燥製法により飼料化することに成功するとともに、この餌を給与した牛を香川県の「オリーブ牛」としてブランド化しました。

【農林水産技術会議会長賞】（民間企業部門）
トリフルオロメチルピリジン系農薬の開発

芳賀 隆弘

芳賀 隆弘（元石原産業株式会社）

既存の農薬分子中に共通中間体トリフルオロメチルピリジンを化学的に導入して新たな化合物を創り、さらにこれを化学修飾により高性能化する独創的な農薬合成法を開発し、国内外で広く販売されている除草剤・殺虫剤の製造に繋げました。

新規品質の小麦・米品種を用いた新たなパン製品の開発

井上 俊逸

藏滿 正朋

高光 健太郎

伊勢木 智行

栗田 木綿子

井上 俊逸・藏滿 正朋・高光 健太郎・伊勢木 智行・栗田 木綿子（敷島製パン株式会社）

我が国初の超強力小麦品種「ゆめちから」と「きたほなみ」のブレンドにより、外国産小麦と同等以上の加工適性、パン品質を持つ材料を作ることに成功し、国産小麦の新たなパン製品を開発するとともに、米粉パン用水稲品種「ゆめふわり」に「ゆめちから」を配合した米粉入り食パンを開発し、国産小麦と米粉の消費を拡大しました。

国産モミ米を配合した養鶏飼料「こめっ娘(こ)」シリーズの開発

宇野 秀雄

重城 光一

福永 菜摘

小笠原 由佳

宇野 秀雄・重城 光一・福永 菜摘・小笠原 由佳
（昭和産業株式会社）

モミ米は粒が大きく、雛は食べることができないので、モミ米を粉砕して成形加工する技術を開発し、ゼロ日齢の雛から採卵鶏まで給与可能な一連のモミ米配合飼料を開発し、国産飼料米の需要を拡大しました。

【農林水産技術会議会長賞】（農林漁業者部門）
温州みかん「北原早生」の育成と産地化

永野 正氣

北原 悦雄

河村 孝一

岡 昌則

永野 正氣・北原 悦雄・河村 孝一・岡 昌則
（南筑後農業協同組合柑橘部会）

自作の温州みかん園で着色が良く、糖度の高い果実が実る枝変わりを発見し、その優れた品質を特性評価により確認して、温州みかん「北原早生」として品種登録しました。さらにこの品種の最適な栽培法を確立し、高品質みかんの産地化に成功しました。

バラ「ローテ・ローゼ」の品種開発と普及

浅見 均

浅見 均（農業自営）

これまで欧米の品種が大部分を占めていた我が国のバラ栽培において、日本人好みのビロード色の大輪赤バラ「ローテ・ローゼ」など多数の品種を育成しました。特に「ローテ・ローゼ」は、長年にわたり我が国の赤バラ品種栽培面積のトップの座を占めました。

【公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会会長賞】

草刈作業機「e-スタイル・オフセットモア」の開発

株式会社ササキコーポレーション　技術開発部代表　**保土澤 定廣**

国産トラクタに簡単に装着でき、作業時の取扱いも容易な軽量の草刈作業機を開発し、水田の畦や休耕地などの草刈作業を軽労化・効率化しました。

飛躍的な軽労化を実現したにんにくの茎自動切断装置の開発

株式会社木原製作所　にんにく茎自動切断装置開発グループ代表　**佐々木 新悟**

本機の開発により、これまで剪定鋏での作業で膨大な時間と労力を要したにんにくの茎切り作業が、大幅に軽労化・効率化されました。

表彰２

11月12日（水）　15:40▶16:30　｜メインステージ

平成26年度(第10回)若手農林水産研究者表彰

農林水産業その他関連産業に関する研究開発に関して優れた功績をあげた若手研究者に対して、農林水産技術会議会長賞を授与するとともに、受賞者による受賞講演を実施します。

食品媒介性原虫感染症に対する新規薬剤の技術開発

加藤 健太郎（(国) 帯広畜産大学原虫病研究センター）

現在我が国では、感染症による食に対する危機感や風評被害が起こっており、国民の不信感は大きい。そこで本研究では、食品媒介性の原虫感染症、特にトキソプラズマ症について、感染源となる家畜を対象として、現在の原虫病対策に取って代わり、原虫独特の生活環を遮断することができる革新的な抗原虫薬の技術開発を行った。

アブラナ科野菜における分子育種の基盤構築とその応用

諏訪部 圭太（(国) 三重大学大学院生物資源学研究科）

アブラナ科野菜における分子育種の基盤構築を目指して、高精度・高汎用性の分子遺伝解析技術の開発とそれを基にした高精度詳細遺伝地図の構築を世界で初めて達成した。また、国際コンソーシアムとの連携による国際統一基準の規定や重要形質の分子機能・遺伝・進化等の解明を達成し、その知見は新品種開発に活用されている。

飛ばないナミテントウの育成と生物防除への応用に関する研究

世古 智一（(独) 農研機構近畿中国四国農業研究センター）

アブラムシの天敵であるナミテントウにおいて、放飼後すぐに飛翔して逃げられる問題を解決するため、集団の中から飛翔能力の低い個体を選抜する技術を開発し、飛翔能力を欠く系統を育成した。本系統は施設だけでなく露地でも高い定着率を示し、様々な作物とその栽培環境でアブラムシ防除に有効であることを実証した。

肉用牛の効率的生産および脂肪交雑推定に関する研究

橋元 大介（長崎県農林技術開発センター）

黒毛和種肥育牛生産における技術的課題解決に向け、早期肥育技術、おいしい牛肉の生産技術および超音波エコー画像を用いた精度の高い脂肪交雑推定ソフトの開発を行い、全国和牛能力共進会で活用され、長崎県初の内閣総理大臣賞を受賞した。また、県内の肉用牛関連事業への展開がなされ、「長崎和牛」ブランド力の強化に大きく寄与した。

ニホンジカの食品資源化に向けた衛生管理手法に関する研究

松浦 友紀子（(独) 森林総合研究所北海道支所）

著しい農林業被害を与えているニホンジカについて、猟区制度を用いた個体数調整法を提示し、野外で衛生的に内臓摘出する方法を明らかにした。また、女性狩猟者ネットワークを組織し、食肉利用とシカ管理について啓蒙活動を行った。これらの成果は害獣として扱われていた野生動物を林産資源として活用することに貢献した。

講演者等紹介

セミナー

セミナー１

11月12日（水） 10:10▶10:50 ｜メインステージ

農林水産研究の今後の展開

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課

新たな農林水産研究基本計画の策定に向け、今後の研究開発システムのあり方や研究開発の基本的な方向等について、その検討状況を紹介し、フェア参加者から意見や要望を聴取します。

セミナー２

11月13日（木） 10:20▶12:20 ｜メインステージ

「強み」のある農畜産物づくり
～マーケットイン型の品種・技術開発で「強み」のある農畜産物を生み出す～

農林水産省大臣官房政策課技術調整室

農業の成長産業化のためには、我が国の「強み」である優れた品種や高度な生産技術を用いて消費者や実需者のニーズに的確に対応するとともに、戦略的に知的財産等を活用し、品質やブランド等の「強み」のある農畜産物を日本各地に生み出すことが必要です。このため、農林水産省では品目別の推進の基本方向等を示した「新品種・新技術の開発・保護・普及の方針」を平成25年12月に公表しました。

現在、この方針に基づき、日本各地の100を超える産地において「強み」のある農畜産物づくりの取組を進めているところです。本セミナーではこれらの取組の中から、実需者ニーズに対応した産地づくりについて、成功につながる秘けつなどを探るとともに取組の加速化に向けた課題等について意見交換を行います。

新品種で拓く地域農業の未来～食農連携を実践的に進めるポイント～

後藤 一寿 氏

（独）農研機構中央農業総合研究センター農業経営研究領域　主任研究員　**後藤 一寿 氏**

「強み」のある品種開発から産地化までの成功事例を紹介し、ニーズに基づく新品種育種の展開や異業種間の連携による普及の仕掛け方についてポイントを解説します。

「醤油醸造に適した大豆『こがねさやか』の栽培と商品開発に向けた取組」

中田 佳幸 氏

高部 正温 氏

ヒガシマル醤油株式会社　業務部長　**中田 佳幸 氏**

株式会社高田商店　営業総務統括部長　**高部 正温 氏**

醸造用国産大豆のニーズ（多収、高タンパク、中粒で割れにくい）にあった品種選定、創業400年以上の老舗醸造メーカーと醸造原料取扱問屋、地元JA、普及センター等の連携による栽培技術指導など、ニーズに応えた大豆生産の実現に向けた産地と実需者が連携した取組について紹介します。

加工業務用需要に対応した機械化一貫体系によるキャベツ生産の実現

木村 幸雄 氏

若林 勝史 氏

彩喜株式会社　取締役社長　**木村 幸雄 氏**

（独）農研機構北海道農業研究センター大規模畑作研究領域　主任研究員　**若林 勝史 氏**

加工業務用のニーズ（大玉、硬い、水分が少ない等）にあった品種選定、機械収穫に適した生育斉一化等栽培技術開発、収穫機の改良、JRコンテナの利用等の低コスト輸送・流通体系の確立など、ニーズに応えた低コストキャベツ生産の実現に向けた産地と実需者が連携した取組について紹介します。

セミナー３　11月12日（水）13:00▶15:00 ｜セミナールームB

革新的技術緊急展開事業のセミナー

農業産業化ジャパンクオリティ・システム形成に向けた革新的生産技術体系の確立

デザイナーフーズ株式会社　研究戦略室長　**有井 雅幸 氏**

地下部や地上部環境のリアルタイムでのモニタリング、栽培したトマトの中身成分の大量迅速検査装置による測定に基づき、「栽培」と「中身成分」の関連性を明らかにすることによって、消費者ニーズに合致したトマトを生産するための革新的生産技術体系について紹介します。

青切り用調製機を導入したタマネギの省力収穫・調製体系の確立

香川県農業試験場企画・営農部門（農業機械担当）　主席研究員　**西村 融典 氏**

葉切り・根切り作業を自動化する調製機の開発、既存の歩行形収穫機やピッカーとを組み合わせた、タマネギ青切り出荷における迅速かつ省力的な収穫・調製作業体系について紹介します。

マルドリ方式・ICTなどを活用した省力的な高品質カンキツ安定生産技術体系とその実現のための傾斜地園地整備技術の実証

（独）農研機構　近畿中国四国農業研究センター傾斜地園芸研究領域　上席研究員　**根角 博久 氏**

カンキツ作における傾斜地園地を整備して軽労働で未収益期間を短縮するための技術、マルドリ方式による高品質生産支援技術を体系化、および機能性成分含量などの品質を保証して果実を供給するための技術開発の取り組みについて紹介します。

ICTを用いたシカ、イノシシ、サルの防除、捕獲、処理一貫体系技術の実証

三重県農業研究所　地域連携研究課　主幹研究員　**山端 直人 氏**

多数の大型檻・罠のWeb監視・操作システム、サル接近自動検知センサーシステム、それらの一元管理可能なクラウドシステム、捕獲効率と移動性が高い大型檻、捕獲後の処理作業を簡素化できるを機器などによる獣害対策の一貫技術体系について紹介します。

コンテナ苗を活用した低コスト再造林技術の実証研究

（独）森林総合研究所研究　コーディネータ（林業生産技術担当）　**田中 浩 氏**

国産材の供給力増加に向けた、効率的な再造林のための更新作業システム、高品質コンテナ苗の低コスト生産と高度利用技術、下刈省略施業の適用条件解明、コンテナ苗の安定供給システムなど、地域の環境条件、林業事情とニーズに合わせた再造林技術について紹介します。

脱カドミウム・イカ内臓飼料の最適化による高品質ブリ養殖の実証

（国）愛媛大学南予水産研究センター　客員准教授　**井戸 篤史 氏**

我が国の輸出戦略上重要な魚種であるブリにおいて、成長が確実に見込めるとともに飼料効率が改善される、安価な養殖ブリの飼料を紹介します。具体的には、未利用残渣であるイカ内臓のカドミウムを効率的に除去するとともに、ブリの嗜好性を高めるための処理をした飼料の開発・実証について紹介します。

セミナー３　11月13日（木）14:45▶17:00 ｜セミナールームE

イアコーン等自給濃厚飼料活用型低コスト家畜生産体系の実証

（独）農研機構　北海道農業研究センター酪農研究領域　上席研究員　**大下 友子 氏**

イアコーン・高品質イアコーンの栽培技術、牧草の採草多回刈利用など自給濃厚飼料の低コスト生産技術と自給粗飼料の生産向上技術、乳用牛・肉用牛・中小家畜の畜種別スマートフィーディング技術と高飼料自給率型畜産物の品質特性評価について紹介します。

講演者等紹介

効率的な家畜管理・草地管理法導入による公共牧場および繁殖農家の生産性向上技術の実証

（独）農研機構　畜産草地研究所草地管理研究領域　研究領域長　**山本 嘉人 氏**

排卵同期化などによる家畜繁殖管理の省力化技術、アブトラップや簡便な血液成分測定装置などによる家畜疾病発症リスク低減化技術、草地ゾーニングに応じた効率的施肥等による省資源・省力化草地管理支援システム、家畜飲水自動供給システム導入等による耕作放棄地放牧支援システム技術など、効率的な家畜管理・草地管理法について紹介します。

肉用鶏生産者収益を向上させる革新的鶏舎LED光線管理技術の実証

（国）神戸大学大学院農学研究科資源生命科学専攻　准教授　**本田 和久 氏**

肉用鶏のプロダクションスコアの向上に向けた鶏舎LED照明システム並びにプログラムの開発、肉用鶏における飼育実証、及び、技術体系の普及について紹介します。

ゲノム解析及び地域資源を活用した「長州黒かしわ」の効率的、省力的な生産技術体系の確立

山口県農林総合技術センター家畜改良研究室特産開発グループ　専門研究員　**伊藤 直弥 氏**

20種類以上の羽性遺伝子の解明に基づく、ゲノム解析を活用した「長州黒かしわ」の簡易な雌雄鑑別技術、魚アラ等の地域資源を活用した飼料自給率50%以上の「長州黒かしわ」生産技術体系の確立に向けた取組みについて紹介します。

サトウキビの安定・多収栽培技術の実証と高バイオマス量サトウキビの生産性評価

（独）農研機構九州沖縄農業研究センター作物開発・利用研究領域　研究領域長　**老田 茂 氏**

サトウキビ生産の安定化に向けて、有機物施用による保水技術や土壌水分センサーを用いた適期灌水技術の実証、および高バイオマス量サトウキビの生産性と圧搾について紹介します。

道産米の国際競争力強化と持続的輪作体系の両立に向けた実証

（独）農研機構北海道農業研究センター水田作研究領域　上席研究員　**村上 則幸 氏**

寒地における競争力の高い持続的な水田輪作体系の確立に向けた、地下灌漑などによる乾田直播の高度化技術、自動操舵補助装置などのICT活用技術、無代かき・疎植栽培技術、子実用トウモロコシの省力栽培技術等について紹介します。

農業生産法人が実証するスマート水田農業モデル ～IT農機・圃場センサー・営農可視化・技術継承システムを融合した革新的大規模稲作営農技術体系の開発実証～

（国）九州大学大学院農学研究院　教授　**南石 晃明 氏**

先進的大規模稲作経営における実用稲作技術のパッケージ化や、収量コンバイン等のIT農機を用いた農作業体系、作物生育・営農情報の可視化・管理手法など革新的生産技術の開発・実証の状況、圃場別情報の地図化・分析手法やFVSおよび広域水田圃場環境情報観測システムを融合した革新的大規模稲作生産情報収集・可視化手法などについて紹介します。

セミナー３　11月14日（金）　14:10▶16:15　｜　セミナールームE

海外輸出に対応できる日本茶生産体系の実証研究

（独）農研機構野菜茶業研究所茶業研究領域　上席研究員　**根角 厚司 氏**

品種、物理的防除法および光制御技術による減農薬、高品質化栽培技術、新製茶ハイブリッドラインによる低コストてん茶・CTC緑茶加工技術や、新型揺青機などによる安定的香味発揚技術による高品質釜炒り茶加工技術など、新しい栽培、加工技術による高品質で輸出ニーズに対応できる茶生産体系について紹介します。

栽培施設リノベーションと６次産業化による攻めのイチゴ生産実証

山口県農林総合技術センター農業技術部園芸作物研究室　専門研究員　**鶴山 浄真 氏**

スライドベンチ機構で低コストに多植化する栽培システムリノベーション、採光性と耐候性に優れるダブルアーチ構造とする栽培ハウスリノベーション、多収次世代品種の花成特性を活かした省力かつ長期の安定生産技術などについて紹介します。

地域間連携による低投入型・高収益施設野菜生産技術体系の実証

徳島県立農林水産総合技術支援センター農産園芸研究課　統括研究員　**板東 一宏 氏**

屋根面パネル、自律調光システム、簡易設置型パッド&ファン、CO_2コントローラ等の暑熱対策等環境制御技術、中山間地の湧水利用培地冷却など低投入型の省力・多収トマト栽培システム、無育苗栽培法を核とした省力・多収イチゴ密植高設栽培システム、および中山間地と平坦地の標高差利用地域間連携について紹介します。

寒地畑作地域における省力技術体系と ICT 活用を基軸とした スマート農業モデルの実証

（独）農研機構北海道農業研究センター大規模畑作研究領域　上席研究員　**渋谷 幸憲 氏**

寒地畑作の規模拡大においてネックとなっているテンサイ・バレイショの収穫作業体系の省力化と直播テンサイの狭畦密植栽培技術や、野菜類（キャベツ・ニンジン）の機械化収穫体系、GNSSガイダンスや自動操舵などのICTを利用した高精度作業支援技術の中から今年度、実証済みの技術を中心に紹介します。

暖地における原料用かんしょと加工用露地野菜の 大規模機械化生産体系の確立

（独）農研機構九州沖縄農業研究センター畑作研究領域　上席研究員　**杉本 光穂 氏**

暖地畑作の規模拡大と収益向上に向けた省力化技術として、苗の小型化によるかんしょの育苗・植付け作業の機械化技術並びに冷凍加工用ホウレンソウの機械化一貫体系について紹介します。

（民間実用化研究促進事業）
緑化用培養スナゴケの大規模栽培と利用技術

株式会社明豊建設経営戦略室　**鈴川 一行 氏**

緑化植物スナゴケの高速培養技術研究から派生した大規模圃場栽培技術・圃場栽培を応用したスナゴケ緑化資材の開発と施工技術、及び施工現場から苔を回収して再利用する循環型緑化事業モデルを紹介します。

温故知新　掘り起し研究開発が産学官連携で大加速!!
もみ殻と新幹線?　竹がコーヒーに?

生01 生産

もみ殻循環プロジェクトチーム

共同研究機関　富山県立大学/JAいみず野/射水市/(一社)地域環境資源センター/北陸ボートサービス(株)　協力:(学)早稲田大学

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　14日(金) 13:35～14:00

●お問合先：TEL. 0766-56-7500　FAX. 0766-56-0396
E-mail. tateda@pu-toyama.ac.jp/takeuchi_yoshiki@city.imizu.lg.jp
●所在地：〒939-0398 富山県射水市黒河5180 富山県立大学　工学部
●URL: http://www.pu-toyama.ac.jp

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

もみ殻の燃焼制御技術を確立させたことで非晶質のシリカが生産できるようになりました。もみ殻灰が、①農業用珪酸資材②工業資材（無機珪酸ポリマー化）となることから、①灰から製造する珪酸肥料の試作品と、②ジオポリマーコンクリート製品（新幹線のまくらぎ等、早稲田大学と鉄道総研の研究開発品）を展示します。　また、研究メンバーが竹林整備を行う傍ら、趣味が高じて、間伐竹炭コーヒーを作ってしまいました。ささやき（笹焼）コーヒーと言います。澄み切ったその味も試飲いただけます。

【マッチング希望】

この技術は、農家、農協、農学・工学・土壌学・鉱物学の専門学者、廃棄物・ボイラー・農業施設・燃焼炉等の企業、農業試験機関、行政等たくさんの人の力のおかげで開発された「究極のローテク」を駆使した新技術です。温室効果ガス排出抑制に大きく貢献でき、農業界、工業界では初の製品開発に繋がるでしょう。

「“木”の科学と応用」をテーマに再生可能な資源エネルギー源である木材の広範な用途を紹介

生02 生産

(国)東京農工大学

●お問合先：TEL. 042-388-7550　FAX. 042-388-7553
E-mail. suishin@ml.tuat.ac.jp
●所在地：〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16 先端産学連携研究推進センター
●URL: http://www.rd.tuat.ac.jp/support/urac/

【出展内容】　実物展示 あり

環境保全、環境資源の視点から5つの研究・技術を紹介します。コンクリートに代わる森林や渓流の生態系や景観に優しい木材と砂礫を用いた新しいタイプの治山施設の開発◆燃え易いスギで実現した防火地域で現しで使える耐火1時間の構造用集成材◆木造構造物の内部や木造文化財の劣化診断に有用な微生物の“ニオイ”成分を利用する非破壊診断◆木質バイオマスの量や質を制御するための樹木の細胞分裂および細胞分化制御機構に関する研究◆リサイクルに伴う紙物性や構造変化の検討、セルロースナノファイバーの紙分野への応用に関する研究

【マッチング希望】

牛・豚・鶏等の多くの家畜と畜産の先進的な技術・フィールドを使った研究・調査が出来ます。

生03 生産

(独)家畜改良センター

●お問合先：TEL. 0248-25-6162　FAX. 0248-25-3982
E-mail. webmaster@nlbc.go.jp
●所在地：〒961-8511 福島県西白河郡西郷村大字小田倉字小田倉原1番地
●URL: http://www.nlbc.go.jp

【出展内容】

家畜改良センターが保有する技術・家畜・フィールドを使った共同研究、調査等の事例を紹介し、新規共同研究・調査等の相手を募集します。

【マッチング希望】

家畜改良センターでは、畜産の先進的な技術についての情報交換及び、新たに共同研究や調査を一緒に行っていただける機関を求めています。

酪農における自動搾乳牛舎における省力・精密飼養管理システムに係わる事業化構想を展示します

生04 生産

オリオン機械(株)

共同研究機関　北海道大学/酪農学園大学

●お問合先：TEL. 026-245-1230 (代)　FAX. 026-245-5629
E-mail. rakuno@orionkikai.co.jp/watanabe-hidetoshi@orionkikai.co.jp
●所在地：〒382-8502 長野県須坂市大字幸高246
●URL: http://www.orionkikai.co.jp

【出展内容】　実物展示 あり

酪農における省力機器として、自動搾乳システムであるマルチボックスシステム MIoneを実物展示し、実演します。また、関連開発テーマとしては、「乳質測定装置」、「3Dセンサーによる個体情報、残飼量判定装置」、「生乳熱・地中熱回収による冷温コントロールシステム」などパネル展示し、精密飼養管理システムの紹介をします。

【マッチング希望】

酪農における自動化では、センシング技術の利活用・応用により牛体情報の収集とより高度な分析が求められています。異業種含め、固有の技術、アイデアをお持ちの機関などとのマッチングを希望します。

信州大学で育成したリンゴ新品種と赤果肉リンゴの普及拡大に向けた技術開発の紹介

生05 生産

(国)信州大学農学部

共同研究機関　三井金属計測機工(株)

●お問合先：TEL. 0265-77-1412　FAX. 0265-77-1412
E-mail. ykaraki@shinshu-u.ac.jp
●所在地：〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村8304 信州大学農学部
●URL: http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

信州大学で育成したリンゴ新品種と赤果肉リンゴの普及拡大に向けた技術開発の紹介出展①リンゴ新品種の紹介、②赤果肉リンゴ品種の栽培技術の紹介、③赤果肉リンゴの加工用途の開発、④非破壊センサを用いた赤果肉リンゴのアントシアニン含量の非破壊計測『パネル、実物展示、試食』

【マッチング希望】

九州大学農学研究院で行っている研究や開発を紹介します！ 生 06 生産

(国)九州大学　農学研究院

●お問合先：TEL. 092-642-7459　FAX. 092-642-2804
●所在地：〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 農学部1号館
●URL:　http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

●有用きのこ冬虫夏草（Ophiocordyceps sinensis）の新規栽培法と健康食品開発ーヒマラヤ地方の原種菌を用いた試験結果ー
●九州大学ブランドビーフ「Q Beef」:ウシの体質制御と国内植物資源をフルに活用した革新的牛肉生産システムの構築
●情報化農業支援システム「Agrieye」および関連技術・製品の展示等

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

長崎県が保有する品種・技術の中で、原料・製品として供給が見込めるものを展示・実演します。 生 07 生産

長崎県農林技術開発センター

共同研究機関　長崎大学/九州大学/長崎県立大学/総合科学大学/産業総合研究所等

●お問合先：TEL. 0957-26-4328　FAX. 0957-26-9197
E-mail. s07750@pref.nagasaki.lg.jp
●所在地：〒854-0063 長崎県諫早市貝津町3118
●URL:　http://www.n-nourin.jp/nougi/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

●高い健康機能を有する発酵茶2種（ビワの葉と茶葉を混合揉捻して発酵させた茶及びツバキ葉と茶葉を混合揉捻して発酵させた茶）とその実物（ティーバッグ）展示
●業務用需要を狙った有色バレイショ品種（アントシアンを含む赤肉品種とゼアキサンチンを含む黄肉品種）の生果とその加工品展示
●搾油時に加熱しないことで特有の匂いを抑えたツバキ油とそのツバキ油を活用したハンドオイルの展示
●生体時のエコー画像により脂肪交雑等の牛の肉質を推定するシステムの展示

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

高機能茶や椿油は県内で一次加工まで行っていますが、より消費者の嗜好に合致した商品開発や新たな販路拡大につながる連携先を求めています。バレイショ品種は加工・業務用の需要を探っているところです。脂肪交雑推定システムは製品化に向けて動き出しており、協力企業と販路の開拓を計画しています。

小型電動噴霧器モーターフォグ、軽量小型ながら比較的遠方へ細霧状に噴霧できる。 生 08 生産

(公財)高知県産業振興センター/(公)高知工科大学

●お問合先：TEL. 088-852-3838　FAX. 088-852-3899
E-mail. info@tosanoki.co.jp
●所在地：〒781-1105 高知県土佐市蓮池910番地
●URL:　http://www.tosanoki.co.jp

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

小型電動噴霧器を大型化に向けて、モーター及び噴霧ノズルの改良・開発。小型電動噴霧器をベースに高知工科大学松本教授のご指示を頂き、計測実験機を制作し、モーターの性能を明確にし、大型に向けて開発中。畜産業、主に養鶏・養豚業界にニーズを求めて開発しており、この出展を機に新たなニーズの拡大、金属加工業者への制作依頼をはかりたい。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

本製品のような小型電動噴霧器は、今までになかっただけにその用途は多々あると考えられる。農業用にと考え開発してきたが、今では老人ホーム構内が乾燥する冬場の加湿に高知県・岐阜県で使われ始めている。このように多くの方に観て頂くことで製品の使い方・ご意見等を聞くことができ、製品化へのご指摘や大きな励みとなるものである。

ゲノム情報を利用した高付加価値ソバの育種技術開発 生 09 生産

(学)新潟薬科大学　産官学連携推進センター

●お問合先：TEL. 0250-25-5402　FAX. 0250-25-5021
E-mail. liaison@nupals.ac.jp
●所在地：〒956-8603 新潟県新潟市秋葉区東島字山居265番地1
●URL:　http://www.nupals.ac.jp/liaison/

【出展内容】

ソバは、メタボリック症候群などの予防に有効な機能性成分を豊富に含むことから、栄養学的に有用な健康食品素材として注目されています。本出展では、ゲノム情報を利用した高付加価値ソバの開発とその育成について紹介します。その他、新潟薬科大学のもつ研究シーズや産官学連携の取り組みを紹介します。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

大阪府立大学植物工場研究センター及び葉菜類生産実証PJの紹介。 生 10 生産

(公)大阪府立大学　植物工場研究センター

●お問合先：TEL. 080-4075-7388　FAX. 072-275-7894
●所在地：〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
大阪府立大学 C21棟　植物工場研究センター
●URL:　http://www.plant-factory.21c.osakafu-u.ac.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

大阪府立大学　植物工場研究センター及び葉菜類生産実証PJの紹介。
プロジェクトメンバー：大阪府立大学、エスペックミック（株）、（株）ダスキン、（株）大和真空、ダイキン工業（株）、（株）椿本チエイン、三進金属工業（株）

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

山梨ならではの気候、風土を活かした研究成果をご覧ください。 生 11 生産

(国)山梨大学

●お問合先：TEL. 055-220-8756　FAX. 055-220-8757
E-mail. chizai@yamanashi.ac.jp
●所在地：〒400-8510 山梨県甲府市武田四丁目4番37号
●URL:　http://www.yamanashi.ac.jp/

【出展内容】　試飲・試食 あり

①新規微生物を用いた植物病害防除：バチルス属の微生物を用いたブドウの病害防除方法。ワインの試飲
②甲州ブドウ培養細胞を用いた機能性素材の生産
③金属ナノロッドを利用したタンパク質の検知
④金属ナノ粒子を用いたポリフェノール類センサ
⑤油脂酵母

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

県で育成された魅力的な品種、画期的な技術を紹介します。品種利用、共同研究等ご相談ください。

生12 生産

栃木県

●お問合先：TEL. 028-623-2313　FAX. 028-623-2315
E-mail. agriinfo@pref.tochigi.lg.jp
●所在地：〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20　栃木県庁 農政部経営技術課
●URL: http://www.pref.tochigi.lg.jp/index.html

【出展内容】　実物展示 あり　試飲･試食 あり

①試験場育成品種の紹介（水稲「とちぎの星」「なすひかり」、うど「栃木芳香1号･2号」、なし「にっこり」、あじさい「きらきら星」、いちご「スカイベリー」「なつおとめ」）及び試食（なし「にっこり」）
②研究成果の紹介（なし根圏制御栽培、キク赤色LED電照装置）
③農産物の新しい利用法（大麦の食品利用、なしの一次加工）
④農業試験場が保有するシーズの紹介、昨年度フェアにおけるマッチング成果の紹介

【マッチング希望】

既存の栽培施設を利用した環境制御と植物体のセンシングによる栽培の効率化を実現。

生13 生産

（株）同位体研究所

研究・技術プレゼンテーション	●B会場　12日(水) 11:30～11:55

●お問合先：TEL. 045-718-5457　FAX. 045-502-4555
E-mail. test@isotope-lab.com
●所在地：〒230-0045 神奈川県横浜市鶴見区末広町1-1-40
横浜市産学共同研究センター
●URL: http://www.isotope.sc/

【出展内容】　実物展示 あり

・植物体内の水分量測定用の水分センサー（慶応大学との共同開発）
・温室内の栽培環境センサー及び栽培情報クラウドシステム

【マッチング希望】

最先端のゲノム情報解析技術や分子育種関連技術を駆使してあらゆるニーズにお応えします

生14 生産

（公財）かずさDNA研究所（DNA解析センター）

●お問合先：TEL. 0438-52-3505　FAX. 0438-52-3924
E-mail. biosup-dna@kazusa.or.jp
●所在地：〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足2-6-7
●URL: http://www.kazusa.or.jp/

【出展内容】

DNA解析センターの受託業務内容（DNAマーカー開発、品種識別・純度検定、塩基配列解析、バイオインフォマティクスによる塩基配列データの分析など）を紹介します。これまで培ってきたゲノム解析の技術やノウハウを最大限に活用して、農作物等産業上重要な植物のゲノム構造・情報解析、遺伝マーカーの開発や大規模タイピングを行い、バイオ産業の発展や農業の活性化に貢献します。
展示ブースではDNA解析センターのパンフレットや受託解析事例等の紹介資料を配布いたします。

【マッチング希望】

さまざまな生物のゲノム情報を有効に活用するための基盤となるデータ収集や関連する研究開発について、また種々の検出方法や解析技術を駆使して農作物を含むさまざまな植物でのDNAマーカーの活用等をサポートします。

「山の頂から海の底まで」を対象とする食･環境･農林水産に関する研究シーズと地域連携の紹介

生15 生産

（国）三重大学大学院生物資源学研究科

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　14日(金) 14:45～15:10

●お問合先：TEL. 059-231-9502　FAX. 059-231-9634
E-mail. renkei@bio.mie-u.ac.jp
●所在地：〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577　三重大学 生物資源学部
●URL: http://www.bio.mie-u.ac.jp/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲･試食 あり

三重大学大学院生物資源学研究科は「山の頂から海の底まで」を対象として、充実した組織･施設･設備のもと、教育研究活動に邁進しています。この中で、三重大学が誇る“食・環境・農林水産”に関するシーズを紹介します。
①農業ICTにおける植物センサー：スマート農業に必要不可欠なセンサーについて
②マリンフードイノベーション：水産業の発展と次世代漁業経営育成のため、地域産業との共同研究や産学官連携を展開できる体制作り
③サカナでヒトを釣る!金魚（スイホウガン）の実物展示有
④大学の生産品の試食（梅酒・梅ジャム）

【マッチング希望】

『農業情報のプロ集団』からの情報発信
～ICTを活用した食･農･環境及び食文化シーズの紹介～

生16 生産

（一社）ALFAE

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　13日(木) 11:30～11:55

●お問合先：TEL. 080-4223-7380　FAX. 059-231-9249
E-mail. info@alfae.org
●所在地：〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅3丁目24番8号 三立ビル3F
●URL: http://www.alfae.org/

【出展内容】　実物展示 あり

■展示内容の概要：一般社団法人ALFAEは、「食・農・環境」の豊かな発展を目指す 産学官民連携組織です。会員の協働で得られた最新の成果のいくつかを、今後の普及が見込まれるシーズとして展示します。
展示1：一般社団法人ALFAEの紹介、展示2：食・農・環境・文化・教育を繋いで考える「食のアカデミー」、展示3：スマート六次産業化と農業サービス、展示4：一般社団法人と農業ICTの標準化、展示5：農業ICTにおけるセンサー体系、展示5：農林水産業とガイドウェア

【マッチング希望】

ウシなどの産業動物の計画生産に係る有用な生殖工学技術を紹介する。

生17 生産

（国）富山大学

●お問合先：TEL. 076-445-6392　FAX. 076-445-6939
E-mail. chizai@adm.u-toyama.ac.jp
●所在地：〒930-8555 富山県富山市五福3190
●URL: http://www3.u-toyama.ac.jp/totlo/

【出展内容】

①低受胎率受精卵の発生率改善培地
ヒト生殖補助医療や、ウシなどの産業動物の計画生産において、体外受精や顕微授精、胚移植などの生殖工学技術はコアとなる非常に重要な技術である。本シーズは、その中でも「受精卵を体外で効率よく胚盤胞にまで発生させる」ことに着目したもので、アミノ酸の制御を行い、従来の方法ではほとんど発生しなかったDBA/2Jマウス受精卵を高率に胚盤胞まで発生させることに成功している。今後、ウシやヒト受精卵での検証実験等を始める予定である。

【マッチング希望】

大気中から高濃度CO_2ガスを生成する装置を紹介／
農作物の生育アップ、品質向上を図ります！

生 18
生産

島根県産業技術センター/(学)早稲田大学産学官研究推進センター/大福工業(株)

●お問合先：TEL. 0852-60-5141　FAX. 0852-60-5144
E-mail. sangisen@pref.shimane.lg.jp
●所在地：〒690-0816 島根県松江市北陵町1番地 テクノアークしまね
●URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/syoko/kikan/shimane_iit/

【出展内容】 実物展示 あり

天然ゼオライトを利用した空気中の二酸化炭素の濃縮方法と濃縮二酸化炭素の農業利用について紹介します。
<装置の特徴>★高濃度のCO_2ガスを連続で生成★従来の二酸化炭素施用機より、ランニングコストを低減★灯油、ガスなどの熱源を利用しないので、通年利用が可能★大気中の二酸化炭素の利用により、地球温暖化防止に貢献
○試作した二酸化炭素濃縮装置の実物展示
○天然ゼオライト鉱石の展示
○プロモーションビデオ放映

【マッチング希望】
共同研究 製品化 技術移転 資金

植物工場向け、低価格な養液浄化装置。
容易なメンテナンス、設置が簡単、野菜の安心と安全。

生 19
生産

島根県産業技術センター/松江土建(株)

●お問合先：TEL. 0852-60-5141　FAX. 0852-60-5144
E-mail. sangisen@pref.shimane.lg.jp
●所在地：〒690-0816 島根県松江市北陵町1番地 テクノアークしまね
●URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/syoko/kikan/shimane_iit/

【出展内容】 実物展示 あり

松江土建㈱と島根県産業技術センターで共同開発を行っている養液浄化装置の紹介、およびデモ機の展示を行います。養液浄化装置は、植物工場等における培養液の殺菌および有機物分解能を有した技術であり、可視光（青色）LEDと光触媒を使用した簡単な構造です。本展示会では、ポスターによる養液浄化装置の説明およびデモ機の実運転を行います。

【マッチング希望】
共同研究 製品化 技術移転 資金

畜産動物の効率的人工授精技術

生 20
生産

(国)岐阜大学

●お問合先：TEL. 058-293-2087　FAX. 058-293-2022
E-mail. odah@gifu-u.ac.jp
●所在地：〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1
●URL: http://www.gifu-u.ac.jp/

【出展内容】

畜産動物の効率的人工授精技術
畜産現場では夏の室内温度上昇により精子の活動能力が低下し、いわゆる夏季不妊症が問題となっている。今回、家畜の皮下脂肪から分離精製した脂肪幹細胞に精子を混和すると精子の運動が活発になり受精率が飛躍的に向上することを見出した。これにより夏季不妊症が解消できる。ブタでのデータを示すが、他の家畜動物への応用も技術的には可能である。

【マッチング希望】
共同研究 製品化 技術移転 資金
畜産動物の効率的人工授精技術に興味ある企業の方をお待ちしています。

情報工学との連携により農業分野の情報インフラの構築と
ウェブサービス開発を進めます。

生 21
生産

(国)名古屋大学ICT活用農業 事業化・普及プロジェクト

共同研究機関：愛知学院大学/愛知工業大学/愛媛大学/信州大学/中部大学/三重大学/JAあいち経済連/愛知県農業総合試験場/東海地域生物系先端技術研究会/豊田市/(株)サンライズファーム豊田/浜松ホトニクス(株)/三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)

講演 異分野融合	●E会場　13日(木) 13:00～14:00

●お問合先：TEL. 052-747-6786　FAX. 052-747-6796
E-mail. agribusiness-nu@aip.nagoya-u.ac.jp
●所在地：〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町 インキュベーション施設105号室

【出展内容】 実物展示 あり

我が国では丁寧な生産・流通により品質の良い農産物が消費者に届けられていますが、篤農家の高齢化や、海外からの輸入産物の流入等により、国内農業を取り巻く状況は決して優しくはありません。本研究計画では、個々の農家の圃場の生育環境、農作物の生育状況などの情報をセンサー等から取り入れ、これらを元に栽培管理作業や経営情報などの必要とされるサービスを農家に提供するシステムを開発することを目的としています。本発表では本研究拠点が目指す ICT 活用農業普及に向けての活動ならびに研究計画について紹介します。

【マッチング希望】
共同研究 製品化 技術移転 資金

産学公で開発した「攻めの農業」を実現する
革新的技術を紹介します！

生 22
生産

攻めのイチゴ生産実証コンソーシアム&施設園芸省エネ協議会

研究・技術 プレゼンテーション	●C会場　14日(金) 11:30～11:55

●お問合先：TEL. 083-927-0211　FAX. 083-927-0214
E-mail. hidaka.teruo@pref.yamaguchi.lg.jp
●所在地：〒753-0214 山口県山口市大内御堀 1419
（山口県農林総合技術センター農業技術部園芸作物研究室内）
●URL: http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a172010/00000001/index.html

【出展内容】 実物展示 あり　実演 あり　試飲・試食 あり

①山口型イチゴ移動式高設栽培システム「スライドらくラック」による高位生産と省エネ、②2重アーチ構造によるパイプハウスのリノベーション技術（間口5.7m、奥行き3.8m、高さ3.5mのハウスを実物展示する）、③高保温性内張り資材（布団資材）による省エネと暑熱対策効果、④局所加温用テープヒータシステムによる省エネ、⑤太陽光エネルギーを蓄熱利用するイチゴ省エネシステム

【マッチング希望】
共同研究 製品化 技術移転 資金
現地普及、実用化、製品化のためのパートナーとの出会いを求めています。

人の手に触れない大粒完熟イチゴの超高品質流通技術、
生産～流通の一貫技術開発を紹介します。

生 23
生産

(国)宇都宮大学

研究・技術 プレゼンテーション	●C会場　12日(水) 13:00～13:25

●お問合先：TEL. 028-649-8649　FAX.
●所在地：〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
●URL: http://www.utsunomiya-u.ac.jp/

【出展内容】 実物展示 あり　実演 あり　試飲・試食 あり

完熟状態の大粒イチゴの高品質流通を可能にする包装技術、果実格納方法、品質保持技術、品質評価技術などの紹介を行います。特に、イチゴに非接触で容器に格納し、流通時の損傷を生じない個別包装技術、適熟イチゴの検出・収穫・格納を自動で行うイチゴ収穫・格納ロボットを展示・実演します。また、地域イノベーション「とちぎフードイノベーション戦略推進地域」が進める、イチゴの生産、加工、流通までの一貫した技術開発戦略支援プログラムをご紹介いたします。そして、大学が開発した水稲品種「ゆうだい21」の展示試食を行います。

【マッチング希望】
共同研究 製品化 技術移転 資金

日本で開発されたユビキタス環境制御システムの紹介

生 24
生産

ユビキタス環境制御システム研究会

●お問合先：TEL. 086-251-8304　FAX. 086-251-8304
E-mail. ysbken@okayama-u.ac.jp
●所在地：〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
岡山大学農学部野菜園芸学研究室内　ユビキタス環境制御システム研究会事務局
●URL:　http://www.uecs.jp

【出展内容】　実物展示 あり

施設園芸用自律分散型環境制御システムであるUECSに対応するにはどのようにすればよいのかを示すために、試作品などによるUECS対応機器の実物展示を行います。具体的には複合環境制御盤、各種センサのUECS対応機器、ソフトウェアの展示を行います。また、UECSに関するポスター展示を行います。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

ユビキタス環境制御システムは環境制御の手法がオープンなシステムで、通信規約に基づいて開発することで簡単にシステムに組み入れる機器が開発可能です。新たな機器開発、ソフトウェア開発での参画を期待しております。

家畜飼養施設などへの病原性微生物の
侵入・病気の蔓延を防ぐ、安全な殺菌・消毒装置を開発!!

生 25
生産

静岡県畜産技術研究所

共同研究機関　(株)ハマネツ/(株)ピーズガード/日本無機(株)/静岡大学

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　13日(木) 10:55～11:20

●お問合先：TEL. 0544-52-0146　FAX. 0544-52-0140
E-mail. chikugi-kankyo@pref.shizuoka.lg.jp
●所在地：〒418-0108 静岡県富士宮市猪之頭1945
●URL:　http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-860/index.htm

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

家畜飼養施設への病原性微生物の侵入・病気の蔓延を防ぐため、当所と民間企業・大学との共同研究により開発した、安全性が高く低コストな、下記の殺菌・消毒装置について、パネル展や・実物展示を行います。実物展示をする装置は、実際に稼働の様子をご覧いただいて、操作性や効果を確かめていただくこともできます。
①高濃度オゾン水製造技術を用いた、設置型車両消毒装置
②水電解式オゾン水製造技術を用いた、可搬型車両消毒装置
③畜舎内消毒用のドライミスト噴霧装置及び低刺激・低腐蝕性次亜塩素酸ナトリウム製剤

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

開発した装置は、いずれも実用化レベルに達していますが、導入事例が乏しいため、現地実証試験を行っていただける研究機関・農場とのマッチングを希望しています。また、この技術を農林・水産・食品加工分野への応用を進めてゆきたいので、関係業界のみなさんからのご意見・ご提案を頂きたいと思います。

高い変性温度と高い強度の新コラーゲン素材

生 26
生産

(国)東京工業大学　田中・生駒研究室

研究・技術プレゼンテーション	●D会場　14日(金) 15:40～16:05

●お問合先：TEL. 03-5734-3960　FAX. 03-5734-2519
●所在地：〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1, S76 南7号館815号室
●URL:　http://www.bio.ceram.titech.ac.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

骨・軟骨などの再生医療材料として研究開発を行っている魚由来コラーゲンについて、養殖技術・素材抽出から水酸アパタイト/コラーゲン複合体等の細胞応答に至る各シーズ段階の材料・製品に関するパネル展示・紹介を行う。コラーゲン素材や人工骨等の実物を展示する。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

優良種苗の紹介と植物品種の保護活用

生 27
生産

(独)種苗管理センター

●お問合先：TEL. 029-838-6587　FAX. 029-839-1183
E-mail. toiawase@ncss.go.jp
●所在地：〒305-0852 茨城県つくば市藤本2-2
●URL:　http://seed.ncss.go.jp

【出展内容】　実物展示 あり

種苗管理センターで供給している82品種の馬鈴薯原原種（調査用種苗を含む）並びに植物遺伝資源を展示紹介する。また、新品種育成の活性化や、新品種を地域特産物として活用する活動を支援するため、当センターでは、これまで品種保護活用相談窓口を設置しており、6次産業化を支援するための活動等について紹介する。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

千葉県で開発した農業現場に役立つ
新技術・新品種を紹介します!

生 28
生産

千葉県農林総合研究センター

●お問合先：TEL. 043-291-0151　FAX. 043-291-5319
E-mail. carc@mz.pref.chiba.lg.jp
●所在地：〒266-0006 千葉県千葉市緑区大勝野町808
●URL:　http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/

【出展内容】　実物展示 あり

・当研究センターで開発した新技術のパネル及びパソコンによる展示（病害虫防除支援情報システム）
・当研究センターで開発した新品種のパネル及び実物（一部）展示

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

これまでの研究成果をもとにしたより発展的な共同研究の実施、または実用化技術の開発についてマッチングを図りたいと思っています。

全国高専からICT農業に係わる様々な高専、学科の研究者が
連携して課題解決を目指す!

生 29
生産

全国KOSEN　ICT農業研究ネットワーク

●お問合先：TEL. 03-4212-6705　FAX. 03-4212-6820
E-mail. j-mishima@kurume-nct.ac.jp
●所在地：〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター 10階
(独)国立高等専門学校機構
●URL:　http://research.kosen-k.go.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

全国51校55キャンパスからなる国立高等専門学校（高専=KOSEN）において、多様な学科、分野の研究者をつなぐ研究ネットワークとして2014年3月に発足。全国の高専で取り組んでいるICT農業に結びつく研究を所属高専、学科を越えて結び、様々な課題の解決を目指しています。フィールドモニタリングシステム、スマート市民農園による地域コミュニティ再生、植物工場、ITを活用した様々な取り組みなどをご紹介いたします。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

高信頼無線通信を用いた無線知的制御クラウドシステム

生30 生産

静岡アグロスコープ協議会

共同研究機関 **静岡大学大学院/NICT/静岡県農林技術研究所**

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　12日(水) 10:55～11:20

●お問合先：TEL. 053-478-1491　FAX. 053-478-1491
E-mail. agro-scope@minelab.jp
●所在地：〒432-8011 静岡県浜松市中区城北3-5-1　静岡大学大学院 情報学研究科 峰野研究室
●URL: http://www.minelab.jp/agro-scope/

【出展内容】 実物展示 あり　実演 あり

栽培者の経験と勘による養水分制御ではなく,作物葉面積（LAI)のリアルタイム非破壊・非接触な多点同時計測（シーズ②)に基づく適切な養水分制御によって,高品質な植物の多収を実現するロバスト無線知的制御クラウドシステム（シーズ③)を研究開発した.400MHz帯高信頼無線通信方式（シーズ①)を研究開発し,高温多湿で過酷な施設園芸環境内であっても,低労力かつ低予算で気軽にロバストな知的制御環境を構築できるだけでなく,高品質な野菜類の多収と品質向上や,農業従事者の負担を軽減させた農業支援環境を実現できる.

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

栽培者の経験と勘による養水分制御ではなく,作物葉面積（LAI)のリアルタイム非破壊・非接触を多点で同時計測可能な400MHz帯高信頼無線を採用したロバストな無線センサクラウドシステムを研究開発したので,研究開発成果と実証実験結果を紹介する.

東京都農林総合研究センターでは新品種の育成や生産技術の向上に取り組んでおります。

生31 生産

東京都農林総合研究センター

●お問合先：TEL. 042-528-0505　FAX. 042-523-4285
E-mail. nourin-center@tdfaff.com
●所在地：〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1
●URL: http://www.tokyo-aff.or.jp/center/index.html

【出展内容】 実物展示 あり

東京オリンピックを6年後に控え、東京都内産の農畜産物で「おもてなし」を可能とするために、東京都農林総合研究センターでは新品種の育成や生産技術の向上に取り組んでおります。
今回の出展は、当センターで育成・開発した野菜や花き、果樹、畜産物等を紹介します。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

既存事業である小型白熱電球の製造技術を活かしたLED光源の試作開発内容を展示

生33 生産

(株)ルミナスジャパン

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　13日(木) 10:20～10:45

●お問合先：TEL. 0254-62-2332　FAX. 0254-62-2589
E-mail. taiki-togashi@luminous.co.jp
●所在地：〒959-3134 新潟県村上市羽ヶ榎68番地
●URL: http://www.luminous.co.jp/

【出展内容】 実物展示 あり

2点のLED光源を展示する。1点は平成21年～25年度農林水産省委託プロジェクト研究「生物の光応答メカニズムの解明と省エネルギー、コスト削減利用技術の開発」内の「害虫の光応答メカニズムの解明及び高度利用技術の開発」において、光産業創成大学院大学より依頼された発生予察事業用のLED電球の試作品を展示。もう1点は、ガラスに封止されたLED光源を試作し、それを植物育成用の補光光源として利用を検討した。その実物とベース照明とあわせて行った育成試験の内容をポスターにて展示を行う。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

LED光源の試作を検討している大学、研究機関様、小ロットにて対応いたします。害虫防除光源の利用を検討されている企業様、共同での製品開発を希望します。植物育成用の光源実証試験を検討しておりますので植物工場、溶液栽培施設の展開をはかっている企業様との共同研究、製品化を希望いたします。

速度変数を用いた環境制御技術や性フェロモンを用いた交信攪乱技術など、最新の取り組みを紹介。

生34 生産

(国)千葉大学

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　13日(木) 13:00～13:25

●お問合先：TEL. 043-290-3833　FAX. 043-290-3519
E-mail. ccrcu@faculty.chiba-u.jp
●所在地：〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町1-33
●URL: http://www.chiba-u.ac.jp/

【出展内容】 実物展示 あり

施設園芸/植物工場分野では、温湿度、二酸化炭素濃度、培養液濃度等の状態変数の計測・測定をベースに各種機器の制御を行ってきたが、光合成速度、蒸散速度、養分吸収速度等の速度変数を基にして、直接それらを制御すれば飛躍的に生産性は向上する。本展示では、開発した施設全体の蒸散速度、光合成速度を連続的に計測・測定する方法を紹介する。
さらに、性フェロモンを用いた交信かく乱によるヒメボクトウのリンゴ、ナシへの被害低減技術や、農水省事業である被災地復興を目的とした低コストトマト栽培システムの紹介を行う。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

ブドウと作り手にやさしいハウス換気装置と、作り手と買い手にうれしい切り花販売用バケット

生35 生産

(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

●お問合先：TEL. 072-979-7070　FAX. 072-956-9790
E-mail. suishin@mbox.kannousuiken-osaka.or.jp
●所在地：〒583-0862 大阪府羽曳野市尺度442
●URL: http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/

【出展内容】 実物展示 あり

当研究所で開発した、直売所向け切り花販売用バケットと、ぶどうハウスの天井部分を簡単に開閉する換気装置を展示、紹介します。また、当研究所の事業全般についても広くご紹介します。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

食料生産地域再生のための先端技術展開事業や宮城県で育成した新しい品種・種畜の紹介

生36 生産

宮城県農業・園芸総合研究所

共同研究機関 **宮城県古川農業試験場/宮城県畜産試験場**

●お問合先：TEL. 022-383-8118　FAX. 022-383-9907
E-mail. marc-kk@pref.miyagi.jp
●所在地：〒981-1243 宮城県名取市高舘川上字東金剛寺1
●URL: http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/

【出展内容】 実物展示 あり　試飲・試食 あり

1)先端技術展開事業関連の実証研究の概要について
①土地利用型営農技術の実証研究
②施設園芸、露地園芸、果樹の実証研究
2)宮城県で育成した新しい品種や種畜について

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

食糧増産・資源確保・バイオマス利活用を目指して　生37 生産

(独)理化学研究所

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　13日(木) 13:00～13:25

●お問合先：TEL. 048-467-9449　FAX. 048-465-8048
E-mail. csrs@riken.jp
●所在地：　〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1
●URL:　http://www.riken.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

①コケ植物を用いた有価金属回収技術と有害重金属除去技術の開発（パネル、実物展示）
②有用キャッサバ植物の分子育種推進国際連携によるキャッサババイオマスの質的・量的向上（パネル展示、実物展示）
③シロアリの腸内共生原生物の機能探索からバイオマス利用技術への応用（パネル展示）
④昆虫に誘引・忌避の効果を発揮する物質の研究から、害虫の行動を制御して作物から遠ざける「制虫」技術の開発（パネル展示）
⑤重イオン加速器（サイクロトロン）を用いた品種改良技術の開発（パネル、実物展示）

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

地方創生に役立つ技術開発勢揃い!　生38 生産

NPO法人元氣農業開発機構

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　14日(金) 15:20～15:45

●お問合先：TEL. 03-3826-5212　FAX. 03-3826-5217
●所在地：　〒125-0041 東京都葛飾区東金町1-41-9 フランス堂ビル3階
●URL:　http://genkinougyou.asia

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり　試飲・試食 あり

未利用資源の活用に新技術開発（森林バイオマス、食品残査の処理、加熱水蒸気の利用等）、細胞を生かしたCAS冷凍技術、世界で初めて水性ナノ塗料の開発・製作・販売。ポリピカコート（車のレンズ磨き）、遮熱塗料、撥水防水塗料など（ナノファーム）

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

農、畜、水産分野における神奈川県4試験研究機関の利用可能な研究成果を展示します。　生39 生産

神奈川県

●お問合先：TEL. 0463-58-0333　FAX. 0463-58-4254
E-mail. nogi.kikaku@pref.kanagawa.jp
●所在地：　〒259-1204 神奈川県平塚市上吉沢1617
●URL:　http://www.pref.kanagawa.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

農業技術センター：
①果樹の樹体ジョイント仕立て法（パネル）　②側枝下垂型の樹体ジョイント仕立てによるリンゴの栽培技術（パネル）　③バラの株元加温による省エネルギー・高生産技術（パネル）
④県で育成した新品種の紹介（パネル、実物）
畜産技術センター：
①食品残さの飼料化技術（パネル）　②神奈川県銘柄鶏の作出（パネル）
水産技術センター：
①ナトリウム排出機能を有する海藻添加麺の開発（パネル）　②海況図データベースの紹介（パネル）
産業技術センター：
①家畜用ストレスセンサーの開発

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

重量物の持上動作や歩行動作を補助するパワーアシストスーツ「LiBERo(リベロ)」　生40 生産

(国)和歌山大学

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　12日(水) 14:10～14:35

●お問合先：TEL. 073-457-8172　FAX. 073-457-8173
E-mail. eyagi@sys.wakayama-u.ac.jp
●所在地：　〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930
●URL:　http://www.wakayama-u.ac.jp/~eyagi/roboticslab

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

和歌山大学では高齢者や力の弱い若者および女性の作業の軽労化対策と腰痛防止対策のため、【農業用パワーアシストスーツ】の開発を行っており、実証試験実施中で実用化が間近となっています。現在6.2kgと軽量コンパクトになり、簡単に一人で装着でき、初心者でもすぐに使えるようになりました。今回は農業用パワーアシストスーツについての説明パネル展示・実物展示・及び試着体験を行います。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

現在、農作業現場での実証試験を実施しており、基本的な技術についてはほぼ完成をしておりますが、コストダウン等々の製品化技術については課題が残されております。このアシストスーツの技術や将来性に興味を持たれた企業様をお待ちしております。

プラス10年働ける畑に!「らくらく農法」・カキ大苗育苗技術・露地ナス減農薬技術の紹介　生41 生産

奈良県農業研究開発センター

●お問合先：TEL. 0744-22-6201　FAX. 0744-22-8068
E-mail. nougi-kikaku@office.pref.nara.lg.jp
●所在地：　〒634-0813 奈良県橿原市四条町88
●URL:　http://www.pref.nara.jp/1761.htm

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

農業生産に役立つ技術を紹介します。
①高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発
高齢者ができる限り長く営農を続けられるように、楽しくて身体にも楽な農作業を実現し、地域コミュニティの持続性を高める取り組みを紹介します。
②カキの大苗育苗技術の開発
カキ産地の改植に利用できる大苗を効率的に育成する技術を紹介します。
③土着天敵を活用した露地ナスの減農薬技術の開発
露地ナス栽培において、選択性殺虫剤利用による土着天敵を保護・活用した害虫防除及び減農薬技術について紹介します。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

電動運搬車やカキの大苗育苗技術・ナスの減農薬技術などの保有シーズについて、研究してくださる研究機関及び、実証してくださる地域や産業界の方々との打合せを希望いたします。また、農業分野だけでなく、食品、環境保全、地域支援など幅広い分野の方々とご意見交換をできれば幸いです。

岡山大学で取り組んでいる園芸生産に関する技術開発の取り組み　生42 生産

(国)岡山大学農学部

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　12日(水) 13:35～14:00

●お問合先：TEL. 086-251-8282　FAX. 086-251-8388
E-mail. ysbken@okayama-u.ac.jp
●所在地：　〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
●URL:　http://www.okayama-u.ac.jp/user/agr/index.html

【出展内容】　実物展示 あり

*間欠冷蔵処理によるイチゴの花芽分化促進（攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立））に関する技術の紹介
*東アジア中元節・中秋節をターゲットにした日本産高級モモの輸出流通システムの構築（攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立））に関する技術の紹介
*ICTを活用した暖地施設園芸における環境制御技術およびクラウド利用技術の開発に関する紹介

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

イチゴの間欠冷蔵による花芽分化促進、国産高級モモの輸出流通技術、暖地施設園芸の新たな環境制御法に関しての技術移転を目的としています。

「クモ糸シルク」や「蛍光シルク」で作った衣服や布をご覧ください!

生 43
生産

(独)農業生物資源研究所

研究・技術プレゼンテーション	●B会場　12日(水) 10:55～11:20 ●C会場　12日(水) 16:30～16:55

●お問合先：TEL. 029-838-8469　FAX. 029-838-8465
E-mail. nias-koho@nias.affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8602 茨城県つくば市観音台 2-1-2
●URL:　http://www.nias.affrc.go.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

「クモ糸シルク」や「蛍光シルク」で作った衣服や布をぜひご覧ください。また、シルク素材を使ったフィルムやスポンジ、遺伝子組換えカイコで作った検査薬など、医薬方面へのカイコやシルクの新しい使い方をご提案します。農業関連の種子等の収集、評価、保存、配布などを行うジーンバンクや、カビを水洗できるコーティング技術についても紹介します。
共同研究や技術移転についてのご相談もお待ちしています。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

農研機構の概要と産学官連携の取組のご紹介

生 44-01
生産

(独)農研機構　本部

●お問合先：TEL. 029-838-7698　FAX. 029-838-8982
E-mail. joint_research@naro.affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8517 茨城県つくば市観音台3-1-1
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/inquiry/sangaku.html

【出展内容】　実物展示 あり

農研機構（独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構）の概要と産学官連携の取組をご紹介するとともに当機構との連携のご相談も受け付けています。また、実用化もしくは商品化に向けて広く企業との連携を図りたい、あるいは生産現場で普及させたい技術や品種を掲載したパンフレット等をお配りします。

【マッチング希望】

共同研究　技術移転

農研機構との共同研究や技術移転のご相談、研究成果の照会などございましたら、当方までお気軽にお問い合わせ下さい。

農業参入・就農の多様なルートと担い手の支援システムについてパネル、PC実演で説明を行う。

生 44-02
生産

(独)農研機構　中央農業総合研究センター

研究・技術プレゼンテーション	●E会場　14日(金) 13:35～14:00

●お問合先：TEL. 029-838-8481　FAX. 029-838-8484
E-mail. tsuneo@affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8666 茨城県つくば市観音台3-1-1
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp

【出展内容】　実演 あり

この展示では、地域農業の動向予測と担い手の見通しを明らかにし、担い手育成の上で重要な農地の面的集積支援手法を示すとともに、新規参入・就農者の定着支援に焦点を当て、農業参入・就農の多様なルートについて、パネルやPC実演で展示・説明を行う。また、農業の担い手支援システムとして、マネジメントサイクルに即した経営管理システム（CAPSS)と経営改善のための生産工程管理（GAP)についてパネル、PC実演で展示・説明を行う。

【マッチング希望】

共同研究　技術移転

水路トンネルの内部を通水状態で点検するロボット

生 44-03
生産

(独)農研機構　農村工学研究所

●お問合先：TEL. 029-838-7513　FAX. 029-838-7609
E-mail. mitsuhi@affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/nkk/

【出展内容】　実物展示 あり

上水、工業用水等と兼用されていて、断水して目視調査が困難な農業用水路トンネルを、通水状態で点検できる装置を開発しました。通水中の農業用水路トンネルの上流坑口から放流し、下流坑口で回収するだけで、簡単に内部の変状を高感度のCCDカメラにより記録します。CCDカメラは、常に壁面に正対するように制御されることが特徴です。

【マッチング希望】

共同研究　技術移転

農業用水路トンネルを対象として開発しましたが、上水道トンネル、工業用水用トンネル等、水の流れがある水路トンネルであれば適用可能です。

病原体を入れない、増やさない、残さない新しい畜舎を開発しませんか

生 44-04
生産

(独)農研機構　動物衛生研究所

●お問合先：TEL. 029-838-7705　FAX. 029-838-7907
E-mail. pps-niah@naro.affrc.go.jp
●所在地：　〒305-0856 茨城県つくば市観音台3-1-5
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/niah/index.html

【出展内容】　実物展示 あり

シーズ①農場の衛生管理の向上を目指した共同研究の提案=畜舎に病原体を入れない、増やさない、残さない、そして家畜に感染させない等をコンセプトにした新しい畜舎開発に応用できる技術を募集します。②研究成果の実用化を目指したマッチング=抗菌活性を持つ絹糸を用いた製品開発を目指しています。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

病原体を入れない、増やさない、残さない、感染させない等のコンセプトの元に新しい技術を活用した新しい畜舎の開発を目指しています。そのためには、今までの概念にとらわれずに、柔軟に発想することで、意外な技術が応用できるかもしれません。また、抗菌活性を有する絹糸を用いた製品開発を目指しています。ご興味がありましたら、ぜひ動衛研ブースにお越しください。

東北農業研究センターの最新技術を紹介
ー施肥削減、低コスト浄化、牛の行動分析、病害抑制ー

生 44-05
生産

(独)農研機構　東北農業研究センター

研究・技術プレゼンテーション	●B会場　12日(水) 15:10～16:50

●お問合先：TEL. 019-643-3414　FAX. 019-643-3588
E-mail. www-tohoku@naro.affrc.go.jp
●所在地：　〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/tarc/

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

東北農業研究センターが普及・実用化を図っている4つの最新技術について、模型やサンプルの展示、実演によりご紹介します。研究技術プレゼンテーションも行います。
①咀嚼計と加速度計から牛の行動及び姿勢を判別するシステム
②高濃度有機性汚水を低コストで浄化できるハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システム
③定植前のネギ苗へのリン酸施用によりネギ増収とリン酸節約を可能にする施肥削減技術
④土壌伝染病の発生抑制効果を付与する育苗法

【マッチング希望】

共同研究　技術移転

「土壌伝染病の発生抑制効果を付与する育苗法」については、特許出願中（特願2014-027242）

温帯で高バイオマス生産可能な「エリアンサス」、雑草に負けない芝、GABAチーズをご紹介

生 44-06 生産

(独)農研機構　畜産草地研究所

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　14日(金) 10:55～11:20

●お問合先：TEL. 029-838-8249　FAX. 029-838-8606
E-mail. nilgs-koryu@affrc.go.jp
●所在地：　〒305-0901 茨城県つくば市池の台2
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/nilgs/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲･試食 あり

①高生産性のバイオマスとして注目されている「エリアンサス」はバイオ燃料としての期待が高まっています。更なる利用拡大のため特性・用途について解説します。
②管理しやすい芝生を作れる「朝萌」、匍匐茎による早期被覆が可能な「朝駆」の実物展示を通じて解説します。また培養研究等に適するシバ新品種の利用許諾契約を目指します。
③乳酸菌3種を混ぜ安定したチーズスターターを研究開発しました。この新チーズスターターを使用したチーズにはGABAが多く含まれ、チーズ本来のおいしさがあります。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

生産、製造、加工業、研究開発企業の方と意見交換を行い、利用許諾契約や技術の応用を進めたいと思います。特に資源作物の栽培を希望する生産者や自治体、バイオマスの固形燃料化や燃焼利用を検討している企業や団体の方へ具体的に 説明します。また公共施設から家庭までお手入れの楽な芝はいかがでしょうか。培養研究等に適するシバ新品種もあります。 地域特産ブランドのチーズに適した新しいチーズスターターもご紹介します。

業務用米、β-グルカン高含有大麦、小粒黒大豆などの新品種を紹介します。

生 44-07 生産

(独)農研機構　作物研究所

●お問合先：TEL. 029-838-8260　FAX. 029-838-7488
E-mail. www-nics@naro.affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8518 茨城県つくば市観音台2-1-18
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/nics/index.html

【出展内容】　実物展示 あり　試飲･試食 あり

[シーズ1]
・新品種の水稲「あきだわら」、大麦「ビューファイバー」、大豆「関東115号」等のパネル及び実物展示。
・試食：大麦品種「ビューファイバー」のシフォンケーキを食べてもらう。
・水稲品種「あきだわら」の白米パック及び大麦品種「ビューファイバー」の粉を配布。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

縦長タマネギ「カロエワン」は加工歩留まりが高く作業性も良い加工用タマネギのナンバーワンです

生 44-08 生産

(独)農研機構　北海道農業研究センター

共同研究機関　**北海道立総合研究機構農業研究本部北見農業試験場**

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　14日(金) 13:00～13:25

●お問合先：TEL. 011-851-9141　FAX. 011-859-2178
E-mail. kentaro@affrc.go.jp
●所在地：　〒062-8555 北海道札幌市豊平区羊ヶ丘1番地
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/harc/index.html

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

・展示：加工用として開発されたタマネギ新品種「カロエワン」の実物を展示し、ハンドリングのよさを実感していただきます。また、「むき」、「カット」加工された製品やコンテナなど流通形態の展示も行います。
・実演：手でカット実演することで、一般品種と比較して、作業性のよさ、廃棄率の少なさを実感していただきます。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

タマネギの一次加工メーカー、食品メーカーを対象に、加工用として品種改良された新品種「カロエワン」の歩留まりの良さ、作業性の良さを実感してもらい、材料タマネギとしての使用を検討いただきます。

商用電源のない小規模な農地でも容易かつ安価に導入可能、自動点滴灌水で作業を軽減、安定生産

生 44-09 生産

(独)農研機構　近畿中国四国農業研究センター

●お問合先：TEL. 084-923-4100　FAX. 084-924-7893
E-mail. warc-kf@ml.affrc.go.jp
●所在地：　〒721-8514 広島県福山市西深津町6丁目12-1
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/warc/

【出展内容】　実物展示 あり

ソーラーポンプを利用した低コストな自動点滴灌水装置のデモ機の展示、パネルによる導入事例等の紹介を行います。この装置は、発電量40W程度のソーラーパネルと、その電力で直接駆動する小型水中ポンプ、水を貯留する貯水タンク、貯留量に応じた連続的な貯水・配水を繰り返すための水位センサと電磁弁から構成されます。商用電源がなく、利用可能な水源が限られる中山間地の圃場などにおいて、流量が少なく従来は利用が難しかった農業用水や沢水などが有効に活用でき、灌水の省力化や、収量の安定・増収などが可能となります。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

ナス、ピーマン、アスパラガスなどの栽培を中心に、近畿中国地域、東北地方などの全国20府県の導入実績があります。品質向上や省力化などによる産地づくりへの利用のような導入地域・品目拡大に向けた栽培試験や実証試験など、共同研究・技術の移転先とのマッチングを希望します。

有機質肥料を活用した養液栽培を可能にしたシステム

生 44-10 生産

(独)農研機構　野菜茶業研究所

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　14日(金) 10:20～10:45

●お問合先：TEL. 050-3533-3802　FAX. 059-268-3213
●所在地：　〒514-2392 三重県津市安濃町草生360
●URL:　https://www.naro.affrc.go.jp/vegetea/index.html

【出展内容】　実物展示 あり

養液栽培では有機質肥料の利用は不可能とされてきました。それは有機質肥料が受ける2段階(アンモニア化成、硝酸化成)の微生物分解のうち、水中ではアンモニア化成までしか進まないため、培養液が腐ってしまっていたためです。そこで、微生物の培養方法を新たに開発することにより、水中でも2段階の微生物分解が進むようにし、養液栽培を可能にしました。
ブースでは有機質肥料活用型養液栽培システムのミニチュア版の展示のほか、研究開発担当者も含めたスタッフが懇切丁寧に新システムの特長・導入法などについて説明します。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

基本的な要素はほぼできているが、実際の営農現場に導入・普及させるためには、地域・品目・作期別の細かい技術サポートが必要である。

連作障害無し！　生産性が高い！　作業が楽！
日本発のトルコギキョウ

生 44-11 生産

(独)農研機構　花き研究所

●お問合先：TEL. 029-838-6804　FAX. 029-838-6841
E-mail. www-flower@naro.affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8519 茨城県つくば市藤本21
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/flower/index.html

【出展内容】　実物展示 あり

NFT水耕栽培によるトルコギキョウの周年生産システムの概要について、パネルと動画等で紹介します。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

気候変動下の果物生産
ー気候変動に対応する果樹の生育予測技術ー

生 44-12
生産

(独)農研機構　果樹研究所

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　12日(水) 11:30～11:55

●お問合先：TEL. 029-838-6453　FAX. 029-838-6437
E-mail. www-fruit@naro.affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8605 茨城県つくば市藤本21
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/fruit/index.html

【出展内容】　実物展示 あり

果樹は、一度植えると数十年間は同一の樹で果物の生産を行います。このため、徐々に気温が高くなる地球温暖化などの影響を受けやすく、その影響を評価・予測し、対策技術を開発することが重要となります。ここでは、リンゴやナシなどの栽培における温暖化影響について、生育予測技術を駆使して得た成果を紹介します。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

リンゴの品質への影響評価や将来の果樹の栽培適地の移動について、情報を発信・活用して頂くパートナーを求めています。また、果樹の休眠状態を予測する技術（自発休眠覚醒期判定技術）、晩霜害の発生危険度予測技術について、実用化を目指したパートナーを求めています。

東日本大震災の被災地域等で取り組んでいる
原発事故対応と復興支援のための研究開発を紹介

生 44-13
生産

(独)農研機構　本部(震災復興研究)

●お問合先：TEL. 029-838-8285　FAX. 029-838-8525
E-mail. sinsai_fukkou@ml.affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8517 茨城県つくば市観音台3-1-1
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/disaster/index.html

【出展内容】

①放射線セシウムの吸収抑制栽培技術や除染廃棄物の減容・安定化技術等の開発に関する農研機構の取り組み状況についてパネル展示。
②被災地域における高効率な農業経営を実現させるための先端技術の現地適用化に向けた農研機構の取り組み状況についてパネル展示。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

被災地域における農業生産の復興・振興のため、新規に開発した安定生産技術や先端技術等に関心をお持ちの農業関係の皆様。

農地の物理除染、雑草処理や安全対策、汚染状況の計測器、
代かき除染、栽培技術の紹介

生 44-14
生産

『農地の物理的除染技術体系グループ』

共同研究機関　**(独)農研機構 中央農業総合研究センター/生物系特定産業技術研究支援センター/農村工学研究所/畜産草地研究所/東北農業研究センター/(独)農業環境技術研究所/福島県農業総合センター**

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　12日(水) 10:20～10:45

●お問合先：TEL. 029-838-8481　FAX. 029-838-8484
E-mail. josentaikei@naro.affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8666 茨城県つくば市観音台3-1-1
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

農地および農地周辺の畦畔、法面、農道、排水路等を安全かつ効率的に除染を行うためのトラクター用作業機、運転者の被曝量を低減するシールドキャビン付トラクタ等について、民間企業と共同でパネルと動画で展示・説明を行う。また、除染前後の圃場の放射線量を土壌採取無しに面的に計測・表示する方法、土壌攪拌による放射性物質低減技術、除染後農地の生産性評価、地力回復技術等についても、合わせて展示・説明を行う。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

開発した技術を利用していただき、少しでも早く元の状態に農地が戻るために協力させていただければと考えています

農研機構生研センター(農業機械化研究所)が開発した
最新の農業機械化技術をご紹介します。

生 44-15
生産

(独)農研機構　生物系特定産業技術研究支援センター

●お問合先：TEL. 048-654-7000　FAX. 048-654-7130
E-mail. info-iam-jouhouka@ml.affrc.go.jp
●所在地：　〒331-8537 埼玉県さいたま市北区日進町1丁目40番地2
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/brain/index.html

【出展内容】　実物展示 あり

・ロボットトラクタ、・高速作業が可能な水田用除草装置、・チャの直掛け栽培用被覆資材の被覆・除去装置、・トラクタ作業燃費と乾燥エネルギの評価手法、・乗用型トラクターの片ブレーキ防止装置、・自脱型コンバインの手こぎ部の緊急停止装置など
これら開発機の成果をパネルと動画でじっくりご覧いただきます。
また、果樹の腕上げ作業補助装置の実演をブドウの模擬果を用いて（体験）実演します。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

食

マッチング目的欄ピクト解説

濃いグレーで表示されているものが、希望している内容です。

- 共同研究：保有シーズの共同研究相手をみつけるため
- 製品化：保有シーズの製品化のため
- 技術移転：保有シーズの技術の移転先をみつけるため
- 資金：資金提供元をみつけるため

免疫機能強化を目指した新しい技術と機能性食品で
疾病予防と日常の健康管理!

食 01
食

(株)ケーナインラボ

研究・技術プレゼンテーション	●B会場　12日(水) 10:20～10:45

●お問合先：TEL. 042-401-2291　FAX. 042-382-7384
E-mail. yamaguchi@canine-lab.jp
●所在地：　〒184-0012 東京都小金井市中町2-24-16
農工大・多摩小金井ベンチャーポート302
●URL:　http://www.canine-lab.jp

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

1)産業動物における新しい免疫強化技術：子牛の免疫機能を強化する事で、疾病予防と健全な育成を助けるための技術。母牛の血液中のリンパ球を体外で活性化培養し、出生直後の子牛に投与することで、子牛の免疫機能（Tリンパ球、Bリンパ球、NK細胞の活性化、など)を活性化する。ポスター展示や資料を配布する。（北里大学との共同研究）
2)腸内環境改善と免疫機能強化のための新規機能性食品：ビフィズス菌とβグルカンが主成分。有効性と安全性が確認された素材を厳選。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

細胞免疫療法を応用した技術は、母ウシの活性化リンパ球を仔牛投与することで仔牛の免疫機能を強化し、感染症など疾病予防に有効です。また、機能性食品は、腸機能改善と免疫機能強化を目指して有効成分を配合、ヒトとイヌで臨床試験を実施し有効性と安全性を確認しています。

機能性給茶機「リッチプラス」の展示、試飲、説明、食総研の紹介

食 02 食

(独)農研機構　食品総合研究所

研究・技術プレゼンテーション | ●C会場　12日(水) 15:55～16:20

●お問合先：TEL. 029-838-7971　FAX. 029-838-7996
E-mail. www-nfri@naro.affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8642 茨城県つくば市観音台2-1-12
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/nfri/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

機能性農研機構食品総合研究所は、研究を通じて食に係る行政施策、食品産業の振興などに貢献することを使命とし、食品に係る基礎から応用に至る幅広い研究を実施してきました。食に係る問題が山積する状況下、食品研究はその重要性を益々増しております。当研究所は、農業研究との連携を一層強化し、食品の機能性の解明と利用、食の安全性と信頼の確保、自給率向上、国際化をキーワードとして研究を進めていきます。今回は食総研の研究内容の説明と新規に開発した給茶機「リッチプラス」を展示し、試飲と説明をおこないます。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

農林畜産分野のウイルス感染を制御!
人工核酸結合タンパク質による革新的ウイルス不活性化技術

食 03 食

(国)岡山大学　革新的ウイルス対策技術　事業化・普及プロジェクト

講演 異分野融合 | ●E会場　13日(木) 13:00～14:00

●お問合先：TEL. 086-251-8918　FAX. 086-251-7114
E-mail. URA@cc.okayama-u.ac.jp
●所在地：　〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中1丁目1番1号
岡山大学本部棟リサーチアドミニストレーター（URA）執務室
●URL:　http://www.okayama-u.ac.jp/

【出展内容】

農林水産省の「革新的技術創造促進事業（異分野融合共同研究）」の革新的ウイルス対策技術開発分野の拠点研究機関である岡山大学では、社会実装に向けて研究開発を進めています。今回、主にウイルスの9割を占めるRNAウイルスのゲノム配列を高い親和性で特異的に認識する人工RNA 結合タンパク質を正確にデザインして、植物と動物に「確実に」役立つ、革新的なウイルス不活性化技術をご紹介します。3年後の社会実装のため、多くの企業・機関の参画をお待ちしております。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

3年後の社会実装をより確実とするため、研究開発系の企業だけではなく、実証試験や製造・販売開拓など事業化・普及に密に関わる企業・機関を求めております。農林畜産分野や私たちの社会を革新する国家プロジェクトを共に推進する皆様のご参画を心よりお待ちしております。

乾燥食品素材を紹介するほか、
エルゴチオネインを含む機能性食品素材を提案します

食 04 食

アイシン共聴開発(株)・(国)東京海洋大学

研究・技術プレゼンテーション | ●E会場　13日(木) 14:10～14:35

●お問合先：TEL. 042-462-7111　FAX. 042-462-7112
E-mail. olcr@m.kaiyodai.ac.jp
●所在地：　〒188-0004 東京都西東京市西原町4-2-3
●URL:　http://www.aishinkk.co.jp/kankyo/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

シーズ①：食品廃棄物（食べられるにもかかわらず廃棄されている食材）を新鮮なうちに瞬時に乾燥させ、食品としての再利用を可能にした技術
実物展示：きのこ,おから,ケール絞り粕,茶殻,野菜類の乾燥食材
シーズ②：ラジカル消去能を有するエルゴチオネインを含有する機能性食材の生産技術
実物展示：きのこおよび菌糸の乾燥粉末
シーズ③：流動層乾燥と気流乾燥との組み合わせの連続乾燥方式技術　（パネル展示）

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

エノキタケに含まれるエルゴチオネインは、強いラジカル消去能に基づく抗酸化機能を有する。エルゴチオネイン抽出物を配合した飼料を家畜に給与すると、血液を介して体組織に取り込まれたエルゴチオネインが、脂質類の酸化を抑制し、肉質が鮮やかで美味な高級高品質肉用牛を創生できる。また、血液中の過酸化脂質生成抑制の酸化ストレスマーカを指標として、耐病性が強化された家畜生産の途を切り開く。

界面前進凍結濃縮法により果汁の糖度を上げ、
補糖不要で高品質ワイン生産を可能とする。

食 05 食

(公)石川県立大学

研究・技術プレゼンテーション | ●A会場　13日(木) 16:20～16:45

●お問合先：TEL. 076-227-7464　FAX. 076-227-7410
E-mail. osato@ishikawa-pu.ac.jp
●所在地：　〒921-8836 石川県野々市市末松1-308 石川県立大学生物資源環境学部
●URL:　http://www.ishikawa-pu.ac.jp/

【出展内容】

「界面前進凍結濃縮法を用いてあらゆる果汁からワインをつくる!」と題して、ポスター展示、プレゼンテーションにより、われわれが世界に先駆けて開発中の界面前進凍結濃縮法の説明、さらにその応用によって、糖度の低い果汁からも補糖を必要とせずにワイン造りができることの説明を行い、さらに、試作ワインの実物展示も行う。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

水産に関わる多様な研究の中から、養殖・機能性食品・流通に関するホットな課題を取り揃えました

食 06 食

(独)水産総合研究センター

研究・技術プレゼンテーション | ●C会場　14日(金) 13:00～13:25

●お問合先：TEL. 045-227-2693　FAX. 045-227-2704
E-mail. suisanplaza@ml.affrc.go.jp
●所在地：　〒220-6115 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3 クイーンズタワー B 15F
●URL:　http://www.fra.affrc.go.jp/index.html

【出展内容】　実物展示 あり

養殖の分野からは、宮城県の地域特性を活かした2種類のカキ養殖法（未産卵一粒カキと干出カキ）と製品の特徴、ならびに原料に魚粉を全く使用しない養魚用飼料の開発とそれを用いた飼育試験の結果について紹介します。機能性食品の分野からは、回遊魚に多く含まれ、生体内で高い抗酸化能を発揮する物質「セレノネイン」の発見について紹介します。加工流通の分野からは、個々の魚体の脂肪含量を連続的に測定して自動選別する機器の開発、ならびに高い鮮度を保持した状態でのイカ類の流通を目指した取り組みについて紹介します。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

【高鮮度イカの流通に関して】酸素・シャーベットアイスによる高鮮度イカ等の輸送技術や、流通・販売先の開拓に際してアドバイスやご協力を頂ける方を探しております。また、この鮮度保持技術は、イカのみならず多くの魚種に応用が可能です。この技術を取り入れて出荷を検討される方々と、広く協力の道を探りたく思います。また、シャーベット氷製氷機の設置など、基本投資の部分で資金をご提供頂ける方を探しております。

地域結集型研究開発プログラム「静岡発　世界を結ぶ新世代茶飲料と素材の開発」の事業成果

食 07 食

(公財)静岡県産業振興財団　フーズ・サイエンスセンター

研究・技術プレゼンテーション | ●A会場　13日(木) 13:00～13:25

●お問合先：TEL. 054-254-4513　FAX. 054-253-0019
E-mail. newfoods@ric-shizuoka.or.jp
●所在地：　〒420-0853 静岡県静岡市葵区追手町44-1 静岡県産業経済会館2階
●URL:　http://www.ric-shizuoka.or.jp

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

静岡県・静岡市地域結集型研究開発プログラム「静岡発　世界を結ぶ新世代茶飲料と素材の開発」では、茶の栽培・加工技術、光技術、分析評価技術等を活用し、期待される成分が茶葉中に効率的に生成される方法やヒト体内で機能性成分が効果的に摂取される方法を確立するとともに、おいしく安全で新しい機能性を持つ新世代茶飲料や素材の開発に取り組んで参りました。本出展においては、これまでの研究成果をパネル展示等により紹介するとともに、成果品である「白葉茶」「高香味発揚茶」の試飲を行います。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

独創的な発想で、独自の農業ビジネスを創造する！ 食 08 食

(公)秋田県立大学

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　14日(金) 14:45～15:10

●お問合先：TEL. 018-872-1557　FAX. 018-872-1673
E-mail. sugawara@akita-pu.ac.jp
●所在地：〒010-0195 秋田県秋田市下新城中野字街道端西241-438
●URL: http://www.akita-pu.ac.jp/

【出展内容】 実物展示 あり 試飲・試食 あり

1.コメやジャガイモの澱粉を一定処理することで難消化性を付与し、食後血糖値の上昇を低減させる方法の紹介。
2.簡便な灌水管理で中玉だけでなく大玉でも高糖度トマトを可能にした新栽培技術の紹介。
3.国産キイチゴの産地形成に取組み、6次産業化を目指してます。国産キイチゴを取り扱いたい、卸業、小売業、食品加工業者の皆さまをお待ちしています。
4.「新型微粉砕機」による木材の微粉末化により、WPC（木材プラスチック複合材）や牛の飼料など、建材以外の用途開発に取組んでいます。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

機能性タマネギと加工品の展示および地域ブランド化の取り組み紹介 食 09 食

(有)植物育種研究所(北海道大学ベンチャー)

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　12日(水) 10:55～11:20

●お問合先：TEL. 0123-72-5680　FAX. 0123-72-5680
E-mail. info@ikushu.com
●所在地：〒069-1511 北海道夕張郡栗山町中央2丁目45番地
●URL: http://ikushu.com/

【出展内容】 実物展示 あり 試飲・試食 あり

農研機構「機能性を持つ農産物・食品開発プロジェクト」 タマネギ部門について研究成果、産地化・商品開発事例を中心にタマネギの健康機能について展示。 高機能タマネギ「クエルリッチ」(北海道農業研究センター育成)、くりやま健康タマネギ「さらさらレッド」(栗山町さらさらレッド生産組合)、「さらさらゴールド」(JAきたみらい)の実物および加工品の展示、タマネギ機能性研究、ヒト介入試験の結果ポスター展示等。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

一緒にブランド化に取り組める連携先

マイタケ機能性研究最先端!
～便秘、糖尿病、インフルエンザ、ヘルペス、骨髄異形成症候群～ 食 10 食

(株)雪国まいたけ/(学)新潟薬科大学/(学)中部大学

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　12日(水) 10:20～10:45

●お問合先：TEL. 025-778-0153　FAX. 025-778-1282
E-mail. kinouken@maitake.co.jp
●所在地：〒949-6695 新潟県南魚沼市余川89
●URL: http://www.maitake.co.jp/

【出展内容】 実物展示 あり

マイタケの生育方法、乾燥方法および抽出方法における薬理活性画分の変化について展示する。
アルファバリア（マイタケαグルカン）：低温熟成マイタケの抽出物。インフルエンザ治療効果を有する。活性成分をαグルカンと特定。
MDフラクション：熱風乾燥マイタケの抽出物。ヘルペスに対する薬理活性を確認。
マイタケ繊維：熱風乾燥マイタケ抽出後の残渣。便通改善作用を有する。
実物展示：YM6A（アルファバリア）、マイタケαグルカン、MDフラクション、マイタケ繊維

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

マイタケの機能を徹底的に追求しました。①マイタケを食べることによる食後血糖値上昇抑制作用、インフルエンザに対して免疫を亢進させて治療効果を示す新規物質マイタケα-グルカンの発見　②免疫だけでは説明できないヘルペス治療機能を示すMDフラクションの新機能の確認　③マイタケ繊維がヒトで、おなかの調子を良くすることを実証 など、興味あるマイタケの機能性を紹介します。協働事業開発をよろしくお願いいたします。

超音速で高圧力が伝播する瞬間的高圧を利用した新しい米粉製粉システムを紹介します。 食 11 食

沖縄工業高等専門学校

共同研究機関 **熊本大学パルスパワー科学研究所/熊本県産業技術センター/群馬製粉(株)/大阪サニタリー(株)**

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　12日(水) 14:45～15:10

●お問合先：TEL. 0980-55-4003　FAX. 0980-55-4012
E-mail. skrenkei@okinawa-ct.ac.jp
●所在地：〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古905番地
●URL: http://www.okinawa-ct.ac.jp/

【出展内容】 実物展示 あり

瞬間的高圧処理製粉装置：水中の電気放電により生じた衝撃波を利用して、スポーリング破壊を伴う瞬間的高圧によって米を粉砕し、非加熱製粉する。装置概要のパネル、動作状況の動画を展示する。
瞬間的高圧処理製粉による米粉：瞬間的高圧処理により非加熱・乾式でデンプン損傷を抑えた米粉のサンプルを展示する。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

瞬間的高圧処理は新規の製粉技術です。数マイクロ秒の時間で高圧を負荷するため摩擦熱を生じることなく原料を製粉できます。瞬間的高圧の繰り返し処理は粉体中の殺菌も可能で、応用範囲の広い技術です。

長崎県産農産物を利用した新しい機能性を有する発酵茶を開発しました。 食 12 食

(公)長崎県立大学

●お問合先：TEL. 095-813-5500　FAX. 095-813-5220
E-mail. sangakukan@sun.ac.jp
●所在地：〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1
●URL: http://sun.ac.jp/

【出展内容】 実物展示 あり 試飲・試食 あり

長崎県産農産物を活用した発酵茶を紹介します。ビワ葉混合発酵茶はビワ葉と緑茶三番茶葉を1:9の比率で混合揉捻して製造した発酵茶で、体脂肪や中性脂肪濃度を低下させる機能を有しています。ツバキ茶はツバキ葉と緑茶三番茶葉を1:9の比率で混合揉捻して製造した発酵茶で、血糖値の上昇を抑制する作用を有しています。ミカン未熟果混合発酵茶はミカン未熟果（摘果ミカン）と緑茶三番茶葉を1:3の比率で混合して製造した発酵茶で、溶解性の低いヘスペリジンの水への溶解性を高め、中性脂肪濃度を低下させる機能を有しています。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

新しい発酵茶を利用した新製品の開発を目指す企業を探しています。

全国の医師、管理栄養士と協力して治療食の普及に務めています。 食 13 食

NPO法人食事療法サポートセンター

●お問合先：TEL. 0465-49-1151　FAX. 0465-46-1205
E-mail. info@jinzosensei.com
●所在地：〒250-0874 神奈川県小田原市鴨宮223-16
●URL: http://www.jinzosensei.com

【出展内容】 実物展示 あり

シーズ①治療用食品の実物展示
シーズ②乳酸菌を使った発酵食品を開発し、その機能性評価を大学へ委託
シーズ③麹菌を使った発酵食品を開発し、その機能性評価を大学へ委託
シーズ④納豆菌を利用した発酵食品を開発し、その機能性評価を大学へ委託

シーズ②～④については実物展示及びポスター

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

水産大学校は水産に関して、水産関連企業と連携した教育研究活動の充実を目指しています。 食 14 食

(独)水産大学校

●お問合先：TEL. 083-286-5111　FAX. 083-286-2292
E-mail. zenpan@fish-u.ac.jp
●所在地：〒759-6595 山口県下関市永田本町二丁目7番1号
●URL: http://www.fish-u.ac.jp/

【出展内容】 実物展示 あり 試飲･試食 あり

水産大学校の各学科（水産流通経営学科、海洋生産管理学科、海洋機械工学科、食品科学科、生物生産学科）の中で、漁業、機械、食品に関する以下のテーマの出展
1）LED等光技術を用いた新型漁業技術の開発
2)衝撃波によるフリーズドライの前処理技術
3)海藻ポリフェノールの抗アレルギー効果と製品開発
4)下痢性貝毒簡易検出キットの開発
5)混獲魚や水産物の低利用部位の発酵操作を含めた有効活用

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

本校は水産に関してのシーズを擁しているため、水産関連企業とのマッチングを希望します。水産関連企業の中でも、特に食品加工、冷凍技術、漁業資材を扱う企業、流通関連企業、集魚灯関連を扱う企業をマッチングの希望相手としています。

生体成分の網羅的な検出と比較を行うメタボローム解析技術により皆様のご研究を支援致します。 食 15 食

(公財)かずさDNA研究所(生体物質解析センター)

●お問合先：TEL. 0438-52-3947　FAX. 0438-52-3948
E-mail. biosup-met@kazusa.or.jp
●所在地：〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足2-6-7
●URL: http://www.biosupport.kazusa.or.jp/sub_center3/

【出展内容】

わたしたちは、試料中の膨大な未知化合物の網羅的な解析サービスを御提供しております。具体的には試料中の化合物を質量分析機器で網羅的に分析し独自開発したソフトで高速に解析します。また、統計的手法により高感度で成分の違いを検出します。この他、タンパク質の質量分析も行っています。我々のメタボローム解析サービスは食品開発、製薬、環境などあらゆる研究分野に利用可能な技術です。
展示内容：ポスターを掲示し、パンフレット等を配布致します。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

食品や医薬品の開発、環境問題解決の為にメタボローム解析技術の導入をご検討されている方に弊所のメタボローム解析を御説明致します。

迅速簡便に作製可能な細菌検出用センサ（工）
ユーカリ葉抽出物の果糖吸収抑制と抗肥満作用（生） 食 16 食

(公)大阪府立大学(工学研究科/生物資源開発センター)

共同研究機関
・大阪府立大学 工学研究科:グリーンケム(株)/農研機構果樹研究所/大阪府立大学 生命環境科学研究科
・大阪府立大学 生物資源開発センター:長岡香料(株)

研究・技術プレゼンテーション	●D会場　14日(金) 14:40～15:30／14:40～15:30

●お問合先：TEL. 072-254-9686　FAX. 072-254-9874
E-mail. ipbc@iao.osakafu-u.ac.jp
●所在地：〒599-8570 大阪府堺市中区学園町1-2
●URL: http://www.osakafu-u.ac.jp/contribution/research/index.html

【出展内容】 試飲･試食 あり

食中毒細菌や植物病原細菌を検出するセンサを開発した。このセンサは細菌の鋳型をポリマ膜に作製するもので、極めて迅速かつ簡便にセンサの作製が可能である。本センサは主に食品分析を意図しており、現在、実試料への応用を行っている（工）／ユーカリ葉抽出物に果糖の吸収を抑制する作用を見出し、活性成分がポリフェノール（加水分解性タンニン）であることを解明した。ユーカリ葉抽出物は果糖の過剰摂取に起因する肥満や生活習慣病を抑制・予防する機能性食品素材として実用化が期待される（生）。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

迅速簡便に作製可能な細菌検出用センサを利用した食中毒細菌や植物病原菌等の検出に興味のある産業界の方々との情報交換を希望します（工学研究科）／果糖の過剰摂取に起因する肥満や生活習慣病の抑制･予防に有用な「ユーカリ葉抽出物」を利用した機能性食品等の開発に興味のある産業界の方々との情報交換を希望します（生物資源開発センター）。

野生種トマトの遺伝資源としての魅力
ーその利用と可能性についてー 食 17 食

アグリビジネスフォーラム【玉川大学】

研究・技術プレゼンテーション	●D会場　13日(木) 15:05～17:00

●お問合先：TEL. 042-739-8054　FAX. 042-739-8663
E-mail. chizai@tamagawa.ac.jp
●所在地：〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1
●URL: http://www.tamagawa.jp/

【出展内容】 実物展示 あり

野生種トマトの原産地別に、南米・アンデス山地・ガラパゴス諸島の3枚のパネルで、自生地ごとの特性や遺伝資源としての有用性を紹介します。また、実物の展示も行っています。これらの中には、現地では絶滅した系統も含まれますので、ご興味のある方には必見かと思います。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

展示してある野生種トマトを用いて、所定の協定を結び、手に入ることが困難になっている野生種トマトの共同研究ができることを強く希望します。

ICTを利用することで、養液土耕栽培を自動で支援するシステムの構築に成功しました。 食 18 食

アグリビジネスフォーラム【明治大学】

研究・技術プレゼンテーション	●D会場　13日(木) 15:05～17:00

●お問合先：TEL. 044-934-7639　FAX. 044-934-7917
E-mail. tlo-ikuta@mics.meiji.ac.jp
●所在地：〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1
中央校舎2階　生田研究知財事務室
●URL: http://www.meiji.ac.jp

【出展内容】 実物展示 あり 実演 あり

“経験と勘”に頼らない栽培管理を実現するため、数値管理の導入が比較的容易なハウスの養液土耕栽培をターゲットにして、ICTを利用した養液土耕栽培支援システム「ZeRo.agri」を産学共同で開発しました。養液の供給を自動化しただけではなく、数値に裏付けられた施肥管理が可能で、余分な肥料による塩類集積の問題を解決する手段としても期待できます。展示ブース、及びプレゼンテーションでは「ZeRo.agri」の制御ロジック、特徴、今後の展望等を紹介します。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

養液土耕栽培支援システム「ZeRo.agri」の追加機能の共同開発や、本システムを販売するパートナー等を探しています。この他、本システムを導入したい等、ご興味がございましたらお気軽にお越しください。

コケ由来の抗アレルギー効果についてと
開発に携わったシロップをご紹介します! 食 19 食

アグリビジネスフォーラム【東海大学】

研究・技術プレゼンテーション	●D会場　13日(木) 15:05～17:00

●お問合先：TEL. 0463-59-4364　FAX. 0463-58-1812
E-mail. sangi01@tsc.u-tokai.ac.jp
●所在地：〒259-1292 神奈川県平塚市北金目四丁目1番1号
●URL: http://www.u-tokai.ac.jp/about/collaboration/

【出展内容】 実物展示 あり 試飲･試食 あり

①フラクトオリゴ糖が豊富なヤーコンから作成したシロップ「阿蘇の秘蜜」について
②廃棄物ゼロを目指す高度循環型醸造プロジェクトからうまれたデザートソース「阿蘇の紅」について
③モウセンゴケ属の種分化と日本産種にみられる抗アレルギー効果について

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

野生動物被害でお困りの方必見!!
<被害への緩和策と被害の簡易評価法の開発>

食 20 食

(学)麻布大学　研究推進・支援本部

●お問合先：TEL. 042-754-7111　FAX. 042-850-2511
E-mail. research@azabu-u.ac.jp
●所在地：〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71
●URL: http://www.azabu-u.ac.jp/

【出展内容】　試飲・試食 あり

近年野生動物の増加に伴い農作物の食害が巷では注目されていますが、事態はより深刻な傾向にあります。具体的には、森の消失が既に始まっており、樹木の喪失による山の崩落や飲料水への影響の可能性も生じてきました。
これらの現実問題に対し、1)ヒツジの放牧による野生動物出現の抑制状況や、2)全国のシカによる影響を統一的に捉える簡便な評価法、3)食肉資源としての有効利用の観点から、シカ肉の保存性、加工適正、保湿効果等の研究結果を中心に発表いたします。
併せて、シカ肉を用いた加工食品の試食提供も行います。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

農・工・医・歯・教育学系の連携による食品研究の新たな展開

食 21 食

(国)新潟大学　地域連携フードサイエンスセンター

研究・技術プレゼンテーション　●A会場　12日(水) 13:35～14:00

●お問合先：TEL. 025-262-6674　FAX. 025-262-6674
E-mail. nutr@agr.niigata-u.ac.jp
●所在地：〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050
●URL: http://www.agr.niigata-u.ac.jp/food-sc/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

1)米の機能性に関する研究成果（農水省助成事業ほか）：米胚乳および米糠タンパク質の摂取による健康機能の紹介、飼料米給与時の食肉品質に関する研究成果の紹介。
2)超高圧食品加工技術に関する紹介と製品事例展示（JST助成事業ほか）。
3)非常食・災害食の研究と情報発信：本年8月に当センターが出版した書籍「災害時における食とその備蓄：東日本大震災を振り返って首都直下地震に備える」の展示と、昨秋に設立した日本災害食学会、現在の多様な災害食の事例紹介と試食を行う。
4)食の産学官連携を進める当センターのご紹介。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

食用地衣類を用いた血圧降下作用を有する
機能性食品素材の開発

食 22 食

(独)国際農林水産業研究センター

●お問合先：TEL. 029-838-6717　FAX. 029-838-6337
●所在地：〒305-8686 茨城県つくば市大わし1-1
●URL: http://www.jircas.affrc.go.jp/index.sjis.html

【出展内容】

熱帯又は亜熱帯に属する地域その他開発途上地域における農林水産業の研究を包括的に行う我が国唯一の研究機関として、「国際的な食料・環境問題の解決に向けた農林水産技術の研究開発」、「国際的な食料・農林水産業及び農山漁村に関する動向把握のための情報の収集・分析及び提供」を開発途上地域の農林水産研究機関、国際農業研究機関等との連携・協力の下で推進し、開発途上地域の農林水産技術の向上に貢献しています。
今回は、機能性食品の開発に関する内容を中心に展示を実施致します。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

水溶性食物繊維を多く含んだ、おいしくて健康に良い
大麦食品の特徴やレシピ、販売商品等の紹介

食 23 食

埼玉大麦食品普及・食のモデル地域実行協議会

研究・技術プレゼンテーション　●A会場　12日(水) 11:30～11:55

●お問合先：TEL. 048-858-3849　FAX. 048-858-9419
E-mail. s.oomugi@gmail.com
●所在地：〒331-8570 埼玉県桜区下大久保255　埼玉大学内
●URL: http://www.oh-mugi-power.com/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

・埼玉大麦食品普及・食のモデル地域実行協議会の概要（体制、スローガン、事業概要図）
・大麦の健康機能性
・使用大麦の品種、大麦製粉技術及び開発した大麦食品の特徴

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

プラズマを利用した殺菌消毒技術で農作物や食品を殺菌し、
菌・カビの汚染や品質劣化を防ぎます。

食 24 食

(国)佐賀大学

研究・技術プレゼンテーション　●C会場　13日(木) 14:10～14:35

●お問合先：TEL. 0952-28-8639　FAX. 0952-28-8651
E-mail. misawa@cc.saga-u.ac.jp
●所在地：〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

本グループでは、農産物に付着する菌、カビ類をプラズマを用いて殺菌消毒する技術の開発を行っています。国内では収穫後の農産物への農薬などの散布はできず、また、輸入果実などのポストハーベスト農薬も、無農薬のニーズの高まりから懸念材料となっています。プラズマによる殺菌消毒技術は、残留物が無く、無害で、農産物の貯蔵期間の延長や品質保持に有効であり、農産物の貯蔵、流通分野での新規技術となると考えております。かんきつ類の様な球形の農産物や、種子・穀物の様な顆粒状農産物に対する殺菌技術の開発を進めております。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

農産物の選果、輸送、貯蔵などを取りわれている企業様、食品、食品関連製品の殺菌、消毒などを必要とされている企業様、また、農産物、食品関連に限らず、製品へのプラズマ応用を検討中の企業様とのコラボレーションが可能と考えております。

おまかせ下さい!未利用資源や地域に根ざした資源を
活用した加工食品の開発をお手伝い致します。

食 25 食

含気調理食品(株)

●お問合先：TEL. 086-233-2646　FAX. 086-722-9556
E-mail. gankifoods@tgcgankifoods.jp
●所在地：〒700-0824 岡山県岡山市北区内山下一丁目14-19
●URL: http://tgcgankifoods.jp/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

①農水産資源において、利用価値が少ない部分や、未利用とされる部分を用いた加工食品の開発について：(1)マシュルームの未利用部位（軸、石づき、カサ）を利用したスープやピラフ等の常温食品を開発。(2)生産過剰となったホウレン草・キャベツの産地に協力して、野菜を丸ごと利用できる野菜入りカレーの常温食品を開発。(3)岡山特産白桃・マスカット等の未利用産物を生かしたカレー常温食品の開発。
②地産池消や6次産業化推進に際しての加工食品の開発と開発例について

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

世界的に注目が集まっている「昆虫食」について、その可能性を紹介します。

食 26

(国)山口大学

●お問合先：TEL. 0836-85-3062　FAX. 0836-22-2115
E-mail. tonooka@crc.yamaguchi-u.ac.jp
●所在地：〒755-8505 山口県宇部市南小串 1-1-1 山口大学ライフサイエンス支援室
●URL:　http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/

【出展内容】

国連の食糧農業機関（FAO）からの報告" Edible insects: Future prospects for food and feed security"で詳しく述べられている様に、21世紀の人口爆発とそれに伴う食料問題の解決策として、昆虫を食料源として捉え、実社会で受け入れられるようにしていくための取り組みが注目されている。山口大学農学部では、これまでに昆虫を研究材料としてきた研究者のグループにより、新たに「昆虫食」をテーマとした研究に着手したので取組状況を紹介する。

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

食を通して健康長寿社会の確立を目指す。農業の再建を目指してピロール農法とオリーブの栽培を。

食 27

(株)イイノ研

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　14日(金) 11:30～11:55

●お問合先：TEL. 0972-62-8689　FAX. 0972-62-8689
●所在地：〒875-0041 大分県臼杵市臼杵622-3

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり　試飲・試食 あり

農商工連携による共同開発、食養法マクロビオテック「玄米採食」の普及、機能性食品の開発研究（産学官）
乳酸菌を活用した畜産（肉・ヨーグルト）、めしの食える農業オリーブの栽培（九州6万本突破）
「ピロール大分米」弱アルカリ、ビタミンB12含有、柔らかくて美味しい発酵玄米酵素ごはんが炊ける「スーパー万能釜」
「つるみの磯塩」不溶解成分除去特許（産学官連携）、新型加熱処理乳酸菌FK-23と"畜産"のコラボレーション
「東京大学のみどりむし+マキュベリー」加工食品の抗酸化作用

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

低価格の水耕栽培システムや生ごみ堆肥化システム、水耕養液への腐植物質の添加効果を展示する

食 28

(学)明星大学

共同研究機関　(株)T&G/(株)アースイノベーション/楽しい(株)

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　14日(金) 14:10～14:35

●お問合先：TEL. 042-591-7346　FAX. 042-591-7346
E-mail. yoshizaw@es.meisei-u.ac.jp/rie.miyata@meisei-u.ac.jp
●所在地：〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1

【出展内容】

シーズ①自然光を利用した低価格水耕栽培システム
・有機質発酵物を添加した水耕養液の開発
・硝酸イオン濃度を低下させた水菜の水耕方法
シーズ②フルボ酸系の水耕栽培用養液の調整剤
・フルボ酸系養液の添加による化成肥料の使用量低減化
シーズ③高圧空気と低圧空気を用いた堆肥熟成装置
・生ごみ堆肥化における使用例

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

低価格の水耕栽培システムや生ごみ堆肥化システムは、既に製品化しているため実施事例を紹介する。これら技術の移転先や導入希望先とのマッチングを希望します。また、水耕栽培養液への腐植物質の添加効果については、研究結果を発表する。こちらについても、技術の移転先や導入希望先とのマッチングを希望し ます。

「未来の食と農を支える首都圏農学系私立五大学」が共同出展。セミナーは13日15時D会場です

食 29

アグリビジネスフォーラム【首都圏農学系私立五大学】

研究・技術プレゼンテーション	●D会場　13日(木) 15:05～17:00

●お問合先：TEL. 0463-59-4364　FAX. 0463-58-1812
E-mail. sangi01@tsc.u-tokai.ac.jp
●所在地：〒259-1292 神奈川県平塚市北金目四丁目 1番 1号

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

首都圏で農学系学部を有する私立五大学（東海・明治・東京農業・日本・玉川)は、産学官連携によるアグリビジネス創出を目指して、2005年度より毎年「アグリビジネスフォーラム」を開催し紹介してきました。第10回目となる今年も、「アグリビジネス創出フェア2014」に共同出展し、「機能性食品」をキーワードとして、研究成果の紹介と共にセミナーを開催し、食、そして健康に焦点を当て、機能性食品の役割と将来を考えます。

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

首都圏農学系私立五大学（明治・東京農業・日本・玉川・東海）で出展

食 30

アグリビジネスフォーラム【東京農業大学】

研究・技術プレゼンテーション	●D会場　13日(木) 15:05～17:00

●お問合先：TEL. 03-5477-2532　FAX. 03-5477-2634
E-mail. nri@nodai.ac.jp
●所在地：〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
●URL:　http://www.nodai.ac.jp/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

「農林水産業の高付加価値成長戦略を担う6次産業化ビジネス」
生物産業学部において、農林水産業の6次産業化を据え、産学官金連携の強化と農林水産業の6次産業化を基礎とする学科横断的な研究・教育プログラムの開発・実施に取り組んでいます。その具体的な成果として、学生、卒業生による事業化・商品化・企業連携などの事例や農大福、エミューどら焼き、機能性成分を豊富に含むトマトのピューレ、機能性大麦を含む麺などの実物展示により、ものづくりと人材育成について紹介いたします。

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

日本大学の美味しいシーズを取揃えました!
食用菊、ハム・ベーコン、バウムクーヘンを日替わりで

食 31

アグリビジネスフォーラム【日本大学】

研究・技術プレゼンテーション	●D会場　13日(木) 15:05～17:00

●お問合先：TEL. 03-5275-8139　FAX. 03-5275-8328
E-mail. nubic@nihon-u.ac.jp
●所在地：〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24
●URL:　http://www.nubic.jp/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

①エビ・カニを捕食する魚類から単離されたキチン質分解酵素とその遺伝子
②山形県産の食用菊「モッテノホカ」が持つリラックス効果と試食
③日本大学食品加工所の紹介とハム・ベーコンの試食
④静岡とブラジルとの地域連携、ブラジル特産品を利用したバウムクーヘン試食
⑤ウナギ回遊の研究と自然保護

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

①リラックス効果が確認された食用菊「モッテノホカ」について、企業様から共同商品開発のご提案をお待ちしています。
②日本大学の食品加工所では、企業様からの共同商品開発などのご提案をお待ちしています。

宮崎大学農学部の最新研究シーズ紹介 **食 32**

(国)宮崎大学

●お問合先：TEL. 0985-58-7592　FAX. 0985-58-7793
E-mail. chizai@of.miyazaki-u.ac.jp
●所在地：〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1丁目 1番地 産学・地域連携センター
●URL: http://www.miyazaki-u.ac.jp

【出展内容】 実物展示 あり　試飲・試食 あり

本出展では、①宮崎県の早期水稲後作を利用したダイズ生産による新規農業体系の提案と、大豆加工食品の紹介、②分岐鎖アミノ酸代謝シグナル制御によるダイズの収量・機能性栄養成分増強技術の開発、③ゲノム情報を基盤とした食中毒原因細菌の細分類・検査プラットフォームの構築と、それを利用した病原大腸菌PCR検査キットの開発、④微生物を利用した燃料電池の開発、⑤ハウス内湿度環境制御装置の開発を展示します。また、大学独自ブランド「宮崎大学Beef」および「宮崎大学Milk」の試飲試食を行います。

【マッチング希望】
共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資 金

宮崎から日向夏を利用した研究成果の一部を紹介し、日向夏の魅力についてたっぷり説明します。 **食 33**

宮崎県農協果汁(株)/(国)宮崎大学/(学)崇城大学

研究・技術プレゼンテーション ●A会場　13日(木) 11:30～11:55

●お問合先：TEL. 0983-27-1111　FAX. 0983-27-4584
E-mail. info@kajyu.co.jp
●所在地：〒889-1301 宮崎県児湯郡川南町大字川南 20016-3
●URL: http://www.kajyu.co.jp

【出展内容】 実物展示 あり　試飲・試食 あり

本出展では、農林水産省の競争的資金（平成25年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業委託事業「医食農連携による日向夏搾汁残渣を用いた骨代謝改善素材、飲料の実用化開発」）の成果の一部として、試作品開発とそれに至る研究内容について、以下のシーズに整理して出展する。
シーズ①：骨代謝改善素材、飲料の試作・・・試作品と共に製造開発についてポスターによる説明
シーズ②：作用機序の解明：骨芽細胞分化に関係する遺伝子の発現について

【マッチング希望】
共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資 金
宮崎特産柑橘『日向夏』の新たな可能性についてご説明します。

特許取得!
宮崎特産の日向夏(ひゅうがなつ)で骨活しませんか? **食 34**

一丸ファルコス(株)/(国)宮崎大学/(学)崇城大学

研究・技術プレゼンテーション ●A会場　14日(金) 14:10～14:35

●お問合先：TEL. 058-320-1030　FAX. 058-320-1041
E-mail. formula@ichimaru.co.jp
●所在地：〒501-0475 岐阜県本巣市浅木318番地1

【出展内容】

本出展では、農林水産省の競争的資金（平成25年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業委託事業「医食農連携による日向夏搾汁残渣を用いた骨代謝改善素材、飲料の実用化開発」）の成果の一部として、試作品開発とそれに至る研究内容について、以下のシーズに整理して出展する。
シーズ①：骨代謝改善素材の試作についてポスターを用いた説明
シーズ②：有効成分探索と培養細胞系試験（in vitro）：細胞を用いた骨代謝改善効果のメカニズム

【マッチング希望】
共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資 金

島根の"味の縁結び"「出雲おろち大根」について紹介します!
試飲・試食も出来ます! **食 35**

(国)島根大学農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター

研究・技術プレゼンテーション ●C会場　13日(木) 16:30～16:55

●お問合先：TEL. 0852-32-6504　FAX. 0852-32-9845
E-mail. kakashi@life.shimane-u.ac.jp
●所在地：〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060
●URL: http://www.shimane-u.ac.jp

【出展内容】 実物展示 あり　試飲・試食 あり

島根大学の持つ食品シーズ（おろち大根・いも焼酎・柿ドリンク・エゴマ・仁多米など）・研究の取組をパネルと実物で紹介する。柿ドリンク「晩夕飲力」、出雲おろち大根「みぞれソース」、芋焼酎「神在の里」などの試飲試食を行います。

【マッチング希望】
共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資 金

野菜としては世界で初めて「抗アレルギー作用」の有意性が学術的に立証されました。 **食 36**

大森ヘルスケア(株)

共同研究機関 岡山大学薬学部

研究・技術プレゼンテーション ●A会場　13日(木) 10:20～10:45

●お問合先：TEL. 086-293-1144　FAX. 086-293-7373
E-mail. boss@ohmori-net.co.jp
●所在地：〒701-0165 岡山県岡山市北区大内田828-2
●URL: http://www.ohmori-net.co.jp/

【出展内容】 実物展示 あり　試飲・試食 あり

①チシャトウ（野菜の一種）のアレルギー性疾患緩和食材としての有用性について産学連携の最新の成果を展示・発表する。
（1）チシャトウの紹介（実物や乾燥品、試作加工品）、(2) NHKのニュースで放送（http://www.nhk.or.jp/okayamamogitateblog/700/137537.html）

【マッチング希望】
共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資 金

香川大学発の今が旬の商品と
今後の展開が期待される商品を紹介 **食 37**

(国)香川大学

研究・技術プレゼンテーション ●A会場　13日(木) 14:10～14:35

●お問合先：TEL. 087-832-1000　FAX. 087-832-1053
E-mail. c-coip@eng.kagawa-u.ac.jp
●所在地：〒760-8521 香川県高松市幸町 1番 1号
●URL: http://www.kagawa-u.ac.jp/

【出展内容】 実物展示 あり　試飲・試食 あり

①希少糖関連：香川大学の取り組みと最新研究内容（パネル、希少糖関連商品展示）など
②香川大学オリジナルぶどう品種「香大農R1」関連：香川大学オリジナルぶどうを用いた商品の紹介（パネル、ワインボトル展示）など
③香川県との共同開発したオリジナルキウイ品種関連：「さぬきキウイっこ（商標）」の研究成果紹介（パネル、サンプル展示）など
④アイスプラント等塩性植物関連：香川大学の塩性植物に関する研究紹介（パネル、サンプル展示）など　他

【マッチング希望】
共同研究 / 技術移転

次世代特許技術の連続加熱調理殺菌装置による
農･水産物の無添加無菌食品の共同開発と6次産業化

食 38 食

(株)味きっこう

●お問合先：TEL. 0799-27-0867　FAX. 0799-27-2591
E-mail. mail@ajikikko.ne
●所在地：〒656-2542 兵庫県洲本市由良町内田33-1
●URL: http://ajikikko.net

【出展内容】 実物展示 あり

本システムを利用し、6次産業化に向けた動画も含め見える化の展示を目指したい。
・本システムで開発した農産物畜産物関係の無添加無菌パック食品群の展示
・本システムで開発した水産物関係の無添加無菌パック食品群の展示
・本システムの写真、本システムで開発した食品群の写真展示
・製造工程等の動画展示

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

本年、このフェアに参加2年目となりますので、マッチング相手を少なくとも3件は見つけたい考えです。

高圧処理技術を活用した独創的な研究、
製品開発を支援します。

食 39 食

H･P未来産業創造研究会

●お問合先：TEL. 0258-32-4500　FAX. 0258-34-4500
E-mail. m-ogino@echigoseika.co.jp
●所在地：〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町2丁目1-1 長岡商工会議所内
●URL: http://www.ahp-future.com

【出展内容】 実物展示 あり

高圧処理は、食品の加工に1000気圧以上の静水圧を利用する技術です。H・P未来産業創造研究会は、高圧処理に関わる新技術、特許の活用により、消費者のニーズを的確に捉え、新市場に挑戦すると共に、新事業を創造することを目的とし、平成11年に発足した食品製造関係、機械設備関係の企業を中心とした研究会です。本技術を活用する上で必要となる高圧処理装置は、誰でも自由に使うことができ、実用化や設備導入の支援を行っています。本技術は、熱に比べて栄養素の破壊やエネルギー消費が少なく、未来の食品加工に適した技術です。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

高圧処理は熱に比べて栄養素の破壊、異臭の発生、異常物質の生成が少ないことが特徴です。さらに、熱に比べてエネルギー消費が少なく、未来の食品加工に適した技術です。

信頼される食文化の創造を目指す

食 40 食

(株)食の科学舎

●お問合先：TEL. 011-212-1024　FAX. 011-223-3581
E-mail. info@shokunokagaku.com
●所在地：〒060-0033 北海道札幌市中央区北3条東5丁目335番地2
●URL: http://shokunokagaku.com

【出展内容】 実物展示 あり

食の科学舎は、2012年3月に設立したベンチャー企業です。北海道の農水産物の付加価値向上を目的とする研究・開発を、大学・研究 機関との共同研究を通じて、新しい食の提案、新たな販路拡大を目指し、事業活動を進めています。
今回の展示会では、①野菜や果物、穀物などの素材を細胞を壊さず、素材・栄養素を丸ごとピューレ化する技術の紹介、②高齢化に伴い大きな注目を受けている課題の一つオーラルケア、虫歯予防に効果がある成分「レクチン」の紹介 を行います。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

リンやカリウムの摂取制限を受けられている方や
高齢者の方のために開発した安価で美味しい米です

食 41 食

三重県農業研究所

●お問合先：TEL. 0598-42-6357　FAX. 0598-42-1644
E-mail. nougi@pref.mie.jp
●所在地：〒515-2316 三重県松阪市嬉野川北町530
●URL: http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/

【出展内容】 実物展示 あり

三重県では、異業種･産学官の連携による新商品･新サービスを開発する「みえフードイノベーション」に取り組んでいます。三重県農業研究所と（株）ミエライス、(株)サタケで共有特許を申請中の技術により製造し、販売を開始した「低リン米」について展示し、販売拡大のための流通・販売業者とのマッチングを図ります。また、三重県の県産食材を活かして開発したフードイノベーション商品を紹介します。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

開発した低リンを使って弁当などの商品開発を共同で進めて頂ける企業や食事制限を受けられている方への食品開発にご興味をお持ちの企業を求めます。

郵送検診キット『ソイチェック』の活用による
大豆消費量の拡大

食 42 食

(株)ヘルスケアシステムズ(名古屋大学発ベンチャー)

共同研究機関 **名古屋大学/愛知学院大学/武庫川女子大学/愛知学泉大学/愛媛大学/兵庫県立大学**

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　14日(金) 10:20～10:45

●お問合先：TEL. 03-5281-9811　FAX. 03-5281-9812
E-mail. info@hc-sys.jp
●所在地：〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-1-15-5F D&F御茶ノ水ビル
●URL: http://hc-sys.jp

【出展内容】 実物展示 あり

大豆の機能性成分イソフラボンは、その健康効果を効率よく得られることができる人と、そうでない人がいます。効率よく得られるタイプの人は、大豆を毎日食べている人が多いことが分かってきました。名古屋大学発ベンチャーの当社は、どちらのタイプかを簡便に検査する装置を産学連携で開発し、郵送検診キット「ソイチェック」として製品化しました。すでに7000人を超える方に検査いただいています。
今回の出展では、検査を起点として大豆と健康をリンクさせ、大豆生産者の応援と消費量の拡大を目指した取り組みをご紹介いたします。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

ソイチェックの活用のほか、大学発ベンチャーとして、食品の機能性研究や成分分析、ヒト臨床試験などのサポートも行っています。

天日干しが美味しい理由を解明し、食材のうまみ成分と
機能性成分を増大させる光照射乾燥･貯蔵法

食 43 食

(学)八戸工業大学

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　13日(木) 14:45～15:10

●お問合先：TEL. 0178-25-3111　FAX. 0178-25-6825
E-mail. aoki@hi-tech.ac.jp
●所在地：〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1
●URL: http://www.hi-tech.ac.jp

【出展内容】 実物展示 あり　試飲･試食 あり

天日干しが美味しい理由が太陽光線の中のUVAのような紫外線の効果であることを実験的に証明し、UV-Aの光を人工的に照射することにより、食材のうまみ成分と生理活性物質、抗酸化性物質を増大させ、天日干しの美味しさを超える食品を製造できる光照射乾燥法を開発した。展示では全国各地の様々な農水畜産物に光照射した実施例を示し、全国各地で産出されるさまざまな農産物、水産物、畜産物に適応可能であること、光照射乾燥法の想定される対象品、実用化への課題と新たな展開分野である野菜や畜産物の貯蔵について展示する。

【マッチング希望】

共同研究 製品化 技術移転 資金

これまで全国の20カ所以上の農水産物を対象に、光照射乾燥法の実証を行って効果を検証し、鮮度が良いほど効果が良いことを確認しました。今回の展示では、光照射の対象を乾燥だけでなく、新たな展開として野菜の低温貯蔵、畜肉･鮮魚の低温貯蔵、冷蔵庫、オープンショーケース等への適用を示し、関心のある企業とのマッチング図りたいと考えております。

環境

マッチング目的欄ピクト解説

濃いグレーで表示されているものが、希望している内容です。

- 共同研究：保有シーズの共同研究相手をみつけるため
- 製品化：保有シーズの製品化のため
- 技術移転：保有シーズの技術の移転先をみつけるため
- 資金：資金提供元をみつけるため

森林・林業・木材産業に関する研究機関です。
最新の技術を実物展示や実演によってご説明します。

環 01 環境

(独)森林総合研究所

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　13日(木) 10:55~11:20

●お問合先：TEL. 029-873-3211　FAX. 029-874-3720
E-mail. sangaku@ffpri.affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8687　茨城県つくば市松の里1
●URL:　http://www.ffpri.affrc.go.jp/

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

【未利用林地残材"葉"から生まれた空気浄化剤（産学官功労者表彰を受賞しました)】、【自然生態系保全を目的とした治山・緑化資材（三宅島の緑化に貢献しました)】、【地下水から土砂崩壊を予測する（地下水音を測定する装置を開発しました)】、【林地残材を原料とした木製単層トレイの量産化（量産化機械を動画でお見せします)】、【中高層建築を可能とするスギCLT（新しい建築材料です)】、【シイタケ原木栽培における放射性セシウムリスクの低減技術（ブルシアンブルーが効果的でした)】について出展します。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

新規の微生物検出アルゴリズムと、
それを基に設計・開発した選択培地のご紹介

環 02 環境

(株)リバネス

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　12日(水) 14:45~15:10

●お問合先：TEL. 03-5227-4198　FAX. 03-5227-4199
E-mail. rs@Lne.st
●所在地：　〒162-0822 東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル5階
●URL:　http://lne.st

【出展内容】　実物展示 あり

農業の生産現場の方や植物病害の防除を目指す皆様に、ご自分で農作物の病気を診断できる技術をご紹介します。従来の選択培地は雑菌が生えやすく、目的の微生物と他の雑菌を見分けるのが非常に困難でした。東京大学植物医科学研究室が開発した「SMART（スマート)」は、特定の病気を起こす微生物だけを検出する培地の設計アルゴリズムです。これをもとに作成した選択培地を用いた微生物検出は、専門技術や特殊な設備が不要です。さらに医療診断や食品管理などの分野で、特定の微生物の判定や計測にも使える可能性を持っています。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

今回は農業分野で選択培地を活用した微生物防除を考えている方や、医療用診断、食品管理などそれ以外の分野での活用を考えている方をお待ちしております。

農家が考えた食電併産安全農業とFIT後の
自然エネルギー自給型フルーツファームの将来像

環 03 環境

須坂市スマートアグリソーラー研究会

共同研究機関　**信州大学工学部/サンジュニア㈱/アスザック㈱/長野県農村工業研究所/長野県工業技術総合センター/須高農業協同組合/本澤農園/後藤農園/須坂市**

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　12日(水) 15:20~15:45

●お問合先：TEL. 026-245-6143　FAX. 026-245-6143
E-mail. okagrape@bird.ocn.ne.jp
●所在地：　〒382-0071 長野県須坂市大字小河原2606

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり　試飲・試食 あり

スマートアグリソーラーは、太陽の位置や気象条件に応じ、角度を自動制御できる営農型太陽光発電装置であり、ぶどう圃場に試用した結果、日照障害による品質低下は無く品種により品質向上も可能であること、発電量は固定式に比べ大差ないこと等が実証された。本年度は事業化に向けた改良モデルを展示実演するほか、ポストFITにおける太陽光発電の自園内地産地消システム{スマートフルーツファーム}として「農作業の電動化」、「LED補光」、「緑の充電ステーション」等についてサンプル及びパネルを展示する。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

○スマートアグリソーラーのビジネスパートナーの紹介
○スマートアグリソーラーの光合成に着目した栽培と発電最適化に関する共同研究
○農業機械の電動化に関する共同開発

環境改善を実現する技術総結集!

環 04 環境

環境農業資材協議会

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　12日(水) 16:30~16:55

●お問合先：TEL. 03-3826-5212　FAX. 03-3826-5217
●所在地：　〒125-0041 東京都葛飾区東金町1-41-9 共同ビル9F

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

畜産汚泥処理に画期的な商材を開発、その裏付けるデータが必要（エスケー環境㈱)
1.燃料改質装置：HNFシリーズ
2.高効率農業用暖房機：HBシリーズ
3.バイオマス用燃焼システム
4.太陽光ライティングシステム
5.発電システム（農業用、バイオマス、一般)
6.養豚システム、養鰻システムなど農業改革に必要な技術に関するビデオ、及びパネルの展示（オービットエナジー)
自然農を実践するにふさわしい堆肥つくりの商材（日本豊受自然農)

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

3社出展、各小間に責任者をおきます。

環境にやさしい「バイオマスマーク」認定商品の紹介

環 05 環境

(一社)日本有機資源協会

●お問合先：TEL. 03-3297-5618　FAX. 03-3297-5619
E-mail. kato1773@jora.jp
●所在地：　〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16　馬事畜産会館401
●URL:　http://www.jora.jp

【出展内容】　実物展示 あり

植物からプラスチックや印刷インキ、合成繊維などが作れるようになりました。石油から作った製品は私たちの生活を豊かにしてくれましたが、地球温暖化という現象を引き起こしてしまいました。植物は空気中の炭酸ガスを吸って育ちますので、燃やした時に出た炭酸ガスは空気中にもどるだけです。植物を原料とした製品に「バイオマスマーク」の表示を認めています。環境にやさしい認定商品を是非ご覧ください。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

地球温暖化対策の一つ「カーボン・オフセット」。
農産品や地域産品での活用事例をご紹介します。

環 06 環境

環境省　J-COF

●お問合先：TEL. 03-5776-0402　FAX. 03-5472-0145
E-mail. info@j-cof.org
●所在地：　〒105-0003 東京都港区西新橋3-25-33 NP御成門ビル3階
（一般社団法人海外環境協力センター）
●URL:　http://www.j-cof.go.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

地球温暖化対策として、環境省・農水省の推進するカーボン・オフセットの取り組みと農産物等でカーボン・オフセットを活用した事例をご紹介します。

【マッチング希望】

ICTを用いた環境計測機器を
実例を紹介しながら展示します。

環 07 環境

(国)東京大学　国際情報農学研究室/水利環境工学研究室

●お問合先：TEL. 03-5841-1606　FAX.
E-mail. tetsu@x-ability.jp
●所在地：　〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1
●URL:　http://www.iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp/mizo/mizolab.html

【出展内容】　実物展示 あり

1：作物のpF管理用水ポテンシャル読み取り装置
作物のしおれ点（水ポテンシャル）を測定するセンサーが市販されている。このセンサー専用の読み取り装置を開発した。データはスマホで確認、取得、送信ができるように設計した。
2：水田の湛水情報サービス提供システム
水田の湛水深をスマホ、PC等でモニタリングできるシステムを開発した。試験圃場のモニタリング状況を展示する。また本システムにはカメラ、水温センサ、電気伝導度センサなどのオプション付加が可能である。

【マッチング希望】

水車を回してエネルギーの地産地消を推進します

環 08 環境

(公)石川県立大学

共同研究機関　協同アルミ(株)

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　12日(水) 13:00～13:25

●お問合先：TEL. 076-227-7220　FAX. 076-227-7410
●所在地：　〒921-8836 石川県野々市市末松 1-308
●URL:　http://www.ishikawa-pu.ac.jp

【出展内容】　実物展示 あり

水力ポテンシャルが多く存在する農業用水等に導入可能な小規模水力発電装置の開発状況を紹介する。現在、低流量かつ低落差の条件下でも効率よく稼働するらせん水車の最適設計に関する研究を行っている。今回は、その成果の一部として、協同アルミ株式会社と共同で開発した水車発電機を実物展示する。また、水力ポテンシャルの調査結果を基に、系統連系や自家消費のそれぞれについて需給バランスの検討と配電システムの課題を取り上げる。

【マッチング希望】

マイクロ水力発電導入の事業化に直接繋る相手とのマッチングを希望します。

熱を貯める液体
～未利用熱エネルギーの革新的活用技術の開発～

環 09 環境

(国)信州大学 工学部 物質工学科 酒井研究室

●お問合先：TEL. 026-269-5405　FAX. 026-269-5424
E-mail. imaruyama@shinshu-u.ac.jp
●所在地：　〒380-8553 長野県長野市若里4-17-1
●URL:　http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/engineering/chair/chem005/Index.htm

【出展内容】　実物展示 あり

太陽エネルギー（熱）や工場、家庭から排出される熱を有効利用するため、液体状の熱エネルギー貯蔵材料を開発した。 製造に化学反応（重合）を必要とせず、混合のみで製造可能である。また、再生処理などにより繰り返し使用が可能である。開発された熱エネルギー貯蔵液体は、温度調節が可能で繰り返し使用可能である。ビニールハウス栽培における冬の保温システム、雪によるビニールハウスの倒壊を防ぐための融雪剤などへの展開を検討している。

【マッチング希望】

環境分野（ヒートアイランド対策）農業分野（ビニールハウス内の保温）建築分野（空調用蓄冷装置、建材：断熱ボード、床暖房）塗料分野（熱吸収塗料）自動車分野（冷却水、空調の循環水）交通分野（融雪・凍結防止剤・結露防止剤）化粧品分野（美容、保温パック）とのマッチングを希望

畜舎環境改善のためのコストパフォーマンスに優れた
畜舎用空気清浄機に関する展示をします

環 10 環境

(地独)岩手県工業技術センター

●お問合先：TEL. 019-635-1115　FAX. 019-635-0311
E-mail. CD0002@pref.iwate.jp
●所在地：　〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡二丁目4-25
●URL:　http://www2.pref.iwate.jp/~kiri/

【出展内容】　実物展示 あり

畜産経営にとって畜舎の環境改善は疾病予防、生産性向上のために重要な課題です。開口部はほとんど閉じられる冬季では、換気が不十分となり疾病等が発生しやすい問題があります。日常的に畜舎から発生する臭気は苦情につながることが多く、家畜へも悪影響を与えることがあります。このような中、工業、農業分野の機関、民間企業等がコンソーシアムを形成してコストパフォーマンスに優れた畜舎向けの換気装置開発を行いました。ブースでは、装置の特徴や試験畜舎での試験データ等を展示し、装置の効果についてご紹介しています。

【マッチング希望】

畜産分野、食品製造業をはじめ、においなどの問題を解決したい企業、研究者の方々と意見交換を行い、空気清浄機に関するご意見をいただきたいと思います。

バイオマス塗料・接着剤を用いた木材製品の開発!
隠岐の島の新しい林業活性化の取り組みを紹介!

環 11 環境

隠岐の島町商工会

●お問合先：TEL.　08512-2-1157　FAX.　08512-2-5984
●所在地：　〒685-0013 島根県隠岐郡隠岐の島町中町目貫の二、54-1
隠岐の島町商工会館

【出展内容】　実物展示 あり

隠岐の未利用材（間伐材、松くい虫被害木）からリグノフェノールを抽出し、これから接着剤・塗料を製造したものと隠岐特産のクロマツを組み合わせた「隠岐リグノフェノール塗料塗布クロマツ集成材」を使った、カウンター等の商品を展示します。リグノフェノールは、木質成分のリグニン（木材成分の30%を占める）を化学処理により世界で初めて安定化した形で取り出したバイオマスマテリアルであり、近年、工業化が進み石油由来のフェノールの代替や接着剤としての活用が期待されています。

【マッチング希望】

安全な食料生産や農業環境の保全を目指すとともに、
地球規模の環境変動に挑みます！

環 12 環境

(独)農業環境技術研究所

●お問合先：TEL. 029-838-8181　FAX. 029-838-8167
E-mail. coord@niaes.affrc.go.jp
●所在地：　〒305-8604 茨城県つくば市観音台3-1-3
●URL:　http://www.niaes.affrc.go.jp/

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

農業環境技術研究所は、土壌、水、大気などの環境資源の保全と持続可能な農業を実現するため、地球規模の環境変動、環境中の汚染物質、生物多様性の保全など、農業環境を取り巻く様々な課題を解決する研究に取り組んでいます。
本フェアでは、低カドミウム稲、有害物質の吸着除去方法、放射性物質による土壌汚染対策、世界の食料生産予測手法など、最新の特許技術や研究成果を中心に紹介します。

【マッチング希望】

世界初の「バルーン型太陽熱エネルギー利用システム」
植物工場の温度管理に活用可能

環 13 環境

(国)九州大学大学院 機械工学部門 スマート熱システムプロジェクト

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　13日(木) 15:55～16:20

●お問合先：TEL. 092-802-3242　FAX. 092-802-3125
●所在地：　〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744

【出展内容】　実物展示 あり

新たに開発したバルーン型の集熱装置（世界初）と低コスト型吸着冷凍機を利用したコンパクトな吸着冷凍機の組み合わせにより、太陽熱とわずかな電 力で水温を約 10℃冷却することが 可能なシステムを開発しました。冬季は集熱装置単体で給湯（80℃）も可能です。
本システムは、水 と太陽光を利用する安全・クリーンなシステムです。
集熱装置のモジュール化により、必要な規模に応じて拡張が可能です。植物工場の冷却や加温、その他畜産厩舎や水族館・動物園など、冷水・温水 の利用が求められる現場で活用できます。

【マッチング希望】

群馬県の畜産環境改善を目的とした、
浄化･脱臭･エネルギー利用に関する技術を紹介

環 14 環境

NPO法人ぐんまテクノサポーターズ

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　14日(金) 10:55～11:20

●お問合先：TEL. 027-344-8002　FAX. 027-344-8002
E-mail. guntechiizuka@ybb.ne.jp/guntech_takigawa@ybb.ne.jp
●所在地：　〒370-0883 群馬県高崎市剣崎町191-1
●URL:　http://www.guntech.jp/guntech/Home.html

【出展内容】

1. 水質浄化装置：炭素繊維と鉄の反応で水中のリンを除去する装置（アオコの発生防止、家畜尿の浄化等）
2. 脱臭装置：ロックウールや炭素繊維から生成したファイバーボールを利用した家畜の臭気（高濃度アンモニア臭）を減少させる装置
3. 燃焼装置：低温で鶏糞を燃焼し炭化させる燃焼炉、豚糞をガス化、燃焼させエネルギーを取り出す装置

【マッチング希望】

水質浄化装置、脱臭装置、鶏糞炭化・灰化装置、低温ガス化装置について開発研究は完了しているが、実証レベルでは課題があり、今後技術の普及に向けた取り組みを進めていく上での協力先を探している。

食料生産拠点から6次産業化に向けて就農者を増やすことが可能か?農学部の方向性を確かめたい

環 15 環境

(国)鹿児島大学　農学部

●お問合先：TEL. 099-285-8606　FAX.
E-mail. kamitani@agri.kagoshima-u.ac.jp
●所在地：　〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24 E棟　4階

【出展内容】　実物展示 あり

鹿児島大学農学部研究シーズ紹介
①機能水を利用した省水資源型植物工場による栽培管理（パネル展示）
②ユーグレナを使用した家畜糞尿処理法の開発（パネル展示）
③地域資源を活用したシラス軽量被覆ブロックの開発と性能評価

【マッチング希望】

農業及び農業関連産業の経済活性と雇用に繋がる
東京大学と筑波大学のアシタバ研究成果を発表する

環 16 環境

(株)農学研センター

●お問合先：TEL. 029-272-4182　FAX. 029-272-4221
E-mail. info@nougakuken.com
●所在地：　〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛1087-1
●URL:　http://www.nougakuken.com/

【出展内容】　実物展示 あり

津波被災地をはじめ塩害地における回復処方として、東京大学の研究成果を公開し、この土壌を利用して栽培した資源植物の機能性について、筑波大学の研究成果を公開します。さらに研究成果に基づく実践的な利用方法を提案し、具体的な例を提示して、研究成果をより分かりやすく解説します。
両大学の研究成果は植物機能性による新産業の創出と、CO_2吸収能力の大きい植物による地球環境への貢献も併せて提案しており、農業地域及び企業の収益確保を全国へ世界へ発信します。

【マッチング希望】

電子レンジ方式でさまざまなバイオマス（果樹皮、ハーブ他）
から有用成分を抽出します

環 17 環境

(公財)高知県産業振興センター

共同研究機関　高知県工業技術センター/兼松エンジニアリング(株)

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　13日(木) 13:35～14:00

●お問合先：TEL. 088-845-7110　FAX. 088-846-2556
E-mail. gaisyou@joho-kochi.or.jp
●所在地：　〒781-5101 高知県高知市布師田3992-2 中小企業会館2階
●URL:　http://www.joho-kochi.or.jp/

【出展内容】

高知県工業技術センターと兼松エンジニアリング（株）は、共同でバッチ式のマイクロ波精油抽出装置を開発してきました。この装置は、食品や化粧品などの香り付けに利用され、高値で取引されている精油の抽出や、液体の濃縮などに使用可能で、高知県内外の農協や食品加工会社などに導入されています。このたび、本装置の連続方式の研究開発を行い、1日当りの処理量が実機の10分の1に相当する100kg/日の試作機を製作して、試験運転を行った結果を報告します。

【マッチング希望】

「ものづくり・人づくり・地域貢献」
産業界等との連携による技術支援の取組をアピールします。

地 01 地域

(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　14日(金) 13:35～14:00

●お問合先：TEL. 043-213-7285　FAX. 043-213-7378
E-mail. yokoda@jeed.or.jp
●所在地：〒261-8558 千葉県千葉市美浜区若葉3丁目1番2号
高度職業能力開発促進センター内
●URL: http://www.jeed.or.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

シーズ①：小規模農家でも導入できる農作物の自動選別装置や山菜加工業者の生産性向上の為に改良した加工機等の紹介（7校）
シーズ②：竹林の整備に関する機械や再生可能エネルギーを用いた自立型の農業補助機械等の紹介（2校）
シーズ③：人体並びに環境に負荷を掛けない鳥獣被害対策装置等の紹介（1校）

【マッチング希望】

国立大学法人 東京海洋大学の最新の研究成果と
地域連携の取り組みについて紹介します。

地 02 地域

(国)東京海洋大学

●お問合先：TEL. 03-5463-0859　FAX. 03-5463-0894
●所在地：〒108-8477 東京都港区港南4-5-7　東京海洋大学 7号館2F
産学・地域連携推進機構
●URL: http://olcr.kaiyodai.ac.jp/

【出展内容】

国立大学法人 東京海洋大学は、海洋・海事・水産分野の教育・研究を担う海洋系総合大学です。特徴ある研究成果や、それに基づく地域連携活動などを展示ブースでご紹介いたします。
技術相談を受け付けますのでぜひお立ち寄りください。

【マッチング希望】

伊賀市、大山田農林業公社とともに連携した
「伊賀市菜の花プロジェクト」の成果を紹介します。

地 03 地域

(国)三重大学 社会連携研究センター 伊賀研究拠点/伊賀市菜の花プロジェクト推進協議会

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　12日(水) 14:10～14:35

●お問合先：TEL. 0595-41-1071　FAX. 0595-41-1062
E-mail. iga-kyoten@crc.mie-u.ac.jp
●所在地：〒518-0131 三重県伊賀市ゆめが丘一丁目3番地の3
産学官連携地域産業創造センター「ゆめテクノ伊賀」内
●URL: http://www.iga.mie-u.ac.jp/index.html

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

平成19年3月以来、伊賀市バイオマスタウン構想に基づき、ナタネの栽培、ナタネ油の搾油、廃食油の回収とBDFの製造・利用に、伊賀市、社団法人大山田農林業公社等とともに取り組んできました。ナタネ栽培面積は平成19年度10.2haから平成25年度57.3haに拡大、平成24年度廃食油回収量、BDF製造量はともに11klとなるなどの成果を挙げています。今回、焙煎しないエクストラバージン菜種油、塩析剤によるBDF洗浄排水の処理法などの「伊賀市菜の花プロジェクト」の成果を紹介します。

【マッチング希望】

「七の花」（なのはな）エクストラバージン菜種油については、こだわりを持った食材に興味のある方、独自性・希少性を重視する料理店のオーナーやシェフ・料理人の方々との打ち合わせを希望します。

シカはライオン臭が苦手?／
クッキングトマトと夏イチゴ栽培による三陸の園芸振興

地 04 地域

(国)岩手大学

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　13日(木) 15:45～16:10

●お問合先：TEL. 019-621-6231　FAX. 019-621-6107
E-mail. atiren@iwate-u.ac.jp
●所在地：〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-8
●URL: http://www.iwate-u.ac.jp

【出展内容】　実物展示 あり

①ライオン排泄物由来動物忌避剤（特にシカ用誘導剤）に関するパネルと忌避剤の展示を行う。本忌避剤が列車とシカとの衝突を防止することは、JR東日本盛岡支社釜石線に散布してから5ヶ月効果があることで示唆されている。
②三陸での園芸振興に向けて栽培が進められているクッキングトマトの周年供給体系構築の手段として検討している減圧マイクロ波を用いたドライ製法について、パネルとドライトマトの展示を行う。
③三陸における夏イチゴ栽培普及のためのもみ殻培地高設栽培装置について、パネル展示を行う。

【マッチング希望】

①シカ用の忌避剤を製品化するにあたり、使用を検討していただける方、また、化学合成やシカを使った実験などの共同研究相手を探しています。②③岩手大学三陸復興推進機構園芸振興班は、東日本大震災で被災した地域の農業振興をお手伝いするために、「地域に根ざした新しい園芸作物のブランド化」、「地域の気候にあった園芸作物栽培法の確立」を目的として活動しています。

試食も数多くご用意します。
皆様ブースでお待ちしております。

地 05 地域

(国)弘前大学　地域共同研究センター

●お問合先：TEL. 0172-39-3991　FAX. 0172-36-2105
E-mail. cjr@cc.hirosaki-u.ac.jp
●所在地：〒036-8561 青森県弘前市文京町3番地
●URL: http://www.cjr.hirosaki-u.ac.jp/

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

1・弘前大学育成品種　赤い果肉リンゴの紹介（パネル展示　加工品展示　試食　アンケート）
2・飼料米及びリンゴ果汁搾り粕を活用した肥育豚の生産技術紹介（パネル展示　試食　アンケート）
3・黒ゴボウに関する機能性紹介（パネル展示　商品展示　試食　アンケート）
4・弘前大学　採取　白神酵母を用いた商品展開（パネル展示　商品展示　試食　アンケート）
5・接ぎ木技術に関する応用研究の紹介（パネル展示　模型展示　試食）

【マッチング希望】

福島県での近畿大学の取り組みについて

地 06 地域

(学)近畿大学

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　13日(木) 14:45～15:35

●お問合先：TEL. 06-4307-3099　FAX. 06-6721-2356
E-mail. klc@kindai.ac.jp
●所在地：〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1
●URL:　http://www.kindai.ac.jp

【出展内容】　実物展示 あり　試飲･試食 あり

放射能汚染という大きな課題を抱えた地域の復興には、もともとその地域にある産業や地域資源の調査、それを発展させた地域自体の魅力を出す包括的プログラムが必要である。近畿大学では、文系・理系を横断する支援事業組織を立ち上げ、福島県川俣町にて、地域にある食・農資源の調査、新しい農法の提案と実証試験、その生産物を組み合わせた新たな商品の開発に取り組んできた。本出展ではその取り組みの現状と成果を展示し、他の地域への波及効果を期待している。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資 金

文科省COI STREAM採択
「食と農のスロー&ローカル･イノベーション」をご紹介します。

地 07 地域

(学)立命館大学

●お問合先：TEL. 077-561-2802　FAX. 077-561-2811
E-mail. liaisonb@st.ritsumei.ac.jp
●所在地：〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1 テクノコンプレクス1階
●URL:　http://www.ritsumei.ac.jp/research/

【出展内容】

立命館大学は、文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）拠点」のトライアル拠点として採択されている「食と農のスロー&ローカル・イノベーション地域拠点モデルの構築拠点」を展開しています。アグリビジネス創出フェアでは、その活動内容をご紹介するとともに、研究と地域連携の成果として生み出された商品サンプルも展示します。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資 金

これまで活動の紹介と収集した未利用資源情報と
事業化事例を紹介します。

地 08 地域

NPO法人未利用資源事業化研究会

共同研究機関　京都工芸繊維大学/京都大学/京都府立大学

●お問合先：TEL. 075-252-5501　FAX. 075-252-5501
E-mail. info@miriyoshigen.jp
●所在地：〒604-8222 京都市中京区観音堂町466 ジュネス烏丸1F
●URL:　http://miriyoshigen.jp

【出展内容】　実物展示 あり　試飲･試食 あり

未利用資源からの地域おこし、事業化活動紹介
・各地の未利用資源食材を特殊加工した出汁
・間伐材を利用した棺
・色々な未利用資源を利用した加工食品
・農商工連携による事業化事例紹介

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資 金

産学公民連携による被災過疎地の持続的発展を促進する
イノベーションモデル創出事業とその成果

地 09 地域

(国)東京大学　大槌イノベーション協創事業　事業本部

●お問合先：TEL. 03-5841-8228　FAX.
E-mail. mag00452@mitsuiwa.co.jp
●所在地：〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部 1号館27号室
●URL:　http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/otsuchi-i/

【出展内容】　試飲･試食 あり

①定置網に設置可能な遠隔起動可能な魚影監視システム
②三陸の秋鮭を使った新しい特産品開発（生食用冷凍柵、冷燻製商品）
③産消（産地と消費地）連携を目指したモバイル対応水産流通システム
④ICT技術を活用した森林資源のトータルマネジメントシステム
⑤機能化森林GISを活用した森林資源管理システムの開発
⑥トラックマウントバンドラーによる未利用林地残材収集の新システム開発
⑦精密データ収集木材プロセッサによるサプライチェーン構築

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資 金

1tの牛を収容、安全に輸送できる頑強性と
ウイルスが漏れない密閉性を併せ持つ防疫バッグを展示

地 10 地域

(学)京都産業大学

●お問合先：TEL. 075-705-1778　FAX. 075-705-1966
E-mail. liaison-office@star.kyoto-su.ac.jp
●所在地：〒603-8555 京都府京都市北区上賀茂本山
●URL:　http://www.kyoto-su.ac.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

輸送用防疫バッグの展示。本学は京都府・太陽工業株式会社との産官学連携の研究成果により、口蹄疫（こうていえき）など家畜伝染病のまん延防止のための輸送用の防疫バッグを共同開発しました。この防疫バッグは家畜伝染病に感染し、殺処分された牛などの家畜からウイルスを封じ込め、安全に輸送するためのバッグです。ガスは排出するがウイルスは排出しない特殊な構造になっており、当日は実物展示を行います。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資 金

沖縄発の6次産業モデルと
亜熱帯特有資源を活用した研究成果

地 11 地域

(国)琉球大学

●お問合先：TEL. 098-895-8031　FAX. 098-895-8185
E-mail. sangaku@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
●所在地：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1番地
●URL:　http://www.u-ryukyu.ac.jp/

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

(1)沖縄で古くから活用されてきたアキノワスレグサの利用形態の検検討法
　～アキノワスレグサ花の豚肉巻き・もずくようかんおよびドリンク～
(2)南西諸島の固有植物であるアマミシマアザミの機能性を活用した農業振興
(3)山羊関節炎・脳脊髄炎（CAE）の数理疫学モデルの構築と新たなCAEウィルス検出系の開発
(4)外来植物を在来植物で置き換えることによる環境改善

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資 金

高知大学から発信する食品･生産･環境の新時代
～地（知）の拠点としての取り組み～

地 12 地域

（国）高知大学

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　14日(金) 15:20～15:45

●お問合先： TEL. 088-844-8555　FAX. 088-844-8556
E-mail. kt04@kochi-u.ac.jp
●所在地： 〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2-17-47 高知大学地域連携推進センター
●URL: http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/

【出展内容】　実物展示 あり

①親水性樹脂を用いた【養液栽培用培地】にトマトやニンジンなどを植栽して展示、これまでの研究成果について紹介します!
②中小規模園芸ハウスを対象とした【複合エコ環境制御技術】の開発状況と現地実証試験について紹介します!
③中山間の棚田跡地を利用して構築した【新たな園芸ハウス】の構造と特性を紹介します!
④黒酵母の【水溶性βグルカン】が植物の生育に与える影響や乳酸菌の保護効果、ドッグフードの開発について紹介します!
⑤硝酸態窒素溶脱の抑制と資源回収に寄与する【クリーニングクロップ技術】を紹介します!

【マッチング希望】
共同研究　製品化　技術移転　資金

農作物を医療の現場で活用するご提案を致します。

地 13 地域

（学）昭和大学医学部顕微解剖学教室

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　12日(水) 15:55～16:20

●お問合先： TEL. 03-3784-8103　FAX. 03-3784-6815
E-mail. koujishioda@gmail.com
●所在地： 〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

研究内容
花や樹木といった天然の植物から芳香成分を抽出し、機能評価する研究を行っている。新しい技術である「低温真空抽出法」を用いて、これまで抽出が困難であった花や果物から芳香成分が容易に抽出され、しかもそれらには抗酸化能や抗炎症作用などの機能性があることがこれまでの研究で明らかになっている。単なる香料ではなく、アンチエイジングや認知症予防につながる機能性の高い香料を製造することによって、既存品との差別化を図りかつ国内外市場に展開していくことが可能となる。
ガーデンセラピーのご提案。

【マッチング希望】
共同研究　製品化　技術移転　資金

有用微生物の研究と活用方法

地 14 地域

（株）LIKE TODO JAPAN製薬

●お問合先： TEL. 080-5714-6217（増田）　FAX. 03-6779-5180
E-mail. info@ltdj.biz
●所在地： 〒213-0012 神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1
かながわサイエンスパーク イノベーションセンタービル西棟4階 NEO-2
●URL: http://www.ltdj.biz/

【出展内容】

（野生鹿の胃部の有用微生物探査）
鹿は胃部にいる微生物の力を借りて繊維質をエネルギーに変えています。ほとんど解明されていない、野生鹿の胃部にいる未知の微生物の探索を行っています。

（微生物を活用した農産物の機能性向上の取り組み）
地域農産物（温州みかん、トマト、玄米・米等）の価値（機能性）を微生物の力で格段に向上させる取り組みを行っています。

【マッチング希望】
共同研究　製品化　技術移転　資金

①野生鹿の胃部にいる未知の微生物探索を行う共同研究先
②農産物の価値（機能性）向上を行い製品化を目指す事業協同組合等

触れるとわかる、自然のやさしさ。
天然100%で健やかさを引き出す

地 15 地域

（有）へちま産業

●お問合先： TEL. 0766-52-5454　FAX. 0766-52-5475
E-mail. itouri@hechimaya.co.jp
●所在地： 〒939-0273 富山県射水市中野633
●URL: http://www.hechimaya.co.jp

【出展内容】　実物展示 あり　試飲･試食 あり

弊社は約30年前よりへちま水やタワシを中心に製品開発を行ってきましたが、これまで活用されてこなかったへちま葉・茎・根・種にも有効成分等が多量に含まれていることに着目し、新たな製品開発を行いたいと考えています。
・へちま葉・茎・・・へちま特有のサポニンが含まれる。乾燥させた葉を粉末状にすることで、化粧品の原料としても利用しやすい。
・へちま根・・・・・へちま葉と同様に乾燥し粉末状にすることにより、食品や漢方薬原料として活用が期待できる。

【マッチング希望】
共同研究　製品化　技術移転　資金

オリーブは平和のシンボルです。
コミュニケーションと健康でみんなに笑顔を!

地 16 地域

（一社）日本オリーブ普及協会

●お問合先： TEL. 090-6177-5695　FAX.
E-mail. kaneko@j-olive-pa.jp
●所在地： 〒164-0001 東京都中野区中野3-40-23
タイケン学園中野アートコート
●URL: http://j-olive-pa.jp

【出展内容】　実物展示 あり　試飲･試食 あり

今問題になっている一時生産者離れや、耕作放棄地の活用などをテーマに、オリーブと言うキーワードを使って普及活動しています。オリーブの葉をパウダー化した商材（商品）を開発。飲料、デザート、サプリメントなど、あらゆる商品に応用が可能です。また、協力会社さまと酵素を使った醗酵食品の開発などを行います。近年、オリーブの葉の効用が研究され、健康志向の人々に注目されています。

【マッチング希望】
共同研究　製品化　技術移転　資金

無農薬オリーブの葉をパウダーにし、商品化を進めました。色々な食品の材料に使用出来ます。是非ブースにて実物をご覧ください。

地域の産業界･自治体･各大学との連携による
地域型産業創出へ向けた基盤技術の研究

地 18 地域

（国）北見工業大学

研究・技術プレゼンテーション	●A会場　12日(水) 15:20～15:45

●お問合先： TEL. 0157-26-4161　FAX. 0157-26-4171
E-mail. center@crc.kitami-it.ac.jp
●所在地： 〒090-8507 北海道北見市公園町165番地
●URL: http://www.kitami-it.ac.jp/

【出展内容】

北見薄荷やハマナスなど北海道特産のハーブ類の植生研究を通じ、その良さを活かす製品の研究、それらを安全・安心そして安定的に生産するためのプロセスやそこへの再生可能エネルギーの活用を研究している。同様に地域の特産物であるタマネギや大豆からのキノコ発酵による新規機能性成分生産の可能性を探る研究を行っている。さらには、地域資源でもある廃トンネルを、それらプロセスにおける貯蔵庫として有効活用する研究も行っている。それらの研究について紹介する。

【マッチング希望】
共同研究　製品化　技術移転　資金

地域に農産品を用いた加工品作りのサポートとPR

地 19
地域

旭川食品産業支援センター

●お問合先：TEL. 0166-68-2824　FAX. 0166-68-2826
E-mail. fosup@arc-net.or.jp
●所在地：　〒078-8801 北海道旭川市緑が丘東1条3丁目16　旭川リサーチセンター内
●URL:　http://www.arc-net.or.jp/arc-net/fosup/index.html

【出展内容】　実物展示 あり　試飲・試食 あり

地場産業を使用したご当地グルメの開発支援について（A1展示パネル×3、実物展示）、有機ニンニクを使用した黒にんにくの開発について（A1展示パネル、試食）、旭川食品産業支援センターについての説明（A1展示パネル×2、パンフレット）。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

○地域産学連携活動の総合的支援○人材育成・産学連携業務の専門職化○産学連携学の確立

人 01
人

NPO法人産学連携学会

●お問合先：TEL. 050-5539-5604　FAX. 042-490-5727
E-mail. j-sangaku@j-sip.org
●所在地：　〒182-0026 東京都調布市小島町1丁目11番6号 エンケ102
（株）キャンバスクリエイト調布ブランチ内
●URL:　http://j-sip.org/

【出展内容】　実物展示 あり

産学連携学会は、産学連携に携わるすべての方々を対象とする学会です。学会の目的や活動をパネルで展示するとともに、学会が発行している論文集「産学連携学」、年次大会の予稿集、産学連携の本格的な体系書「産学連携入門」を手に取ってご覧いただけます。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

全国のコーディネーターが、
農林水産・食品分野の産学連携を支援!

人 02
人

地域産学連携コンソーシアム

●お問合先：TEL. 03-3586-8644　FAX. 03-3586-8277
E-mail. renkei@jataff.jp
●所在地：　〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
（公社）農林水産・食品産業技術振興協会 産学連携事業部
●URL:　http://agri-renkei.jp/

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり　試飲・試食 あり

全国の7つの産学連携団体によりコンソーシアムを形成し、「事業化を加速する産学連携支援事業」を実施しています。
農林水産・食品分野の高度な専門知識を有するコーディネーターを全国に配置し、シーズ、ニーズの収集、マッチング支援、研究計画作成支援、外部資金の取得支援、事業化支援等を精力的に行っています。
今回のフェアでは、全国各地におけるコーディネート活動の事例、事業化支援の事例、支援先の技術シーズ、研究成果についてパネル・現物等で紹介します。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

農林水産・食品分野の産学官連携、
研究開発支援に関することは、何でもご相談ください。

人 03
人

農林水産・食品産業技術振興協会

●お問合先：TEL. 03-3586-8644　FAX. 03-3586-8277
E-mail. info@jataff.jp
●所在地：　〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13　三会堂ビル7F 三会堂ビル7F
●URL:　http://www.jataff.jp/

【出展内容】

当協会の農林水産業、食品産業に関する技術開発や研究開発などの成果や、今後の活動内容等をパネルで紹介いたします。
農林水産省の実施する6次産業化促進技術対策事業や競争的研究資金委託業務等をサポートしております。本会場の地域産学連携コンソーシアムのブースにてこれらの事業の展示を行っていますのでご高覧ください。その他、民間部門農林水産研究開発功労者表彰、農業技術功労者表彰などの紹介も行います。また、現在JATAFF研究所で行っている最新の研究成果の展示をいたします。

【マッチング希望】

共同研究　製品化　技術移転　資金

民間企業等に研究開発を委託する制度を紹介し、得られた成果を展示します。研究相談も行います。

人04

(独)農研機構　生物系特定産業技術研究支援センター

●お問合先：TEL. 048-669-9170　FAX. 048-666-9266
●所在地：　〒331-8537 埼玉県さいたま市北区日進町1-40-2　基礎技術研究館3階
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/brain/shien/index.html

【出展内容】　実物展示 あり

・生研センター（研究資金業務）における事業の概要等のパネル展示
・民間実用化研究促進事業の研究内容、成果のパネル展示
・スナゴケ（直径9cmのシャーレ）2個、スナゴケのマット1個
・民間実用化研究促進事業の研究内容、成果等のパンフレット
・抗ストレス蛋白チオレドキシンを含有した試作飲料
・おからを原料とした食品素材

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

ATPふき取り検査を中心とした簡易・迅速検査のご紹介

人05

ATP・迅速検査研究会

●お問合先：TEL. 03-3267-4595　FAX. 03-3268-1106
E-mail. http://www.keiran-niku.co.jp/atp
●所在地：　〒162-0801 東京都新宿区山吹町332 オフィス87 5階
●URL:　http://www.keiran-niku.co.jp/atp

【出展内容】　実物展示 あり　実演 あり

食品製造工場や医療現場の衛生状態のチェックや、衛生教育のツールとしても大きな効果を発揮している「ATPふき取り検査法」を、これから6次産業化などで販売店舗や加工場を運営することを検討されている方々に体験していただけます。その他、各種迅速検査の実物展示および操作実演（微生物検査、タンパク残留検査など）、ATP法以外の簡易・迅速検査もご紹介いたします。

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

ATPふき取り検査のさまざまな活用法を模索しています。環境検査にご興味のある方は、ぜひ当ブースでATP検査を体験してみてください。

全国の産業支援機関、大学、金融機関、産学官連携従事者のネットワークが可能です。

人06

全国イノベーション推進機関ネットワーク

●お問合先：TEL. 03-3518-8973　FAX. 03-3518-8970
E-mail. innova@jilc.or.jp
●所在地：　〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8-11 東京YMCA会館 8階
●URL:　http://www.innovation-net.jp

【出展内容】

当ネットワークのこれまでの活動概要のほか、現在募集中のイノベーションネットアワード2015について、ポスターやパンフレットをご覧にいれながら担当者が詳しくご案内いたします。

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

文部科学省、農林水産省、経済産業省の支援を受け、国の独法等が協力のもと、全国の産業支援機関、大学等、金融機関などからなるネットワークを作り、地域発のイノベーションを起こす活動をしています。ぜひお立ち寄りください。

微生物に関することなら何でもご相談下さい

人09

(独)製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター

●お問合先：TEL. 0438-20-5760　FAX. 0438-20-5766
E-mail. fukawa-hitoe@nite.go.jp
●所在地：　〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足2-5-8
●URL:　http://www.nbrc.nite.go.jp

【出展内容】

NBRCでは産業有用な微生物の収集・保存・提供の業務を行っています。食品や農産物を微生物を利用して商品化し特産品として販売している県もあります。特に機能性食品をはじめとする食品開発に利用可能な微生物の紹介や、地域の持つ微生物資源を食品開発に結びつけたい地元企業との連携による微生物探索等共同研究をすることで地域産業活性化の一翼を担うことができると考えています。また8/1に開始しました新しい「生物遺伝資源バックアップサービス」を利用することで貴重な微生物の損失から免れると考えています。

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

弁理士による無料特許相談を行います。

人10

日本弁理士会

●お問合先：TEL. 03-3519-2703　FAX. 03-3581-1205
E-mail. k.suzuki-jpaa@nifty.com
●所在地：　〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-6 東京倶楽部ビル14階
●URL:　http://www.jpaa.or.jp/

【出展内容】

1.弁理士による知的財産に関する相談
2.パネル及びパンフレットによる弁理士業務の紹介

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

弁理士による無料特許相談を行います。

1-DAY出展

マッチング目的欄ピクト解説

濃いグレーで表示されているものが、希望している内容です。

- 共同研究：保有シーズの共同研究相手をみつけるため
- 製品化：保有シーズの製品化のため
- 技術移転：保有シーズの技術の移転先をみつけるため
- 資金：資金提供元をみつけるため

基礎研究から食の生産に実用化される技術開発を行うトランスレーション研究拠点

12A 1-day

（国）広島大学大学院生物圏科学研究科

●お問合先：TEL. 082-424-4376　FAX. 082-424-2459
E-mail. sei-bucho-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
●所在地：〒739-8528 広島県東広島市鏡山1-4-4
●URL: http://www.hiroshima-u.ac.jp/gsbs/

【出展内容】 実物展示 あり

ブタの革新的繁殖技術（長期間15℃で冷蔵保存するブタ精液希釈液、ブタ凍結精液作製技術、DNA情報を用いた凍結精液ライブラリー）
内分泌環境を制御する新しい家畜の飼養管理法
食品素材の抗炎症作用を非侵襲イメージングで評価する動物モデル

【マッチング希望】

共同研究 / 技術移転

地域に、高効率でシンプル、低コストの小水力発電装置使用により自然エネルギーを得る普及活動。

12B 1-day

（有）ヤマ吉

●お問合先：TEL. 0439-65-3941　FAX. 0439-65-3284
E-mail. info@furusato-noen.com
●所在地：〒293-0041 千葉県富津市上1346
●URL: http://www.furusato-noen.com/

【出展内容】 実演 あり

小水力発電試作装置（モーメントパワー発電装置）
特徴：従来にない驚くべき高効率の発電装置。シンプル、低コストで製造できる。
大きなダムを作る必要が無い。小さな装置から大きな装置も製造できる。
水をパイプライン給水する事で設置場所が広範囲になる。24時間安定した発電が可能。
構造：空気中を落下する個の物体のエネルギーを連結させ合計重量を回転体の力点に掛けエネルギーを取り出す。

300w以上の発電をすると限界集落や山間地、中山間地、農業、林業の重要なエネルギー源となる。

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

12日、1DAY出展です。現在のダム式で高効率水力発電のエネルギーの取り方とモーメントパワー発電装置の違いを見る事や体感できる装置を実演します。落差50cm、毎秒60ccの水の供給で、体験出来る様に制作した装置です。50cm落下するのに3秒掛かります。60g×3秒で180gの重量を力点にかけてエネルギーを取り出せます。水圧は、パスカルの原理で深さ50cmであれば1cm^{2}当たり50gの圧力です。

プラズマ殺菌技術を駆使した高付加価値農作物を栽培するプラズマ農法「プラズマアグリ®」

13A 1-day

（国）東北大学

研究・技術プレゼンテーション	●C会場　13日(木) 15:20～15:45

●お問合先：TEL. 022-217-6043　FAX. 022-217-6047
E-mail. liaison@rpip.tohoku.ac.jp
●所在地：〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1 戦略本部棟
●URL: http://www.tohoku.ac.jp/japanese/

【出展内容】

震災により甚大な被害を受けた宮城県の農業の復興を推進するため、プラズマによる殺菌技術を駆使した高付加価値の農作物を栽培するプラズマ農法「プラズマアグリ®」の取り組みについて紹介する。

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

保有シーズである空気プラズマ噴霧殺菌技術を,ビニルハウスに実装するための大面積プラズマ噴霧装置に活用するため、現在企業を含めたグループで基礎研究と実証実験を平行して行っている。このプラズマ噴霧装置を、果樹や野菜の育成中に発生する病原菌を殺菌するシステム、および農業、環境に関わる種々の殺菌・消毒システムとして製品化できる企業とのマッチングを希望する。

繁殖の役目を終えた黒毛和種経産牛の放牧仕上げと耕作放棄地の維持管理のコラボレーション

13B 1-day

「熟ビーフ」連絡会

共同研究機関：三久須放牧組合/野城放牧組合/島根県中山間地域研究センター/島根県立農林大学校/農研機構近畿中国四国農業研究センター

●お問合先：TEL. 0854-76-2025　FAX. 0854-76-3758
E-mail. juku-beef@ml.affrc.go.jp
●所在地：〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207
島根県中山間地域研究センター内　担当：帯刀一美

【出展内容】

・「放牧仕上げ熟ビーフ」耕作放棄地を活用して高齢者にも優しい省力・低コスト生産の取組紹介（ポスター）
・「熟ビーフ」脂肪分が適度で、肉の味が濃厚。洋食レストランなどでの活用事例紹介（ポスター）
・部位別に応じた「地産地消」、「地産外消」と「加工品開発」加工品の一例として「ビーフジャーキー」を見本展示

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

「放牧仕上げ熟ビーフ」は、繁殖供用を終えた黒毛和種経産牛を耕作放棄地で5か月以上放牧だけで仕上げて生産した牛肉です。国産の良質赤身牛肉を低価格で供給できることから、地産地消にとどまらず洋食レストランなどでの活用、加工品開発まで幅広い取組がなされています。本放牧仕上げが中山間地域に定着することで、耕作放棄地の活用にとどまらず、高齢化の進む集落コミュニティの活性化などにも貢献できると期待されます。

DNA鑑定学会はDNAを活用した鑑定技術の支援や普及を行っております。

13C 1-day

NPO法人DNA鑑定学会

●お問合先：TEL. 045-441-9344　FAX. 045-441-9344
E-mail. gakkai-jimu2@jsm.co.jp
●所在地：〒221-0056 神奈川県横浜市神奈川区金港町532 ベイフロント横浜
●URL: http://www.dna-kanteigakkai.or.jp/

【出展内容】

現在発生している様々な社会問題を解決するための一つの手段として、新テクノロジーのDNA鑑定があります。しかし、技術的な歴史が浅いため、その手法、妥当性の検証、さらに社会で利用するためには行政の社会整備など多くの課題があります。当学会では、これらの課題を解決するために、規則や基準などを設けて課題解決に取り組んでいきたいと活動を行っております。

【マッチング希望】

共同研究 / 製品化 / 技術移転 / 資金

主催者展示

農林水産省経営局の
農業界と経済界との連携事業を紹介します。

農林水産省

「農業界と経済界の連携による先端モデル農業確立実証事業」

●お問合先：農林水産省経営局経営政策課経営広報グループ
TEL. 03-6744-0577（直通） FAX. 03-3502-6007
●所在地：〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
●URL: http://www.maff.go.jp/j/keiei/keiei/sentan_model/sentan_model.html

●お問合先：先端連携推進機構（事業代表者：新日本有限責任監査法人）
TEL. 03-3503-1680 FAX. 03-3503-1020
●所在地：〒100-6033 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
●URL: http://sentannogyo-kiko.jp/

【出展内容】

「農業界と経済界の連携による先端モデル農業確立実証事業」に関する事業内容と平成26年度事業において採択された連携プロジェクトに関する説明を実施します。この事業では、意欲ある農業法人と先端技術を有する経済界の企業等が連携して行う、低コスト生産技術体系の確立やICTを活用した効率的生産体制の構築、低コストの農業機械開発等の先端モデル農業の確立に向けた取組を支援しています。連携プロジェクトの内容は、経済界の技術・ノウハウを農業界に導入しようとするものであって、これまで農業界では実用化されていないものを対象としています。3年程度で実用化を試みようとするものとし、その成果を地域に広く普及することを要件としています。

【マッチング希望】

農林水産省で進めている、
次世代施設園芸の拠点整備を紹介します。

農林水産省

次世代施設園芸の全国展開～攻めの農業の旗艦～

●お問合先：農林水産省生産局花き産業・施設園芸振興室
TEL. 03-3593-6496 FAX. 03-3501-3081
●所在地：〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
●URL: http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/NextGenerationHorticulture/index.html

【出展内容】

オランダの施設園芸を参考に、木質バイオマス等の脱化石エネルギーに着目し、ICTを活用した高度な環境制御を行い大規模に集積した園芸施設において、生産から出荷まで一貫して行うことを特徴とした「次世代施設園芸」の施策紹介及び全国9箇所でスタートしたモデル地区の取組状況についてパネル展示で紹介します。

【マッチング希望】

新品種開発における海外植物遺伝資源の利用等について
紹介します。

農林水産省

海外植物遺伝資源の利用～「強み」のある新品種開発のために～

●お問合先：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課
TEL. 03-3502-7436 FAX. 03-3507-8794
●所在地：〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
●URL: http://www.s.affrc.go.jp/docs/pgrfa/gr.htm

【出展内容】

地球温暖化の進行などに対応できる新品種の開発には、海外から新たな植物遺伝資源を導入し、育種素材として利用する必要があります。このため、現在、農林水産省では、海外の多様な育種素材を円滑に利用できるよう、2国間共同研究による植物遺伝資源の遺伝的な特性の解明を推進しています。本ブースではこの取組の具体的な内容や、食料・農業植物遺伝資源条約（ITPGR）に関する情報等を展示します。

【マッチング希望】

農林水産省

世界に貢献する我が国の国際農業研究～CGIARを通じて～

●お問合先：農林水産省農林水産技術会議事務局国際研究課
TEL. 03-3502-7467 FAX. 03-5511-8788
●所在地：〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
●URL: http://www.s.affrc.go.jp/docs/research_international/iris-aff/top.htm

【出展内容】

国際農業研究協議グループ（CGIAR）との連携を通じて、世界の食料安全保障や地球規模課題に貢献する我が国の国際農業研究の取組について紹介します。

【マッチング希望】

国際農業研究協議グループ（CGIAR）では、日本企業等との連携を期待しています。

農林水産省

民間部門農林水産研究開発功績者表彰及び若手農林水産研究者表彰

●お問合先：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課育成班
TEL. 03-3501-9886　FAX. 03-3507-8794
●所在地：　〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
●URL:　http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/141029_1.htm（民間表彰）
http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/141029.htm（若手表彰）

【出展内容】

農林水産省は、農林水産業その他関連産業に関する研究開発に関して優れた功績をあげた民間企業、農林漁業者及び若手研究者に対して表彰を実施しています。本ブースでは、今年度の受賞者で、特に顕著な功績をあげた事例をご紹介させていただきます。

【マッチング希望】

マーケットイン型の品種・技術開発による「強み」のある農畜産物づくりの取組について御紹介します。

農林水産省

「強み」のある農畜産物づくり

セミナー２ 「強み」のある農畜産物づくりセミナー	●メインステージ　11月13日(木) 10:20～12:20

●お問合先：農林水産省大臣官房政策課技術調整室
TEL. 03-3502-5524　FAX. 03-6744-1526
●所在地：　〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
●URL:　http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/tuyomi/index.html

【出展内容】

農業の成長産業化のためには、我が国の「強み」である優れた品種や高度な生産技術を用いて消費者や実需者のニーズに的確に対応するとともに、戦略的に知的財産等を活用し、品質やブランド等の「強み」のある農畜産物を日本各地に生み出すことが必要です。このため、農林水産省では品目別の推進の基本方向等を示した「新品種・新技術の開発・保護・普及の方針」を平成25年12月に公表し、現在、この方針に基づき日本各地で「強み」のある農畜産物づくりの取組を進めているところです。
13日（木）10時20分からメインステージにおいてセミナーを開催し、実需者ニーズに対応した産地づくりについて、成功につながる秘けつなどを探るとともに取組の加速化に向けた課題等について意見交換を行います。また、当展示ブースでは、代表的な取組事例等についてパネル展示で御紹介します。

【マッチング希望】

産学の英知を結集して、革新的な技術体系を確立するための実証研究を紹介します。

主催者コーナー①

攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業

セミナー3 革新的技術緊急展開事業セミナー	●セミナールームB　11月12日（水）13:00～15:00 ●セミナールームE　11月13日（木）14:45～17:00 ●セミナールームE　11月14日（金）14:10～15:40

●お問合先：（独）農研機構生物系特定産業技術研究支援センター新技術開発部基礎的研究課
TEL. 048-669-9190　FAX. 048-666-9267
●所在地：　〒331-8537 埼玉県さいたま市北区日進町1-40-2
●URL:　http://www.naro.affrc.go.jp/brain/

【出展内容】

民間・大学・都道府県公設試験場・独法などの有する先端技術について、研究コンソーシアムを組んで、実際の農業者等の経営の中で実証研究を実施しています。
本年4月に64の研究計画がスタートしており、水田輪作、畑輪作、園芸、畜産、林業、水産等、農林水産業の主要分野を網羅し、また、地理的にも北海道から沖縄までを広くカバーしています。
展示ブースでは、これらの研究の一部をピックアップし、パネルやビデオ等での紹介、模型や実物の展示等を行うとともに、開催期間中セミナールームにおいてセミナーを開催いたします。

【マッチング希望】

被災地の復興を加速させる農業・水産業分野の先端的な技術の実証研究を紹介します。

主催者コーナー②

食料生産地域再生のための先端技術展開事業

復興支援	●セミナールームD　11月13日（木）13:00～14:55

●お問合先：農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課
TEL. 03-6744-7043　FAX. 03-3593-2209
●所在地：　〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
●URL:　http://www.s.affrc.go.jp/docs/sentan_gijyutu.htm

【出展内容】

復興庁及び農林水産省では、東日本大震災の被災地を復興し、「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において、地元農業者や漁業者等の協力を得ながら、被災地で実証研究を行っています。展示ブースでは、実証研究の内容と研究成果を展示、試食品の提供、映像やパネルの展示で紹介するとともに、11月13日（木）13:00～14:55 セミナールームDにおいて、セミナーを開催し、震災からの復興のための生産現場での取組と課題、現地で取り組んでいる研究内容と進捗状況を紹介いたします。また、11月14日（金）には、展示ブースにおいて、被災地復興支援のために農産物・水産物の販売を行います。

【マッチング希望】

出展者一覧〈50音順〉

小間No.	出展者名	ページ
	あ行	
食04	アイシン共聴開発(株)・(国)東京海洋大学	P.34
食08	(公)秋田県立大学	P.35
食29	アグリビジネスフォーラム【首都圏農学系私立五大学】	P.38
食17	アグリビジネスフォーラム【玉川大学】	P.36
食19	アグリビジネスフォーラム【東海大学】	P.36
食30	アグリビジネスフォーラム【東京農業大学】	P.38
食31	アグリビジネスフォーラム【日本大学】	P.38
食18	アグリビジネスフォーラム【明治大学】	P.36
地19	旭川食品産業支援センター	P.47
食20	(学)麻布大学　研究推進・支援本部	P.37
食38	(株)味きっこう	P.40
生16	(一社)ALFAE	P.26
食27	(株)イイノ研	P.38
環08	(公)石川県立大学	P.42
食05	(公)石川県立大学	P.34
食34	一丸ファルコス(株)/(国)宮崎大学/(学)崇城大学	P.39
環10	(地独)岩手県工業技術センター	P.42
地04	(国)岩手大学	P.44
生23	(国)宇都宮大学	P.27
食39	H・P未来産業創造研究会	P.40
人05	ATP・迅速検査研究会	P.48
生35	(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所	P.29
食16	(公)大阪府立大学(工学研究科/生物資源開発センター)	P.36
生10	(公)大阪府立大学　植物工場研究センター	P.25
食36	大森ヘルスケア(株)	P.39
食03	(国)岡山大学　革新的ウイルス対策技術事業化・普及プロジェクト	P.34
生42	(国)岡山大学農学部	P.30
食11	沖縄工業高等専門学校	P.35
環11	隠岐の島町商工会	P.42
生04	オリオン機械(株)	P.24
	か行	
食37	(国)香川大学	P.39
環15	(国)鹿児島大学　農学部	P.43
食15	(公財)かずさDNA研究所(生体物質解析センター)	P.36
生14	(公財)かずさDNA研究所(DNA解析センター)	P.26
生03	(独)家畜改良センター	P.24
生39	神奈川県	P.30
生33	(株)ルミナスジャパン	P.29
食25	含気調理食品(株)	P.37
環06	環境省　J-COF	P.42
環04	環境農業資材協議会	P.41
生20	(国)岐阜大学	P.27
生06	(国)九州大学　農学研究院	P.25
環13	(国)九州大学大学院　機械工学部門 スマート熱システムプロジェクト	P.43
地10	(学)京都産業大学	P.45
地06	(学)近畿大学	P.45
環14	NPO法人ぐんまテクノサポーターズ	P.43
食01	(株)ケーナインラボ	P.33
生38	NPO法人元氣農業開発機構	P.30
環17	(公財)高知県産業振興センター	P.43
生08	(公財)高知県産業振興センター/(公)高知工科大学	P.25
地12	(国)高知大学	P.46
地01	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構	P.44
食22	(独)国際農林水産業研究センター	P.37
地18	(国)北見工業大学	P.46
	さ行	
食23	埼玉大麦食品普及・食のモデル地域実行協議会	P.37
食24	(国)佐賀大学	P.37
人01	NPO法人産学連携学会	P.47
生30	静岡アグロスコープ協議会	P.29
食07	(公財)静岡県産業振興財団　フーズ・サイエンスセンター	P.34
生25	静岡県畜産技術研究所	P.28
生19	島根県産業技術センター/松江土建(株)	P.27
生18	島根県産業技術センター/(学)早稲田大学 産学官研究推進センター/大福工業(株)	P.27
食35	(国)島根大学農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター	P.39
13B	「熟ビーフ」連絡会	P.49
生27	(独)種苗管理センター	P.28
地13	(学)昭和大学医学部顕微解剖学教室	P.46
食13	NPO法人食事療法サポートセンター	P.35
食40	(株)食の科学舎	P.40
食09	(有)植物育種研究所(北海道大学ベンチャー)	P.35
主②	食料生産地域再生のための先端技術展開事業	P.51
環09	(国)信州大学　工学部 物質工学科 酒井研究室	P.42
生05	(国)信州大学農学部	P.24
環01	(独)森林総合研究所	P.41
食06	(独)水産総合研究センター	P.34
食14	(独)水産大学校	P.36
環03	須坂市スマートアグリソーラー研究会	P.41
人09	(独)製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター	P.48
生22	攻めのイチゴ生産実証コンソーシアム& 施設園芸省エネ協議会	P.27
主①	攻めの農林水産業の実現に向けた 革新的技術緊急展開事業	P.51
人06	全国イノベーション推進機関ネットワーク	P.48
生29	全国KOSEN ICT農業研究ネットワーク	P.28
	た行	
人02	地域産学連携コンソーシアム	P.47
生28	千葉県農林総合研究センター	P.28
生34	(国)千葉大学	P.29
13C	NPO法人DNA鑑定学会	P.49
生13	(株)同位体研究所	P.26
地02	(国)東京海洋大学	P.44
生26	(国)東京工業大学　田中・生駒研究室	P.28
地09	(国)東京大学　大槌イノベーション協創事業　事業本部	P.45
環07	(国)東京大学　国際情報農学研究室/水利環境工学研究室	P.42
生31	東京都農林総合研究センター	P.29
生02	(国)東京農工大学	P.24
13A	(国)東北大学	P.49
生12	栃木県	P.26
生17	(国)富山大学	P.26
	な行	
生07	長崎県農林技術開発センター	P.25
食12	(公)長崎県立大学	P.35
生21	(国)名古屋大学 ICT 活用農業　事業化・普及プロジェクト	P.27
生41	奈良県農業研究開発センター	P.30
食21	(国)新潟大学　地域連携フードサイエンスセンター	P.37
生09	(学)新潟薬科大学　産官学連携推進センター	P.25
地16	(一社)日本オリーブ普及協会	P.46
人10	日本弁理士会	P.48
環05	(一社)日本有機資源協会	P.41
環16	(株)農学研センター	P.43
環12	(独)農業環境技術研究所	P.43
生43	(独)農業生物資源研究所	P.31
生44-11	(独)農研機構　花き研究所	P.32
生44-12	(独)農研機構　果樹研究所	P.33
生44-09	(独)農研機構　近畿中国四国農業研究センター	P.32
生44-07	(独)農研機構　作物研究所	P.32
食02	(独)農研機構　食品総合研究所	P.34
人04	(独)農研機構　生物系特定産業技術研究支援センター	P.48
生44-15	(独)農研機構　生物系特定産業技術研究支援センター	P.33
生44-06	(独)農研機構　畜産草地研究所	P.32
生44-02	(独)農研機構　中央農業総合研究センター	P.31
生44-04	(独)農研機構　動物衛生研究所	P.31
生44-05	(独)農研機構　東北農業研究センター	P.31
生44-03	(独)農研機構　農村工学研究所	P.31
生44-08	(独)農研機構　北海道農業研究センター	P.32
生44-01	(独)農研機構　本部	P.31
生44-13	(独)農研機構　本部　(震災復興研究)	P.33
生44-10	(独)農研機構　野菜茶業研究所	P.32
生44-14	『農地の物理的除染技術体系グループ』(独)農研機構 中央農業総合研究センター・生物系特定産業技術研究支援センター・農村工学研究所・畜産草地研究所・東北農業研究センター・(独)農業環境技術研究所・福島県農業総合センター	P.33
人03	農林水産・食品産業技術振興協会	P.47
	は行	
食43	(学)八戸工業大学	P.40
地05	(国)弘前大学　地域共同研究センター	P.44
12A	(国)広島大学大学院生物圏科学研究科	P.49
地15	(有)へちま産業	P.46
食42	(株)ヘルスケアシステムズ(名古屋大学発ベンチャー)	P.40
	ま行	
食41	三重県農業研究所	P.40
地03	(国)三重大学 社会連携研究センター 伊賀研究拠点/伊賀市菜の花プロジェクト推進協議会	P.44
生15	(国)三重大学大学院生物資源学研究科	P.26
生36	宮城県農業・園芸総合研究所	P.29
食33	宮崎県農協果汁(株)/(国)宮崎大学/(学)崇城大学	P.39
食32	(国)宮崎大学	P.39
地08	NPO法人未利用資源事業化研究会	P.45
食28	(学)明星大学	P.38
生01	もみ殻循環プロジェクトチーム【富山県立大学　JAいみず野　射水市　(一社)地域環境資源センター　北陸ボートサービス(株)　協力:(学)早稲田大学】	P.24
	や行	
食26	(国)山口大学	P.38
生11	(国)山梨大学	P.25
12B	(有)ヤマ吉	P.49
食10	(株)雪国まいたけ/(学)新潟薬科大学/(学)中部大学	P.35
生24	ユビキタス環境制御システム研究会	P.28
	ら行	
地14	(株)LIKE TODO JAPAN製薬	P.46
生37	(独)理化学研究所	P.30
地07	(学)立命館大学	P.45
環02	(株)リバネス	P.41
地11	(国)琉球大学	P.45
	ら行	
生40	(国)和歌山大学	P.30

Agribusiness Creation Fair 2014

アグリビジネス創出フェア

OFFICIAL GUIDEBOOK

発 行 日　2014年11月12日

発 行 元　アグリビジネス創出フェア2014事務局（株式会社フジヤ内）
〒135-0061 東京都江東区豊洲5-6-36　SIA豊洲プライムスクエア3F
TEL: 03-3533-5223　　FAX: 03-5548-2838
E-mail: agribiz-ex@fujiya-net.co.jp

編集・制作　アグリビジネス創出フェア2014事務局

印　　刷　ホクエツ印刷株式会社

Create Agribusiness!

http://agribiz-fair.jp/

古紙100%再生紙